

様式1

大学等名	熊本学園大学
プログラム名	熊本学園大学数理・データサイエンス・AI教育プログラム (リテラシーレベル)

① 教育プログラムの修了要件	学部・学科によって、修了要件は相違しない
② 対象となる学部・学科名称	
③ プログラム履修必須の有無	令和6年度以前又は令和7年度より、履修することが必須のプログラムとして実施
④ 修了要件	必修科目である「数理・データサイエンス・AI入門」(2単位)を履修し、その単位を修得すること

⑤プログラム構成科目

必要最低科目数・単位数	1	科目
	2	単位

[illegible]

⑥ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		授業に含まれているスキルセットのキーワード
(1) 現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	・ビッグデータ、IoT、AI、生成AI「数理・データサイエンス・AI入門」 ・データ量の増加、計算機の処理性能の向上、AIの非連続的進化「数理・データサイエンス・AI入門」 ・第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会「数理・データサイエンス・AI入門」 ・人間の知的活動とAIの関係性「数理・データサイエンス・AI入門」 ・データを起点としたものの見方、人間の知的活動を起点としたものの見方「数理・データサイエンス・AI入門」
	1-6	・AI最新技術の活用例(深層生成モデル、生成AI)「数理・データサイエンス・AI入門」 ・AI等を活用した新しいビジネスモデル(商品のレコメンデーション)「数理・データサイエンス・AI入門」
(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	・調査データ、実験データ「数理・データサイエンス・AI入門」 ・構造化データ、非構造化データ(文章、画像/動画)「数理・データサイエンス・AI入門」 ・データのオープン化(オープンデータ)「数理・データサイエンス・AI入門」
	1-3	・データ・AI活用領域の広がりに生産、消費「数理・データサイエンス・AI入門」 ・製造、サービス「数理・データサイエンス・AI入門」 ・原因究明、判断支援「数理・データサイエンス・AI入門」
(3)様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	・データ解析: 予測、モデル化とシミュレーション・データ同化「数理・データサイエンス・AI入門」 ・データ可視化: 複合グラフ、2軸グラフ、多次元の可視化、関係性の可視化「数理・データサイエンス・AI入門」 ・非構造化データ処理: 言語処理「数理・データサイエンス・AI入門」 ・特化型AIと汎用AI、今のAIで出来ることと出来ないこと、AIとビッグデータ「数理・データサイエンス・AI入門」 ・認識技術、ルールベース、自動化技術「数理・データサイエンス・AI入門」 ・生成AIの活用「数理・データサイエンス・AI入門」
	1-5	・データサイエンスのサイクル(課題抽出と定式化、データの取得・管理・加工、探索的データ解析、データ解析と推論、結果の共有・伝達、課題解決に向けた提案)「数理・データサイエンス・AI入門」 ・流通、製造、サービス、ヘルスケアにおけるデータ・AI利活用事例紹介「数理・データサイエンス・AI入門」
(4) 活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	・倫理的・法的・社会的課題(ELSI: Ethical, Legal and Social Issues)「数理・データサイエンス・AI入門」 ・個人情報保護、EU一般データ保護規則(GDPR)、忘れられる権利、オプトアウト「数理・データサイエンス・AI入門」 ・データ倫理、データのねつ造、改ざん、盗用、プライバシー保護「数理・データサイエンス・AI入門」 ・AIサービスの責任論「数理・データサイエンス・AI入門」 ・データ・AI活用における負の事例紹介「数理・データサイエンス・AI入門」 ・生成AIの留意事項(ハルシネーションによる誤情報の生成)「数理・データサイエンス・AI入門」
	3-2	・情報セキュリティの3要素(機密性、完全性、可用性)「数理・データサイエンス・AI入門」 ・情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介「数理・データサイエンス・AI入門」 ・サイバーセキュリティ「数理・データサイエンス・AI入門」
(5)実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	・データの種類(量的変数、質的変数)「数理・データサイエンス・AI入門」 ・データの分布(ヒストグラム)と代表値(平均値、中央値、最頻値)「数理・データサイエンス・AI入門」 ・代表値の性質の違い(実社会では平均値＝最頻値でないことが多い)「数理・データサイエンス・AI入門」 ・データのばらつき(分散、標準偏差、偏差値)、外れ値「数理・データサイエンス・AI入門」 ・相関と因果(相関係数、擬似相関、交絡)「数理・データサイエンス・AI入門」 ・観測データに含まれる誤差の扱い「数理・データサイエンス・AI入門」 ・クロス集計表、分割表、相関係数行列、散布図行列「数理・データサイエンス・AI入門」
		・データ表現(棒グラフ、折線グラフ、散布図、箱ひげ図)「数理・データサイエンス・AI入門」 ・データの比較(条件をそろえた比較)「数理・データサイエンス・AI入門」 ・不適切なグラフ表現(チャートジャンク、不必要な視覚的要素)「数理・データサイエンス・AI入門」 ・優れた可視化事例の紹介(可視化することによって新たな気づきがあった事例など)「数理・データサイエンス・AI入門」
	2-2	・相手に的確かつ正確に情報を伝える技術や考え方「数理・データサイエンス・AI入門」 ・データの取得(機械判読可能なデータの作成・表記方法)「数理・データサイエンス・AI入門」 ・データの集計(和、平均)「数理・データサイエンス・AI入門」
		2-3 ・データの並び替え、ランキング「数理・データサイエンス・AI入門」 ・データ解析ツール(スプレッドシート、BIツール)「数理・データサイエンス・AI入門」 ・表形式のデータ(csv)「数理・データサイエンス・AI入門」

⑦ プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

1. 社会での活用: Society 5.0におけるデータサイエンス・AIの役割と実社会の活用事例を理解し、その重要性を説明できる。
2. 倫理と留意点: 個人情報、セキュリティ、ELSI、生成AIのリスクやバイアス等の留意事項を説明できる。
3. データ活用: 表計算ソフトによる可視化や、統計・機械学習の概念を用い、データを適切に読み解き説明ができる。
4. 学びの姿勢: 知識を自身の専門に関連付け、将来にわたり主体的に学び続ける姿勢を身に付けている。

リテラシーレベルのプログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度

令和7年度(和暦)

②履修者・修了者の実績(「学生数」「入学定員」「収容定員」は令和7年5月1日時点で記載)

[illegible]

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① 全学の教員数

(常勤)	154	人
(非常勤)	219	人

② プログラムの授業を教えている教員数(令和7年度)

11	人
----	---

③ プログラムの運営責任者

(責任者名)	得重 仁
(役職名)	熊本学園大学数理・データサイエンス・AI 教育推進委員会 委員長

④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)

(名称)	熊本学園大学数理・データサイエンス・AI 教育推進委員会
------	------------------------------

⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

(名称)	熊本学園大学数理・データサイエンス・AI 教育推進委員会規程
------	--------------------------------

⑥ 体制の目的

熊本学園大学数理・データサイエンス・AI教育推進委員会は、文部科学省が推進する「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」の趣旨に基づき、本学の数理・データサイエンス・AI教育を全学的に推進し、教育の質を不断に改善・向上させることを目的とする。全学生が基礎的なリテラシー及び応用能力を体系的に修得できるよう、以下の事項を所掌する。

1. 数理・データサイエンス・AI 教育の全学的な基本方針及び実施計画に関すること
2. 数理・データサイエンス・AI 教育の教育プログラム及びカリキュラムの企画、検討及び実施に関すること
3. 学内関係部署、学部等との連絡調整に関すること
4. 数理・データサイエンス・AI 教育の普及啓発及び広報に関すること
5. その他、数理・データサイエンス・AI 教育の推進に関し必要な事項

⑦ 具体的な構成員

熊本学園大学数理・データサイエンス・AI 教育推進委員会:

1. 教務部長(岩間 世界)
2. 「数理・データサイエンス・AI 入門」の担当者(得重 仁(商学部教授)、猪股 健太郎(商学部准教授)、春田 吉備彦(商学部教授)、大山 佳三(経済学部講師)、溝上 章志(経済学部シニア客員教授)、小山 明日香(社会福祉学部准教授)、須崎 清剛(商学部講師)、江口 智士(経済学部准教授)、林田 実(経済学部教授)、飯高 敏和(経済学部教授)、田中 晶子(外国語学部講師))
3. その他、委員長が必要と認めた者

事務所管:教務課

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画

令和7年度履修率	27%
令和8年度予定	50%
令和9年度予定	75%
令和10年度予定	95%
令和11年度予定	95%

具体的な計画

プログラムの構成科目は1年次対象の必修科目であるため、年次進行に合わせた構造的な履修範囲の拡大を確実に実行する。令和7年度の27%を起点とし、令和8年度に50%、令和9年度に75%と段階的に引き上げ、全学年が新課程生となる令和10年度には95%以上の全学普及を達成し、令和11年度以降もその水準を維持する計画である。具体的な施策として、令和7年度および令和8年度においては、全新入生に配布する「履修登録ガイド」での紹介やポータルシステムを用いた注意喚起を行い、未履修者を発生させない支援体制を構築し、以降も継続する。続く令和9年度および令和10年度には、教務課や就職課と連携し、キャリア教育の視点からデータサイエンス等の重要性を説く動機付けを行うことで、学修意欲の維持と履修率の向上を一体的に推進する。そして全学普及率を達成する令和11年度以降は、これまでの取組を継続・定着させることにより、休学者等を除く実質的な全学生の履修完了を確実なものとし、組織全体で教育水準の維持に努める。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

プログラムの構成科目は全学部対象の教養科目もしくは共通教育科目として必修化されており、全学生の受講機会が制度として保障されている。授業形態にLMSを用いたオンデマンド形式を採用することで、教室定員の制約や他科目との時間割の重複といった物理的・時間的な制約を完全に解消し、柔軟な受講環境を整備している。また、「数理・データサイエンス・AI教育推進委員会」による全学的な連絡・調整体制を確立し、組織として均質な教育の提供を行なっている。学修支援の面では、LMSやメールを通じた質疑応答体制を確立するとともに、e-キャンパスセンターの窓口による技術的フォローを実施している。さらに、自習用や貸出用のパソコンを提供することで、ICT環境の差異によらず、すべての学生が着実に学修を継続できる体制を整えている。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

全学生の円滑な履修登録と主体的な学修を促すために、重層的な周知活動を展開している。具体的には、全新入生に配布する「履修登録ガイド」に専用項目を設けて授業の内容や方法を紹介するなどにより、本科目の早期かつ計画的な履修を推奨している。加えて、ポータルシステムを通じて全新入生へ履修を促す通知を個別に配信している。これにより、履修登録漏れの防止と早期受講を徹底し、学生が迷うことなく学修を開始できる環境を整えている。これらの取組により、全学生が遅滞なく履修登録を行い、プログラムの趣旨を理解した上で主体的に学修に取り組める体制を確立している。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

全ての学生が円滑に単位を修得できるよう、多層的な学修サポート体制を構築している。オンデマンド形式の特性を活かした反復学習が可能な環境を提供するとともに、LMSやメールでの質疑応答やフィードバックを通じて、学生が自己の理解度を適宜確認できる環境を整備している。また、パソコン等の操作に不慣れな学生の技術的・心理的な障壁を取り除くため、e-キャンパスセンターの窓口において、スタッフの対面による技術サポートを提供している。さらに、科目の運営責任者を総合相談窓口とし、各回の担当教員と連携しながら組織として学生の困りごとを解決する体制を整えている。これらの多層的な支援策を講じることで、オンライン授業特有の不安を解消し、全学生が着実かつ継続して学修を遂行し、単位を修得できる環境を組織として提供している。

⑫ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

オンデマンド形式の授業形態に合わせ、学生が時間を問わず安心して学修を継続できるよう、多層的な指導・支援体制を整備している。まず、各回の担当教員がLMSやメールを通じて随時質問を受け付ける個別指導体制を確立している。そして、学生に教員の連絡先を一覧化して提供することで、学生が疑問点等を速やかに連絡できる環境を整えている。また、パソコンの操作や受講環境に不安を抱く学生に対しては、e-キャンパスセンターの窓口において、スタッフの対面による個別技術サポートを提供している。さらに、科目の運営責任者がLMSやメールで随時質問を受け付ける総合相談窓口となり、各回の担当教員と連携しながら組織として困りごとを解決していく体制を構築している。これらの指導と支援を連動させることで、学生の心理的・技術的な負担を軽減し、個々の習熟度に応じた着実な学修遂行を確保している。

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制

熊本学園大学数理・データサイエンス・AI 教育推進委員会

(責任者名) 得重 仁

(役職名) 熊本学園大学数理・データサイエンス・AI 教育推進委員会 委員長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点		自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点		
プログラムの履修・修得状況		LMSを活用し、各回の演習課題の提出状況や学習進捗を把握・管理している。学期末には「数理・データサイエンス・AI教育推進委員会」において、履修者数や単位修得率等の分析を通じた点検を実施している。現在、単位修得率の向上が課題であり、点検結果に基づいて次年度に向けた授業内容の改善策を策定・実行する体制を構築している。履修率・修得率の向上のため、未修得者に対してポータルシステム等を通じた履修を促すアナウンスを強化するとともに、学習支援が必要な受講生への組織的なフォローアップ体制の構築を進める。これらの取組により、全学的な学修支援の質の向上を図る。
学修成果		15回にわたる段階的な演習課題やレポート評価を通じて、Excel操作、統計的思考、AIリテラシー等のスキルセットの修得状況を確認している。各回の課題成績に基づいて、シラバスに掲げた到達目標に対する達成度を測定している。結果を科目担当教員と共有することで、受講生が基礎能力を確実に身に付けているかを確認する体制を整えている。今後は、修得したスキルが他の専門科目でどのように活用されているかを把握する仕組みを導入し、学部間での情報共有を強化することで、プログラムが学力向上に寄与しているかを多角的に評価する。これにより、学修成果のさらなる向上を図る。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度		全受講生を対象として学期末に授業アンケートを実施し、回答から得られる受講生の理解状況や、特に自由記述欄に寄せられた具体的な要望や意見を、学修上の課題を把握するための貴重な情報として活用している。科目担当教員が個々の意見から「理解が不十分な箇所」を抽出し、オンデマンド教材の解説手順の見直しや教材改善に反映させている。全学必修で受講生が多いため、個別の対面支援を補完する取組として、共通の課題に基づいて教材自体の「分かりやすさ」を向上させるようにしている。今後は、得られたフィードバックをより迅速に教育内容へ反映させる仕組みを委員会において継続的に検討し、教育効果の向上を図っていく。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度		受講生を対象としたアンケート等により、他学生への推奨度を調査するとともに、自由記述による定性的データを収集・分析する体制の整備を検討している。得られた受講生の具体的な意見や学修実感については、今後、専用Webサイトやガイダンス資料、初回講義の導入時に紹介することで、履修に対する不安を解消し、前向きに学ぼうとする意欲を高める方針である。また、分析結果を委員会で共有し、推奨度の向上を阻害する要因の特定や教材改善に反映させるなど、組織的なPDCAサイクルの確立を図る。学生視点の情報を継続的に発信する仕組みを構築することで、全学的な受講意欲の向上と、プログラムの価値浸透を組織的に推進する。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況		プログラム開始初年度において、1年次全学必修科目としての配置により、約93%の履修率を達成しており、計画は概ね順調に進展している。今後は、未履修者に対しても確実に情報が届くよう、ポータルシステムを通じた個別のアナウンスを強化し、全学的な履修率のさらなる向上を図る。また、学生の履修意欲をより高めるため、教務課・就職課と連携したキャリア教育の視点からの動機付けや、受講生の肯定的な声を活用した広報活動を展開し、学修への不安解消と意義の浸透を推進する。初年度の運用実績と履修行動の分析に基づいて、次年度に向けて全学生が主体的かつ早期に履修を開始できるようなガイダンス体制の拡充を順次実装していく。

自己点検・評価の視点		自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点		
	教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	学外からの視点に基づき、教育プログラム修了者の進路や実社会での活躍状況を詳細に把握するため、以下の体制整備を検討する。具体的には、教務課・就職課と密接に連携し、卒業時アンケートや進路届等の学内データから、データサイエンス関連職種への就業実績を正確に抽出・分析する体制を整える。あわせて、卒業生に対する追跡調査や採用企業へのアンケート実施を通じて、修了者の活躍状況や産業界による客観的な評価を継続的に収集・把握する具体的な手法を検討する。これにより、修了者の進路や実社会での貢献度を多角的に可視化する体制を確立し、収集したデータを教育プログラムのさらなる改善へと反映させる仕組みを構築していく。
	産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	学外からの視点に基づき教育プログラムの質を向上させるため、以下の体制の整備を検討する。現在は「数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアム 九州・沖縄ブロック会議」等への出席を通じた情報収集や、経済産業省九州経済産業局提供の事例動画を用いた教材活用を行っている。今後はこれらに加え、地域の産業界や外部有識者から教育内容や指導手法への意見を直接聴取する機会を設け、より組織的に外部視点を取り入れる。これにより、生成AI等の技術進展や急速に変化する社会ニーズを、教材の解説手順や演習内容の更新といった具体的なプログラム改善に柔軟かつ確実に反映させる体制の構築を図る。
	数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	受講生の主体的な学修意欲を喚起するため、数理・データサイエンス・AIを学修する楽しさや意義を伝える動機付けに注力している。具体的には、経済産業省九州経済産業局提供の事例動画を活用し、実社会の課題解決に直結する現状を提示している。また、生成AI等の最新技術の動向や受講生にとって身近な活用事例を教材に採用することで、社会の急速な変化を自身の課題として捉える意識の醸成を図っている。さらに、AI構築等の体験型演習を通じて技術への親近感を高め、知的好奇心を刺激することで、単なる知識の修得に留まらない主体的な学修を継続するための基盤を構築している。
	内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること ※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載	LMSの課題提出状況やアンケート結果を多角的に分析し、受講生の理解が滞りやすい統計手法や操作を中心に、教材の継続的な改訂を実施する。オンデマンド形式の授業形態により、個々の習熟度に応じた反復学習を可能にするとともに、学期末には「数理・データサイエンス・AI教育推進委員会」において運営の振り返りを行う。そこで共有された課題や受講生の反応を次年度の教材構成へ反映させるなど、点検・評価体制を運用している。あわせて、技術進展に伴う講義内容の更新や産業界ニーズの収集を継続することで、教育水準の維持・向上と受講生の理解しやすさを両立した授業運営を組織的に推進する。

科目名	数理・データサイエンス・AI入門 (遠)(学科/商ホ)		
担当教員	得重 仁（トクシゲ ヒトシ）、猪股 健太郎（イノマタ ケンタロウ）、春田 吉備彦（ハルタ キビヒコ）、坂田 直樹（サカタ ナオキ）、大山 佳三（オオヤマ ケイゾウ）、溝上 章志（ミゾカミ ショウシ）、小山 明日香（コヤマ アスカ）、須崎 清剛（スザキ キョウタカ）、江口 智士（エグチ サトシ）、林田 実（ハヤシダ ミノル）、飯高 敏和（イイタカ トシカズ）	単位数	2単位
開講期間	秋学期	授業形態	講義
使用言語	日本語	開講学年	1 年次のみ
開講学科・カリキュラムコード※	全KS1		
資格科目			
授業概要	本科目は、Society 5.0時代における経済発展と社会課題解決の両立を目指し、人々がより豊かで持続可能な生活を送るための基盤となる、数理・データサイエンス、AIの基礎的な知識と技術を修得する入門科目です。Society 5.0時代は、サイバー空間とフィジカル空間の融合、AIやIoTの高度な活用、データ駆動による社会の最適化、そして人間中心の社会設計といった特徴を持ちます。本科目では、このような時代に対応できるようにデータサイエンスやAIが社会でどのように活用されているのかを具体的な事例等を通じて、重要性を体感していただきます。さらに、本科目を通して得られた興味関心をきっかけに、大学生のうちに数理・データサイエンス、AIに関する知識や技術を深め、将来にわたって学び続ける意欲を高めていただきたいと思います。		
到達目標	- 数理・データサイエンス・AIが、実社会で様々な活用されていることを理解して、説明ができる。 - 数理・データサイエンス・AIを利用するには、倫理的な問題、個人情報の取り扱い、情報セキュリティ等を考慮する必要があることを理解して、説明ができる。 - 表計算ソフト（Excel等）を用いて、データを適切に整形し、読み解くことができる。そして、図表等を用いて説明をすることができる。		

カリキュラム学科 2026年度 春学期 学部 商学部 商

全学DP		関与度
1	知識・理解	
2	コミュニケーションスキル	
3	数量的スキル	○
4	情報リテラシー	◎
5	論理的思考力と問題解決力	
6	自主・自律、チームワーク、リーダーシップ	
7	倫理観、社会的責任	
8	生涯学習力	
9	総合的学習力	

授業内容	
第1回	ガイダンス：得重 本科目は、オンデマンド形式の遠隔授業として実施されます。大学の自習コーナー・図書館に設置されたパソコンの利用方法についての説明を行います。また、個人のパソコンの環境の確認すべき点についても説明を行います。そして、受講上のルール（授業資料の配布や公開期間、課題の提示方法や提出期限、欠席届の提出方法）について説明を行います。その後、経済産業省九州経済産業局提供による「社会のデータ・AI等活用事例動画」を視聴し、学修内容のイメージを獲得します。 事前学修：新聞や書籍，ネット動画などで，データサイエンスとAIの調査を行っておくこと。 事後学修：授業に視聴しなかった上述の動画を、全て視聴すること。
第2回	データサイエンスの役割：猪股 データサイエンスの役割について理解するため，以下のことを学びます。 - 社会で起きている変化(ビッグデータ・IoTなど) - データの活用領域や分析方法 - 最新動向(生成AIなど) 事前学修：教科書の第1章の1.1データサイエンスの役割をよく読んでおくこと。 事後学修：課題を提出すること。

第3回	データサイエンスと情報倫理：春田、得重 春田担当分： 新規に開発された技術が、社会で広く使われるようになるまでには様々な課題を解決する必要がある。社会に技術的な課題以外にも法律や倫理やその技術が受け入れられるか等も検討しなくてはならない。 ELSIとは、「ethical, legal and social issues」の略で、新たに開発された技術が社会で実用化する過程で生じる倫理的・法的・社会的な問題のことである。この講義では、データやAIを扱う上でのELSIについて学習し、人間の自分自身に関する医療情報などのデータを他者からコントロールする権利やデータそのものに係る倫理、その他データを守るうえでの留意点を段階的に学習していく。 1.データ・AIを扱う上での「倫理的・法的・社会的課題(ELSI)」 2.個人自身に関するデータのコントロール 3.データ倫理 4.データを守るうえでの留意点について 事前学習:教科書の該当部分をあらかじめ読んでおくこと 事後学習:授業で学んだ内容について出題したレポート課題を提出すること 得重担当分： データ・AIは、モラル・倫理・リスク・脅威の理解を深めた上で、適切に利用することが重要です。リスク・脅威からデータを守るためには、情報セキュリティの3要素（機密性、完全性、可用性）を理解し、暗号化などの技術を活用することが不可欠です。また、サイバー攻撃などの脅威からデータを守るためには、情報セキュリティへの意識を高め、常に最新のセキュリティ対策を講じる必要があります。本授業では、以下の内容について学びます。 - 情報セキュリティの3要素（機密性、完全性、可用性） - 匿名加工情報、暗号化と復号、ユーザ認証と、パスワード、アクセス制御、悪意ある情報搾取 - 情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介 - サイバーセキュリティ 事前学修：教科書の「第1章 現代社会におけるデータサイエンス」→「1.2 データサイエンスと情報倫理」を読んでおくこと。 事後学修：授業時に指定する情報処理推進機構の「映像で知る情報セキュリティ」動画を視聴し、理解を深めること。
第4回	データの取得と管理：坂田 分析の対象とするデータを取得／管理する方法を学びます。具体的には、以下の通りです。 - データの種類と収集の方法 - データ分析の流れ／意義 - オンライン上のデータの取得方法 - 自身でデータを収集する方法 事前学修：教科書の第1章1.3「データ分析のためのデータの取得と管理」を読んでおくこと。 事後学修：実際にオンライン上のデータを取得して試みる。
第5回	度数分布表とヒストグラム：大山 連続的な量的データの全体像を表すツールについて学び、エクセルで作成します。 - 度数分布表のポイントとエクセルを使っでの作成 - ヒストグラムのポイントとエクセルを使っでの作成 - 箱ひげ図のポイントとエクセルを使っでの作成 事前学修：教科書の第2章2.1で、ヒストグラムと箱ひげ図について書かれているところを読んでくること。 事後学修：度数分布表とヒストグラムを作成する課題を出します。第6講で使います。
第6回	データの代表値：大山 データの特徴を示す値である代表値について、その考え方と算出方法、グラフとのかかわりを学びます。 - 主な代表値（平均値、中央値、最頻値の）考え方と算出方法 - 代表値をヒストグラムや箱ひげ図から読み取る 事前学修：教科書の第2章2.1の平均値について書かれているところを読んでくること。 事後学修：提示されたデータの代表値を計算すること。
第7回	散布図と相関係数：溝上 複数データ間の相関性と因果関係を分析するための概念と統計的手法を学びます。具体的には下記です。 - 相関係数の意味することとその計算法 - 相関係数と因果関係、および因果推論 さらに、実際のデータに対して、Excelの分析ツールを使って、複数のデータの相関図を描く、相関係数の計算をしてみます。 事前学修：教科書のpp.56～62を通読しておくこと。 事後学修：Excelを使って実際の2種のデータの散布図を描き、それらの相関係数を計算して試みる。

第8回	回帰直線：溝上 複数データ間の相関性と因果関係を分析するための統計的推定手法を学びます。具体的には下記です。 - 統計的推定法の基礎である回帰分析の概説 - 回帰係数を推定する最小二乗法の理論の理解 - 回帰分析の統計的有用性の検証法の概説 さらに、実際のデータに対して、Excelの分析ツールを使って回帰分析を行うと同時に、推定値と実績値との散布図を描いてみます。最後に、機械学習による回帰分析の方法と統計的推定法との違いについて解説します。 事前学修：教科書のpp.62～66を通読しておくこと。 事後学修：Excelを使って実際の2種のデータ間の回帰分析を行い、結果の解釈を行ってみること。
第9回	適切なグラフの使い方：小山 情報やデータをグラフを用いて視覚的にわかりやすく表現する方法を理解するために、以下のことを学びます。 - データ表現（棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ、帯グラフ、集合棒グラフなど） - 不適切なグラフ表現（チャートジャンク、不必要な視覚的要素） - 的確かつ正確に情報を伝える技術 事前学修：教科書の第2章2.4.4を読んでおくこと。 事後学修：提示されたデータを用いてExcelで実際にグラフを作成すること。
第10回	条件付き確率：須崎 データ分析手法の1つである「ベイズ推論」の基礎を理解するため、 - 確率および条件付き確率の考え方、用語 - ベイズの定理 を学びます。 事前学修：教科書の第3章3.3「ベイズ推論」を読んでおくこと。 事後学修：教科書の当内容と授業資料をよく復習し、課題を提出すること。
第11回	ベイズ推論の応用：須崎 前回学んだベイズの定理を復習・補足したあと、応用として - 選び出した製品が不良品であった場合、その製品を作った機械はどれか - 受信したメールに「無料ご招待」、「当選」という言葉が含まれていた場合、それが迷惑メールかどうか を推測する方法を学びます。 事前学修：再度教科書の第3章3.3「ベイズ推論」と、前回の授業資料を読んでおくこと。 事後学修：教科書の当内容と授業資料をよく復習し、課題を提出すること。
第12回	クラスタリングの方法：江口 日常生活の中で「このレストランはあのカフェと雰囲気がどこか似ているな」と感じたり、「あのコメンテーターとこのYouTuberは似たようなこと言っているな」と思ったりすることがあると思います。このように、与えられたデータに対して似たもの同士でグループ分けをする数学的手続きを「クラスタリング」と呼びます。この回では、以下のことを学びます。 「似ている」ことを定量的に記述する際に必要となる「距離」や「類似度」について - 階層的クラスタリングおよび非階層的クラスタリングの概要 - 非階層的クラスタリングの手法のひとつである「k平均法」の具体的な計算手続きについて 事前学修：教科書の第3章3.5節をよく読む。 事後学修：提示されたデータをk平均法を用いてクラスタリングする。
第13回	クロス集計と決定木分析：林田 クーポン配布が、ある商品の販売に対して正の効果を持っているか否かを知りたい。あるいは、タイタニック号が沈没する際、乗客の生存に関与した要因は何かを探りたい。このような問題を分析する技術を紹介します。 - クロス集計 - 決定木 - 条件付き分布 事前学修：教科書の79、97-100頁を通読すること。 事後学修：実際のデータを使ってクロス表と決定木を作ってみること。

第14回	機械学習と人工知能：江口	
	人工知能(AI)あるいは機械学習とは、コンピュータ自身にデータの中から規則性を発見させ、人間のような判断をさせる技術の総称です。従って、データがなければ何も始まりません。この回では、以下のことを学びます。 ・ 近年AIが急速な発展を遂げている背景 ・ 最適化問題と機械学習の関係 ・ ニューラル・ネットワークの概要 ・ 機械学習モデル作成の流れ：(1)教師データの収集、(2)モデルの訓練、(3)モデルの評価（Google Teachable Machineを用いた実習） ・ AI技術の倫理的課題（教師データの偏りに起因する差別問題や生成AIを用いたフェイク・ニュースの拡散など） 事前学修：教科書の第1章1.2節、第3章3.7節および3.8節をよく読む。 事後学修：Google Teachable Machineを用いてオリジナルの機械学習モデルを作成する。	
第15回	その他活用例：飯高	
	データサイエンスの応用事例について、特にAIの導入とその問題点、さらにはその対策についてを中心に論じる。AIの不適切出力の問題とそれについての技術的対応の仕組みを解説すると同時に、教科書の5章の中の関連する事例を中心に解説する。 ・ テキストに従った事例解説 ・ AIの不適切出力の問題の概要を解説 ・ 不適切出力の対策を解説 事前学修：教科書の第五章を通読する。 事後学修：実際のAIサービスとAPIの仕様を各自で確認し、興味があれば授業で学んだことを参考に、自分でカスタマイズしてみる。	
事前事後学修(具体的な内容及び必要な時間)		授業前に、教科書の該当部分を読んでおくこと。授業後は、小テスト・課題の解説と、教科書・授業資料により復習を行うこと。事前・事後学修には、それぞれ2時間程度の時間が必要となる。
試験や課題に対するフィードバック方法		各回の授業で演習やレポートの課題についての解説を、提出期間後にmanabaにて行う。
アクティブ・ラーニング		その他の能動的学修
実務経験を生かした具体的な授業内容		
学修支援システムLMS（manaba）の活用		manabaでの小テストの実施／manabaでのレポートの回収／manabaに講義資料・コンテンツの公開／その他manabaの機能の活用
受講上の注意点		・ 各回の授業資料は、学修支援システムmanaba（lms.kumagaku.ac.jp）の「コースコンテンツ」→「授業資料」→「第〇回」（学年暦の金曜日の回数に沿って）にて午前9:00に公開を行う。例えば、第1回は、9月19日午前9:00となる。公開期間は、授業資料公開時間から2026年2月14日までとする。 ・ 各回の課題の提出期間は、授業資料公開時間から1週間とする。例えば、授業資料公開が9月19日午前9:00の場合は、提出期限は9月26日午前9:00となる。提出先は担当回の教員の指示に従うこと。 ・ 授業内容やレポートに関する質問は担当回の教員に、それ以外の質問は本科目の運営取りまとめの得重にメールで行うこと。教員のメールアドレスは、e-キャンパスセンターのメールアドレス一覧より取得すること。 ・ 出欠は、manabaへの毎回の課題の提出により確認を行う。ただし、授業資料の閲覧履歴が認められない場合は、欠席として取り扱う。 ・ 病気等のやむを得ない理由により欠席（授業資料の閲覧ができない、課題の提出が間に合わない）場合は、manabaの「アンケート」→「第〇回：欠席届」に、欠席理由を詳述し、個人情報を墨消した根拠資料（病院の領収書、事故証明書など）をファイルで提出すること。原則、各回の欠席届の提出期間は、課題の提出期間とする。根拠資料が用意できない場合や、やむを得ない理由で提出期間内に提出できない場合は、担当回の教員にメールで秋学期期間中に相談を行うこと。 ・ パソコンの技術的なサポートが必要な場合は、e-キャンパスセンターカウンター（14号館4階）に相談をすること。また、e-キャンパスセンターカウンター横の自習コーナーには、自習用パソコンや持ち込みパソコン用のテーブル・コンセントが設置されている。
教科書		竹村彰通，姫野哲人 ほか編，データサイエンス大系 データサイエンス入門 第3版，学術図書出版社
参考文献		吉岡剛志等著，[改訂新版] AIデータサイエンスリテラシー入門，技術評論社
成績評価方法		評価割合
A.定期試験		0%
B.レポート		0%
C.小テスト		0%
D.発表(プレゼンテーション等)		0%
E.平常点・授業への貢献度		0%
F.その他		100%

成績評価についての補足	各回の授業で演習やレポートの課題を課す。それらは「100点/15回 = 100/15点」満点で、その回の担当教員が内容に応じた採点を行う。それらの合計点が最終成績となる。課題を提出すれば100/15点が得られるわけではない。
担当教員との連絡方法	大学アカウントのEメール（@kumagakuのアドレス）
連絡方法（その他）	
添付ファイル	

※カリキュラムコードは、各学科の群（分野）、必修か選択、開設学年を示しています。詳細は履修登録ガイドを参照してください。

科目名	数理・データサイエンス・AI入門 (遠)(学科/経リ)		
担当教員	得重 仁（トクシゲ ヒトシ）、猪股 健太郎（イノマタ ケンタロウ）、春田 吉備彦（ハルタ キビヒコ）、坂田 直樹（サカタ ナオキ）、大山 佳三（オオヤマ ケイゾウ）、溝上 章志（ミゾカミ ショウシ）、小山 明日香（コヤマ アスカ）、須崎 清剛（スザキ キョウタカ）、江口 智士（エグチ サトシ）、林田 実（ハヤシダ ミノル）、飯高 敏和（イイタカ トシカズ）	単位数	2単位
開講期間	秋学期	授業形態	講義
使用言語	日本語	開講学年	1 年次のみ
開講学科・カリキュラムコード※	全KS1		
資格科目			
授業概要	本科目は、Society 5.0時代における経済発展と社会課題解決の両立を目指し、人々がより豊かで持続可能な生活を送るための基盤となる、数理・データサイエンス、AIの基礎的な知識と技術を修得する入門科目です。Society 5.0時代は、サイバー空間とフィジカル空間の融合、AIやIoTの高度な活用、データ駆動による社会の最適化、そして人間中心の社会設計といった特徴を持ちます。本科目では、このような時代に対応できるようにデータサイエンスやAIが社会でどのように活用されているのかを具体的な事例等を通じて、重要性を体感していただきます。さらに、本科目を通して得られた興味関心をきっかけに、大学生のうちに数理・データサイエンス、AIに関する知識や技術を深め、将来にわたって学び続ける意欲を高めていただきたいと思います。		
到達目標	- 数理・データサイエンス・AIが、実社会で様々な活用されていることを理解して、説明ができる。 - 数理・データサイエンス・AIを利用するには、倫理的な問題、個人情報の取り扱い、情報セキュリティ等を考慮する必要があることを理解して、説明ができる。 - 表計算ソフト（Excel等）を用いて、データを適切に整形し、読み解くことができる。そして、図表等を用いて説明をすることができ		

カリキュラム学科 2026年度 春学期 学部 商学部 商

全学DP		関与度
1	知識・理解	
2	コミュニケーションスキル	
3	数量的スキル	○
4	情報リテラシー	◎
5	論理的思考力と問題解決力	
6	自主・自律、チームワーク、リーダーシップ	
7	倫理観、社会的責任	
8	生涯学習力	
9	総合的学習力	

授業内容

第1回	ガイダンス：得重 本科目は、オンデマンド形式の遠隔授業として実施されます。大学の自習コーナー・図書館に設置されたパソコンの利用方法についての説明を行います。また、個人のパソコンの環境の確認すべき点についても説明を行います。そして、受講上のルール（授業資料の配布や公開期間、課題の提示方法や提出期限、欠席届の提出方法）について説明を行います。その後、経済産業省九州経済産業局提供による「社会のデータ・AI等活用事例動画」を視聴し、学修内容のイメージを獲得します。 事前学修：新聞や書籍，ネット動画などで，データサイエンスとAIの調査を行っておくこと。 事後学修：授業に視聴しなかった上述の動画を、全て視聴すること。
第2回	データサイエンスの役割：猪股 データサイエンスの役割について理解するため，以下のことを学びます。 - 社会で起きている変化(ビッグデータ・IoTなど) - データの活用領域や分析方法 - 最新動向(生成AIなど) 事前学修：教科書の第1章の1.1データサイエンスの役割をよく読んでおくこと。 事後学修：課題を提出すること。

第3回	データサイエンスと情報倫理：春田、得重 春田担当分： 新規に開発された技術が、社会で広く使われるようになるまでには様々な課題を解決する必要がある。社会に技術的な課題以外にも法律や倫理やその技術が受け入れられるか等も検討しなくてはならない。 ELSIとは、「ethical, legal and social issues」の略で、新たに開発された技術が社会で実用化する過程で生じる倫理的・法的・社会的な問題のことである。この講義では、データやAIを扱う上でのELSIについて学習し、人間の自分自身に関する医療情報などのデータを他者からコントロールする権利やデータそのものに係る倫理、その他データを守るうえでの留意点を段階的に学習していく。 1.データ・AIを扱う上での「倫理的・法的・社会的課題(ELSI)」 2.個人自身に関するデータのコントロール 3.データ倫理 4.データを守るうえでの留意点について 事前学習:教科書の該当部分をあらかじめ読んでおくこと 事後学習:授業で学んだ内容について出題したレポート課題を提出すること 得重担当分： データ・AIは、モラル・倫理・リスク・脅威の理解を深めた上で、適切に利用することが重要です。リスク・脅威からデータを守るためには、情報セキュリティの3要素（機密性、完全性、可用性）を理解し、暗号化などの技術を活用することが不可欠です。また、サイバー攻撃などの脅威からデータを守るためには、情報セキュリティへの意識を高め、常に最新のセキュリティ対策を講じる必要があります。本授業では、以下の内容について学びます。 - 情報セキュリティの3要素（機密性、完全性、可用性） - 匿名加工情報、暗号化と復号、ユーザ認証と、パスワード、アクセス制御、悪意ある情報搾取 - 情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介 - サイバーセキュリティ 事前学修：教科書の「第1章 現代社会におけるデータサイエンス」→「1.2 データサイエンスと情報倫理」を読んでおくこと。 事後学修：授業時に指定する情報処理推進機構の「映像で知る情報セキュリティ」動画を視聴し、理解を深めること。
第4回	データの取得と管理：坂田 分析の対象とするデータを取得／管理する方法を学びます。具体的には、以下の通りです。 - データの種類と収集の方法 - データ分析の流れ／意義 - オンライン上のデータの取得方法 - 自身でデータを収集する方法 事前学修：教科書の第1章1.3「データ分析のためのデータの取得と管理」を読んでおくこと。 事後学修：実際にオンライン上のデータを取得してみる。
第5回	度数分布表とヒストグラム：大山 連続的な量的データの全体像を表すツールについて学び、エクセルで作成します。 - 度数分布表のポイントとエクセルを使っでの作成 - ヒストグラムのポイントとエクセルを使っでの作成 - 箱ひげ図のポイントとエクセルを使っでの作成 事前学修：教科書の第2章2.1で、ヒストグラムと箱ひげ図について書かれているところを読んでくること。 事後学修：度数分布表とヒストグラムを作成する課題を出します。第6講で使います。
第6回	データの代表値：大山 データの特徴を示す値である代表値について、その考え方と算出方法、グラフとのかかわりを学びます。 - 主な代表値（平均値、中央値、最頻値の）考え方と算出方法 - 代表値をヒストグラムや箱ひげ図から読み取る 事前学修：教科書の第2章2.1の平均値について書かれているところを読んでくること。 事後学修：提示されたデータの代表値を計算すること。
第7回	散布図と相関係数：溝上 複数データ間の相関性と因果関係を分析するための概念と統計的手法を学びます。具体的には下記です。 - 相関係数の意味することとその計算法 - 相関係数と因果関係、および因果推論 さらに、実際のデータに対して、Excelの分析ツールを使って、複数のデータの相関図を描く、相関係数の計算をしてみます。 事前学修：教科書のpp.56～62を通読しておくこと。 事後学修：Excelを使って実際の2種のデータの散布図を描き、それらの相関係数を計算してみる。

第8回	回帰直線：溝上 複数データ間の相関性と因果関係を分析するための統計的推定手法を学びます。具体的には下記です。 - 統計的推定法の基礎である回帰分析の概説 - 回帰係数を推定する最小二乗法の理論の理解 - 回帰分析の統計的有用性の検証法の概説 さらに、実際のデータに対して、Excelの分析ツールを使って回帰分析を行うと同時に、推定値と実績値との散布図を描いてみます。最後に、機械学習による回帰分析の方法と統計的推定法との違いについて解説します。 事前学修：教科書のpp.62～66を通読しておくこと。 事後学修：Excelを使って実際の2種のデータ間の回帰分析を行い、結果の解釈を行ってみること。
第9回	適切なグラフの使い方：小山 情報やデータをグラフを用いて視覚的にわかりやすく表現する方法を理解するために、以下のことを学びます。 - データ表現（棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ、帯グラフ、集合棒グラフなど） - 不適切なグラフ表現（チャートジャンク、不必要な視覚的要素） - 的確かつ正確に情報を伝える技術 事前学修：教科書の第2章2.4.4を読んでおくこと。 事後学修：提示されたデータを用いてExcelで実際にグラフを作成すること。
第10回	条件付き確率：須崎 データ分析手法の1つである「ベイズ推論」の基礎を理解するため、 - 確率および条件付き確率の考え方、用語 - ベイズの定理 を学びます。 事前学修：教科書の第3章3.3「ベイズ推論」を読んでおくこと。 事後学修：教科書の当内容と授業資料をよく復習し、課題を提出すること。
第11回	ベイズ推論の応用：須崎 前回学んだベイズの定理を復習・補足したあと、応用として - 選び出した製品が不良品であった場合、その製品を作った機械はどれか - 受信したメールに「無料ご招待」、「当選」という言葉が含まれていた場合、それが迷惑メールかどうか を推測する方法を学びます。 事前学修：再度教科書の第3章3.3「ベイズ推論」と、前回の授業資料を読んでおくこと。 事後学修：教科書の当内容と授業資料をよく復習し、課題を提出すること。
第12回	クラスタリングの方法：江口 日常生活の中で「このレストランはあのカフェと雰囲気がどこか似ているな」と感じたり、「あのコメンテーターとこのYouTuberは似たようなこと言っているな」と思ったりすることがあると思います。このように、与えられたデータに対して似たもの同士でグループ分けをする数学的手続きを「クラスタリング」と呼びます。この回では、以下のことを学びます。 「似ている」ことを定量的に記述する際に必要となる「距離」や「類似度」について - 階層的クラスタリングおよび非階層的クラスタリングの概要 - 非階層的クラスタリングの手法のひとつである「k平均法」の具体的な計算手続きについて 事前学修：教科書の第3章3.5節をよく読む。 事後学修：提示されたデータをk平均法を用いてクラスタリングする。
第13回	クロス集計と決定木分析：林田 クーポン配布が、ある商品の販売に対して正の効果を持っているか否かを知りたい。あるいは、タイタニック号が沈没する際、乗客の生存に関与した要因は何かを探りたい。このような問題を分析する技術を紹介します。 - クロス集計 - 決定木 - 条件付き分布 事前学修：教科書の79、97-100頁を通読すること。 事後学修：実際のデータを使ってクロス表と決定木を作ってみること。

第14回	機械学習と人工知能：江口	
	人工知能(AI)あるいは機械学習とは、コンピュータ自身にデータの中から規則性を発見させ、人間のような判断をさせる技術の総称です。従って、データがなければ何も始まりません。この回では、以下のことを学びます。 ・ 近年AIが急速な発展を遂げている背景 ・ 最適化問題と機械学習の関係 ・ ニューラル・ネットワークの概要 ・ 機械学習モデル作成の流れ：(1)教師データの収集、(2)モデルの訓練、(3)モデルの評価（Google Teachable Machineを用いた実習） ・ AI技術の倫理的課題（教師データの偏りに起因する差別問題や生成AIを用いたフェイク・ニュースの拡散など） 事前学修：教科書の第1章1.2節、第3章3.7節および3.8節をよく読む。 事後学修：Google Teachable Machineを用いてオリジナルの機械学習モデルを作成する。	
第15回	その他活用例：飯高	
	データサイエンスの応用事例について、特にAIの導入とその問題点、さらにはその対策についてを中心に論じる。AIの不適切出力の問題とそれについての技術的対応の仕組みを解説すると同時に、教科書の5章の中の関連する事例を中心に解説する。 ・ テキストに従った事例解説 ・ AIの不適切出力の問題の概要を解説 ・ 不適切出力の対策を解説 事前学修：教科書の第五章を通読する。 事後学修：実際のAIサービスとAPIの仕様を各自で確認し、興味があれば授業で学んだことを参考に、自分でカスタマイズしてみる。	
事前事後学修(具体的な内容及び必要な時間)		授業前に、教科書の該当部分を読んでおくこと。授業後は、小テスト・課題の解説と、教科書・授業資料により復習を行うこと。事前・事後学修には、それぞれ2時間程度の時間が必要となる。
試験や課題に対するフィードバック方法		各回の授業で演習やレポートの課題についての解説を、提出期間後にmanabaにて行う。
アクティブ・ラーニング		その他の能動的学修
実務経験を生かした具体的な授業内容		
学修支援システムLMS（manaba）の活用		manabaでの小テストの実施／manabaでのレポートの回収／manabaに講義資料・コンテンツの公開／その他manabaの機能の活用
受講上の注意点		・ 各回の授業資料は、学修支援システムmanaba（lms.kumagaku.ac.jp）の「コースコンテンツ」→「授業資料」→「第〇回」（学年暦の金曜日の回数に沿って）にて午前9:00に公開を行う。例えば、第1回は、9月19日午前9:00となる。公開期間は、授業資料公開時間から2026年2月14日までとする。 ・ 各回の課題の提出期間は、授業資料公開時間から1週間とする。例えば、授業資料公開が9月19日午前9:00の場合は、提出期限は9月26日午前9:00となる。提出先は担当回の教員の指示に従うこと。 ・ 授業内容やレポートに関する質問は担当回の教員に、それ以外の質問は本科目の運営取りまとめの得重にメールで行うこと。教員のメールアドレスは、e-キャンパスセンターのメールアドレス一覧より取得すること。 ・ 出欠は、manabaへの毎回の課題の提出により確認を行う。ただし、授業資料の閲覧履歴が認められない場合は、欠席として取り扱う。 ・ 病気等のやむを得ない理由により欠席（授業資料の閲覧ができない、課題の提出が間に合わない）場合は、manabaの「アンケート」→「第〇回：欠席届」に、欠席理由を詳述し、個人情報を墨消した根拠資料（病院の領収書、事故証明書など）をファイルで提出すること。原則、各回の欠席届の提出期間は、課題の提出期間とする。根拠資料が用意できない場合や、やむを得ない理由で提出期間内に提出できない場合は、担当回の教員にメールで秋学期期間中に相談を行うこと。 ・ パソコンの技術的なサポートが必要な場合は、e-キャンパスセンターカウンター（14号館4階）に相談をすること。また、e-キャンパスセンターカウンター横の自習コーナーには、自習用パソコンや持ち込みパソコン用のテーブル・コンセントが設置されている。
教科書		竹村彰通，姫野哲人 ほか編，データサイエンス大系 データサイエンス入門 第3版，学術図書出版社
参考文献		吉岡剛志等著，[改訂新版] AIデータサイエンスリテラシー入門，技術評論社
成績評価方法		評価割合
A.定期試験		0%
B.レポート		0%
C.小テスト		0%
D.発表(プレゼンテーション等)		0%
E.平常点・授業への貢献度		0%
F.その他		100%

成績評価についての補足	各回の授業で演習やレポートの課題を課す。それらは「100点/15回 = 100/15点」満点で、その回の担当教員が内容に応じた採点を行う。それらの合計点が最終成績となる。課題を提出すれば100/15点が得られるわけではない。
担当教員との連絡方法	大学アカウントのEメール（@kumagakuのアドレス）
連絡方法（その他）	
添付ファイル	

※カリキュラムコードは、各学科の群（分野）、必修か選択、開設学年を示しています。詳細は履修登録ガイドを参照してください。

科目名	数理・データサイエンス・AI入門 (遠)(学科/英東)		
担当教員	得重 仁（トクシゲ ヒトシ）、猪股 健太郎（イノマタ ケンタロウ）、春田 吉備彦（ハルタ キビヒコ）、坂田 直樹（サカタ ナオキ）、大山 佳三（オオヤマ ケイゾウ）、溝上 章志（ミゾカミ ショウシ）、小山 明日香（コヤマ アスカ）、須崎 清剛（スザキ キョウタカ）、江口 智士（エグチ サトシ）、林田 実（ハヤシダ ミノル）、飯高 敏和（イイタカ トシカズ）	単位数	2単位
開講期間	秋学期	授業形態	講義
使用言語	日本語	開講学年	1 年次のみ
開講学科・カリキュラムコード※	全KS1		
資格科目			
授業概要	本科目は、Society 5.0時代における経済発展と社会課題解決の両立を目指し、人々がより豊かで持続可能な生活を送るための基盤となる、数理・データサイエンス、AIの基礎的な知識と技術を修得する入門科目です。Society 5.0時代は、サイバー空間とフィジカル空間の融合、AIやIoTの高度な活用、データ駆動による社会の最適化、そして人間中心の社会設計といった特徴を持ちます。本科目では、このような時代に対応できるようにデータサイエンスやAIが社会でどのように活用されているのかを具体的な事例等を通じて、重要性を体感していただきます。さらに、本科目を通して得られた興味関心をきっかけに、大学生のうちに数理・データサイエンス、AIに関する知識や技術を深め、将来にわたって学び続ける意欲を高めていただきたいと思います。		
到達目標	- 数理・データサイエンス・AIが、実社会で様々な活用されていることを理解して、説明ができる。 - 数理・データサイエンス・AIを利用するには、倫理的な問題、個人情報の取り扱い、情報セキュリティ等を考慮する必要があることを理解して、説明ができる。 - 表計算ソフト（Excel等）を用いて、データを適切に整形し、読み解くことができる。そして、図表等を用いて説明をすることができる。		

カリキュラム学科 2026年度 春学期 学部 商学部 商

全学DP		関与度
1	知識・理解	
2	コミュニケーションスキル	
3	数量的スキル	○
4	情報リテラシー	◎
5	論理的思考力と問題解決力	
6	自主・自律、チームワーク、リーダーシップ	
7	倫理観、社会的責任	
8	生涯学習力	
9	総合的学習力	

授業内容	
第1回	ガイダンス：得重 本科目は、オンデマンド形式の遠隔授業として実施されます。大学の自習コーナー・図書館に設置されたパソコンの利用方法についての説明を行います。また、個人のパソコンの環境の確認すべき点についても説明を行います。そして、受講上のルール（授業資料の配布や公開期間、課題の提示方法や提出期限、欠席届の提出方法）について説明を行います。その後、経済産業省九州経済産業局提供による「社会のデータ・AI等活用事例動画」を視聴し、学修内容のイメージを獲得します。 事前学修：新聞や書籍，ネット動画などで，データサイエンスとAIの調査を行っておくこと。 事後学修：授業に視聴しなかった上述の動画を、全て視聴すること。
第2回	データサイエンスの役割：猪股 データサイエンスの役割について理解するため，以下のことを学びます。 - 社会で起きている変化(ビッグデータ・IoTなど) - データの活用領域や分析方法 - 最新動向(生成AIなど) 事前学修：教科書の第1章の1.1データサイエンスの役割をよく読んでおくこと。 事後学修：課題を提出すること。

第3回	データサイエンスと情報倫理：春田、得重 春田担当分： 新規に開発された技術が、社会で広く使われるようになるまでには様々な課題を解決する必要がある。社会に技術的な課題以外にも法律や倫理やその技術が受け入れられるか等も検討しなくてはならない。 ELSIとは、「ethical, legal and social issues」の略で、新たに開発された技術が社会で実用化する過程で生じる倫理的・法的・社会的な問題のことである。この講義では、データやAIを扱う上でのELSIについて学習し、人間の自分自身に関する医療情報などのデータを他者からコントロールする権利やデータそのものに係る倫理、その他データを守るうえでの留意点を段階的に学習していく。 1.データ・AIを扱う上での「倫理的・法的・社会的課題(ELSI)」 2.個人自身に関するデータのコントロール 3.データ倫理 4.データを守るうえでの留意点について 事前学習:教科書の該当部分をあらかじめ読んでおくこと 事後学習:授業で学んだ内容について出題したレポート課題を提出すること 得重担当分： データ・AIは、モラル・倫理・リスク・脅威の理解を深めた上で、適切に利用することが重要です。リスク・脅威からデータを守るためには、情報セキュリティの3要素（機密性、完全性、可用性）を理解し、暗号化などの技術を活用することが不可欠です。また、サイバー攻撃などの脅威からデータを守るためには、情報セキュリティへの意識を高め、常に最新のセキュリティ対策を講じる必要があります。本授業では、以下の内容について学びます。 ・情報セキュリティの3要素（機密性、完全性、可用性） ・匿名加工情報、暗号化と復号、ユーザ認証と、パスワード、アクセス制御、悪意ある情報搾取 ・情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介 ・サイバーセキュリティ 事前学修：教科書の「第1章 現代社会におけるデータサイエンス」→「1.2 データサイエンスと情報倫理」を読んでおくこと。 事後学修：授業時に指定する情報処理推進機構の「映像で知る情報セキュリティ」動画を視聴し、理解を深めること。
第4回	データの取得と管理：坂田 分析の対象とするデータを取得／管理する方法を学びます。具体的には、以下の通りです。 ・データの種類と収集の方法 ・データ分析の流れ／意義 ・オンライン上のデータの取得方法 ・自身でデータを収集する方法 事前学修：教科書の第1章1.3「データ分析のためのデータの取得と管理」を読んでおくこと。 事後学修：実際にオンライン上のデータを取得して試みる。
第5回	度数分布表とヒストグラム：大山 連続的な量的データの全体像を表すツールについて学び、エクセルで作成します。 1. 度数分布表のポイントとエクセルを使っでの作成 2. ヒストグラムのポイントとエクセルを使っでの作成 3. 箱ひげ図のポイントとエクセルを使っでの作成 事前学修：教科書の第2章2.1で、ヒストグラムと箱ひげ図について書かれているところを読んでくること。 事後学修：度数分布表とヒストグラムを作成する課題を出します。第6講で使います。
第6回	データの代表値：大山 データの特徴を示す値である代表値について、その考え方と算出方法、グラフとのかかわりを学びます。 1. 主な代表値（平均値、中央値、最頻値の）考え方と算出方法 2. 代表値をヒストグラムや箱ひげ図から読み取る 事前学修：教科書の第2章2.1の平均値について書かれているところを読んでくること。 事後学修：提示されたデータの代表値を計算すること。
第7回	散布図と相関係数：溝上 複数データ間の相関性と因果関係を分析するための概念と統計的手法を学びます。具体的には下記です。 1. 相関係数の意味することとその計算法 2. 相関係数と因果関係、および因果推論 さらに、実際のデータに対して、Excelの分析ツールを使って、複数のデータの相関図を描く、相関係数の計算をしてみます。 事前学修：教科書のpp.56～62を通読しておくこと。 事後学修：Excelを使って実際の2種のデータの散布図を描き、それらの相関係数を計算して試みる。

第8回	回帰直線：溝上 複数データ間の相関性と因果関係を分析するための統計的推定手法を学びます。具体的には下記です。 - 統計的推定法の基礎である回帰分析の概説 - 回帰係数を推定する最小二乗法の理論の理解 - 回帰分析の統計的有用性の検証法の概説 さらに、実際のデータに対して、Excelの分析ツールを使って回帰分析を行うと同時に、推定値と実績値との散布図を描いてみます。最後に、機械学習による回帰分析の方法と統計的推定法との違いについて解説します。 事前学修：教科書のpp.62～66を通読しておくこと。 事後学修：Excelを使って実際の2種のデータ間の回帰分析を行い、結果の解釈を行ってみること。
第9回	適切なグラフの使い方：小山 情報やデータをグラフを用いて視覚的にわかりやすく表現する方法を理解するために、以下のことを学びます。 - データ表現（棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ、帯グラフ、集合棒グラフなど） - 不適切なグラフ表現（チャートジャンク、不必要な視覚的要素） - 的確かつ正確に情報を伝える技術 事前学修：教科書の第2章2.4.4を読んでおくこと。 事後学修：提示されたデータを用いてExcelで実際にグラフを作成すること。
第10回	条件付き確率：須崎 データ分析手法の1つである「ベイズ推論」の基礎を理解するため、 - 確率および条件付き確率の考え方、用語 - ベイズの定理 を学びます。 事前学修：教科書の第3章3.3「ベイズ推論」を読んでおくこと。 事後学修：教科書の当内容と授業資料をよく復習し、課題を提出すること。
第11回	ベイズ推論の応用：須崎 前回学んだベイズの定理を復習・補足したあと、応用として - 選び出した製品が不良品であった場合、その製品を作った機械はどれか - 受信したメールに「無料ご招待」、「当選」という言葉が含まれていた場合、それが迷惑メールかどうか を推測する方法を学びます。 事前学修：再度教科書の第3章3.3「ベイズ推論」と、前回の授業資料を読んでおくこと。 事後学修：教科書の当内容と授業資料をよく復習し、課題を提出すること。
第12回	クラスタリングの方法：江口 日常生活の中で「このレストランはあのカフェと雰囲気がどこか似ているな」と感じたり、「あのコメンテーターとこのYouTuberは似たようなこと言っているな」と思ったりすることがあると思います。このように、与えられたデータに対して似たもの同士でグループ分けをする数学的手続きを「クラスタリング」と呼びます。この回では、以下のことを学びます。 「似ている」ことを定量的に記述する際に必要となる「距離」や「類似度」について - 階層的クラスタリングおよび非階層的クラスタリングの概要 - 非階層的クラスタリングの手法のひとつである「k平均法」の具体的な計算手続きについて 事前学修：教科書の第3章3.5節をよく読む。 事後学修：提示されたデータをk平均法を用いてクラスタリングする。
第13回	クロス集計と決定木分析：林田 クーポン配布が、ある商品の販売に対して正の効果を持っているか否かを知りたい。あるいは、タイタニック号が沈没する際、乗客の生存に関与した要因は何かを探りたい。このような問題を分析する技術を紹介します。 - クロス集計 - 決定木 - 条件付き分布 事前学修：教科書の79、97-100頁を通読すること。 事後学修：実際のデータを使ってクロス表と決定木を作ってみること。

第14回	機械学習と人工知能：江口	
	人工知能(AI)あるいは機械学習とは、コンピュータ自身にデータの中から規則性を発見させ、人間のような判断をさせる技術の総称です。従って、データがなければ何も始まりません。この回では、以下のことを学びます。 ・ 近年AIが急速な発展を遂げている背景 ・ 最適化問題と機械学習の関係 ・ ニューラル・ネットワークの概要 ・ 機械学習モデル作成の流れ：(1)教師データの収集、(2)モデルの訓練、(3)モデルの評価（Google Teachable Machineを用いた実習） ・ AI技術の倫理的課題（教師データの偏りに起因する差別問題や生成AIを用いたフェイク・ニュースの拡散など） 事前学修：教科書の第1章1.2節、第3章3.7節および3.8節をよく読む。 事後学修：Google Teachable Machineを用いてオリジナルの機械学習モデルを作成する。	
第15回	その他活用例：飯高	
	データサイエンスの応用事例について、特にAIの導入とその問題点、さらにはその対策についてを中心に論じる。AIの不適切出力の問題とそれについての技術的対応の仕組みを解説すると同時に、教科書の5章の中の関連する事例を中心に解説する。 ・ テキストに従った事例解説 ・ AIの不適切出力の問題の概要を解説 ・ 不適切出力の対策を解説 事前学修：教科書の第五章を通読する。 事後学修：実際のAIサービスとAPIの仕様を各自で確認し、興味があれば授業で学んだことを参考に、自分でカスタマイズしてみる。	
事前事後学修(具体的な内容及び必要な時間)		授業前に、教科書の該当部分を読んでおくこと。授業後は、小テスト・課題の解説と、教科書・授業資料により復習を行うこと。事前・事後学修には、それぞれ2時間程度の時間が必要となる。
試験や課題に対するフィードバック方法		各回の授業で演習やレポートの課題についての解説を、提出期間後にmanabaにて行う。
アクティブ・ラーニング		その他の能動的学修
実務経験を生かした具体的な授業内容		
学修支援システムLMS（manaba）の活用		manabaでの小テストの実施／manabaでのレポートの回収／manabaに講義資料・コンテンツの公開／その他manabaの機能の活用
受講上の注意点		・ 各回の授業資料は、学修支援システムmanaba（lms.kumagaku.ac.jp）の「コースコンテンツ」→「授業資料」→「第〇回」（学年暦の金曜日の回数に沿って）にて午前9:00に公開を行う。例えば、第1回は、9月19日午前9:00となる。公開期間は、授業資料公開時間から2026年2月14日までとする。 ・ 各回の課題の提出期間は、授業資料公開時間から1週間とする。例えば、授業資料公開が9月19日午前9:00の場合は、提出期限は9月26日午前9:00となる。提出先は担当回の教員の指示に従うこと。 ・ 授業内容やレポートに関する質問は担当回の教員に、それ以外の質問は本科目の運営取りまとめの得重にメールで行うこと。教員のメールアドレスは、e-キャンパスセンターのメールアドレス一覧より取得すること。 ・ 出欠は、manabaへの毎回の課題の提出により確認を行う。ただし、授業資料の閲覧履歴が認められない場合は、欠席として取り扱う。 ・ 病気等のやむを得ない理由により欠席（授業資料の閲覧ができない、課題の提出が間に合わない）場合は、manabaの「アンケート」→「第〇回：欠席届」に、欠席理由を詳述し、個人情報を墨消した根拠資料（病院の領収書、事故証明書など）をファイルで提出すること。原則、各回の欠席届の提出期間は、課題の提出期間とする。根拠資料が用意できない場合や、やむを得ない理由で提出期間内に提出できない場合は、担当回の教員にメールで秋学期期間中に相談を行うこと。 ・ パソコンの技術的なサポートが必要な場合は、e-キャンパスセンターカウンター（14号館4階）に相談をすること。また、e-キャンパスセンターカウンター横の自習コーナーには、自習用パソコンや持ち込みパソコン用のテーブル・コンセントが設置されている。
教科書		竹村彰通，姫野哲人 ほか編，データサイエンス大系 データサイエンス入門 第3版，学術図書出版社
参考文献		吉岡剛志等著，[改訂新版] AIデータサイエンスリテラシー入門，技術評論社
成績評価方法		評価割合
A.定期試験		0%
B.レポート		0%
C.小テスト		0%
D.発表(プレゼンテーション等)		0%
E.平常点・授業への貢献度		0%
F.その他		100%

成績評価についての補足	各回の授業で演習やレポートの課題を課す。それらは「100点/15回 = 100/15点」満点で、その回の担当教員が内容に応じた採点を行う。それらの合計点が最終成績となる。課題を提出すれば100/15点が得られるわけではない。
担当教員との連絡方法	大学アカウントのEメール（@kumagakuのアドレス）
連絡方法（その他）	
添付ファイル	

※カリキュラムコードは、各学科の群（分野）、必修か選択、開設学年を示しています。詳細は履修登録ガイドを参照してください。

科目名	数理・データサイエンス・AI入門 (遠)(学科/福子ラニ)		
担当教員	得重 仁（トクシゲ ヒトシ）、猪股 健太郎（イノマタ ケンタロウ）、春田 吉備彦（ハルタ キビヒコ）、坂田 直樹（サカタ ナオキ）、大山 佳三（オオヤマ ケイゾウ）、溝上 章志（ミゾカミ ショウシ）、小山 明日香（コヤマ アスカ）、須崎 清剛（スザキ キョウタカ）、江口 智士（エグチ サトシ）、林田 実（ハヤシダ ミノル）、飯高 敏和（イイタカ トシカズ）	単位数	2単位
開講期間	秋学期	授業形態	講義
使用言語	日本語	開講学年	1 年次のみ
開講学科・カリキュラムコード※	全KS1		
資格科目			
授業概要	本科目は、Society 5.0時代における経済発展と社会課題解決の両立を目指し、人々がより豊かで持続可能な生活を送るための基盤となる、数理・データサイエンス、AIの基礎的な知識と技術を修得する入門科目です。Society 5.0時代は、サイバー空間とフィジカル空間の融合、AIやIoTの高度な活用、データ駆動による社会の最適化、そして人間中心の社会設計といった特徴を持ちます。本科目では、このような時代に対応できるようにデータサイエンスやAIが社会でどのように活用されているのかを具体的な事例等を通じて、重要性を体感していただきます。さらに、本科目を通して得られた興味関心をきっかけに、大学生のうちに数理・データサイエンス、AIに関する知識や技術を深め、将来にわたって学び続ける意欲を高めていただきたいと思います。		
到達目標	- 数理・データサイエンス・AIが、実社会で様々な活用されていることを理解して、説明ができる。 - 数理・データサイエンス・AIを利用するには、倫理的な問題、個人情報の取り扱い、情報セキュリティ等を考慮する必要があることを理解して、説明ができる。 - 表計算ソフト（Excel等）を用いて、データを適切に整形し、読み解くことができる。そして、図表等を用いて説明をすることができ		

カリキュラム学科 2026年度 春学期 学部 商学部 商

全学DP		関与度
1	知識・理解	
2	コミュニケーションスキル	
3	数量的スキル	○
4	情報リテラシー	◎
5	論理的思考力と問題解決力	
6	自主・自律、チームワーク、リーダーシップ	
7	倫理観、社会的責任	
8	生涯学習力	
9	総合的学習力	

授業内容

第1回	ガイダンス：得重 本科目は、オンデマンド形式の遠隔授業として実施されます。大学の自習コーナー・図書館に設置されたパソコンの利用方法についての説明を行います。また、個人のパソコンの環境の確認すべき点についても説明を行います。そして、受講上のルール（授業資料の配布や公開期間、課題の提示方法や提出期限、欠席届の提出方法）について説明を行います。その後、経済産業省九州経済産業局提供による「社会のデータ・AI等活用事例動画」を視聴し、学修内容のイメージを獲得します。 事前学修：新聞や書籍，ネット動画などで，データサイエンスとAIの調査を行っておくこと。 事後学修：授業に視聴しなかった上述の動画を、全て視聴すること。
第2回	データサイエンスの役割：猪股 データサイエンスの役割について理解するため，以下のことを学びます。 - 社会で起きている変化(ビッグデータ・IoTなど) - データの活用領域や分析方法 - 最新動向(生成AIなど) 事前学修：教科書の第1章の1.1データサイエンスの役割をよく読んでおくこと。 事後学修：課題を提出すること。

第3回	データサイエンスと情報倫理：春田、得重 春田担当分： 新規に開発された技術が、社会で広く使われるようになるまでには様々な課題を解決する必要がある。社会に技術的な課題以外にも法律や倫理やその技術が受け入れられるか等も検討しなくてはならない。 ELSIとは、「ethical, legal and social issues」の略で、新たに開発された技術が社会で実用化する過程で生じる倫理的・法的・社会的な問題のことである。この講義では、データやAIを扱う上でのELSIについて学習し、人間の自分自身に関する医療情報などのデータを他者からコントロールする権利やデータそのものに係る倫理、その他データを守るうえでの留意点を段階的に学習していく。 1.データ・AIを扱う上での「倫理的・法的・社会的課題(ELSI)」 2.個人自身に関するデータのコントロール 3.データ倫理 4.データを守るうえでの留意点について 事前学習:教科書の該当部分をあらかじめ読んでおくこと 事後学習:授業で学んだ内容について出題したレポート課題を提出すること 得重担当分： データ・AIは、モラル・倫理・リスク・脅威の理解を深めた上で、適切に利用することが重要です。リスク・脅威からデータを守るためには、情報セキュリティの3要素（機密性、完全性、可用性）を理解し、暗号化などの技術を活用することが不可欠です。また、サイバー攻撃などの脅威からデータを守るためには、情報セキュリティへの意識を高め、常に最新のセキュリティ対策を講じる必要があります。本授業では、以下の内容について学びます。 - 情報セキュリティの3要素（機密性、完全性、可用性） - 匿名加工情報、暗号化と復号、ユーザ認証と、パスワード、アクセス制御、悪意ある情報搾取 - 情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介 - サイバーセキュリティ 事前学修：教科書の「第1章 現代社会におけるデータサイエンス」→「1.2 データサイエンスと情報倫理」を読んでおくこと。 事後学修：授業時に指定する情報処理推進機構の「映像で知る情報セキュリティ」動画を視聴し、理解を深めること。
第4回	データの取得と管理：坂田 分析の対象とするデータを取得／管理する方法を学びます。具体的には、以下の通りです。 - データの種類と収集の方法 - データ分析の流れ／意義 - オンライン上のデータの取得方法 - 自身でデータを収集する方法 事前学修：教科書の第1章1.3「データ分析のためのデータの取得と管理」を読んでおくこと。 事後学修：実際にオンライン上のデータを取得して試みる。
第5回	度数分布表とヒストグラム：大山 連続的な量的データの全体像を表すツールについて学び、エクセルで作成します。 - 度数分布表のポイントとエクセルを使っでの作成 - ヒストグラムのポイントとエクセルを使っでの作成 - 箱ひげ図のポイントとエクセルを使っでの作成 事前学修：教科書の第2章2.1で、ヒストグラムと箱ひげ図について書かれているところを読んでくること。 事後学修：度数分布表とヒストグラムを作成する課題を出します。第6講で使います。
第6回	データの代表値：大山 データの特徴を示す値である代表値について、その考え方と算出方法、グラフとのかかわりを学びます。 - 主な代表値（平均値、中央値、最頻値の）考え方と算出方法 - 代表値をヒストグラムや箱ひげ図から読み取る 事前学修：教科書の第2章2.1の平均値について書かれているところを読んでくること。 事後学修：提示されたデータの代表値を計算すること。
第7回	散布図と相関係数：溝上 複数データ間の相関性と因果関係を分析するための概念と統計的手法を学びます。具体的には下記です。 - 相関係数の意味することとその計算法 - 相関係数と因果関係、および因果推論 さらに、実際のデータに対して、Excelの分析ツールを使って、複数のデータの相関図を描く、相関係数の計算をしてみます。 事前学修：教科書のpp.56～62を通読しておくこと。 事後学修：Excelを使って実際の2種のデータの散布図を描き、それらの相関係数を計算して試みる。

第8回	回帰直線：溝上 複数データ間の相関性と因果関係を分析するための統計的推定手法を学びます。具体的には下記です。 - 統計的推定法の基礎である回帰分析の概説 - 回帰係数を推定する最小二乗法の理論の理解 - 回帰分析の統計的有用性の検証法の概説 さらに、実際のデータに対して、Excelの分析ツールを使って回帰分析を行うと同時に、推定値と実績値との散布図を描いてみます。最後に、機械学習による回帰分析の方法と統計的推定法との違いについて解説します。 事前学修：教科書のpp.62～66を通読しておくこと。 事後学修：Excelを使って実際の2種のデータ間の回帰分析を行い、結果の解釈を行ってみること。
第9回	適切なグラフの使い方：小山 情報やデータをグラフを用いて視覚的にわかりやすく表現する方法を理解するために、以下のことを学びます。 - データ表現（棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ、帯グラフ、集合棒グラフなど） - 不適切なグラフ表現（チャートジャンク、不必要な視覚的要素） - 的確かつ正確に情報を伝える技術 事前学修：教科書の第2章2.4.4を読んでおくこと。 事後学修：提示されたデータを用いてExcelで実際にグラフを作成すること。
第10回	条件付き確率：須崎 データ分析手法の1つである「ベイズ推論」の基礎を理解するため、 - 確率および条件付き確率の考え方、用語 - ベイズの定理 を学びます。 事前学修：教科書の第3章3.3「ベイズ推論」を読んでおくこと。 事後学修：教科書の当内容と授業資料をよく復習し、課題を提出すること。
第11回	ベイズ推論の応用：須崎 前回学んだベイズの定理を復習・補足したあと、応用として - 選び出した製品が不良品であった場合、その製品を作った機械はどれか - 受信したメールに「無料ご招待」、「当選」という言葉が含まれていた場合、それが迷惑メールかどうか を推測する方法を学びます。 事前学修：再度教科書の第3章3.3「ベイズ推論」と、前回の授業資料を読んでおくこと。 事後学修：教科書の当内容と授業資料をよく復習し、課題を提出すること。
第12回	クラスタリングの方法：江口 日常生活の中で「このレストランはあのカフェと雰囲気はどこか似ているな」と感じたり、「あのコメンテーターとこのYouTuberは似たようなこと言っているな」と思ったりすることがあると思います。このように、与えられたデータに対して似たもの同士でグループ分けをする数学的手続きを「クラスタリング」と呼びます。この回では、以下のことを学びます。 「似ている」ことを定量的に記述する際に必要となる「距離」や「類似度」について - 階層的クラスタリングおよび非階層的クラスタリングの概要 - 非階層的クラスタリングの手法のひとつである「k平均法」の具体的な計算手続きについて 事前学修：教科書の第3章3.5節をよく読む。 事後学修：提示されたデータをk平均法を用いてクラスタリングする。
第13回	クロス集計と決定木分析：林田 クーポン配布が、ある商品の販売に対して正の効果を持っているか否かを知りたい。あるいは、タイタニック号が沈没する際、乗客の生存に関与した要因は何かを探りたい。このような問題を分析する技術を紹介します。 - クロス集計 - 決定木 - 条件付き分布 事前学修：教科書の79、97-100頁を通読すること。 事後学修：実際のデータを使ってクロス表と決定木を作ってみること。

第14回	機械学習と人工知能：江口	
	人工知能(AI)あるいは機械学習とは、コンピュータ自身にデータの中から規則性を発見させ、人間のような判断をさせる技術の総称です。従って、データがなければ何も始まりません。この回では、以下のことを学びます。 ・ 近年AIが急速な発展を遂げている背景 ・ 最適化問題と機械学習の関係 ・ ニューラル・ネットワークの概要 ・ 機械学習モデル作成の流れ：(1)教師データの収集、(2)モデルの訓練、(3)モデルの評価（Google Teachable Machineを用いた実習） ・ AI技術の倫理的課題（教師データの偏りに起因する差別問題や生成AIを用いたフェイク・ニュースの拡散など） 事前学修：教科書の第1章1.2節、第3章3.7節および3.8節をよく読む。 事後学修：Google Teachable Machineを用いてオリジナルの機械学習モデルを作成する。	
第15回	その他活用例：飯高	
	データサイエンスの応用事例について、特にAIの導入とその問題点、さらにはその対策についてを中心に論じる。AIの不適切出力の問題とそれについての技術的対応の仕組みを解説すると同時に、教科書の5章の中の関連する事例を中心に解説する。 ・ テキストに従った事例解説 ・ AIの不適切出力の問題の概要を解説 ・ 不適切出力の対策を解説 事前学修：教科書の第五章を通読する。 事後学修：実際のAIサービスとAPIの仕様を各自で確認し、興味があれば授業で学んだことを参考に、自分でカスタマイズしてみる。	
事前事後学修(具体的な内容及び必要な時間)		授業前に、教科書の該当部分を読んでおくこと。授業後は、小テスト・課題の解説と、教科書・授業資料により復習を行うこと。事前・事後学修には、それぞれ2時間程度の時間が必要となる。
試験や課題に対するフィードバック方法		各回の授業で演習やレポートの課題についての解説を、提出期間後にmanabaにて行う。
アクティブ・ラーニング		その他の能動的学修
実務経験を生かした具体的な授業内容		
学修支援システムLMS（manaba）の活用		manabaでの小テストの実施／manabaでのレポートの回収／manabaに講義資料・コンテンツの公開／その他manabaの機能の活用
受講上の注意点		・ 各回の授業資料は、学修支援システムmanaba（lms.kumagaku.ac.jp）の「コースコンテンツ」→「授業資料」→「第〇回」（学年暦の金曜日の回数に沿って）にて午前9:00に公開を行う。例えば、第1回は、9月19日午前9:00となる。公開期間は、授業資料公開時間から2026年2月14日までとする。 ・ 各回の課題の提出期間は、授業資料公開時間から1週間とする。例えば、授業資料公開が9月19日午前9:00の場合は、提出期限は9月26日午前9:00となる。提出先は担当回の教員の指示に従うこと。 ・ 授業内容やレポートに関する質問は担当回の教員に、それ以外の質問は本科目の運営取りまとめの得重にメールで行うこと。教員のメールアドレスは、e-キャンパスセンターのメールアドレス一覧より取得すること。 ・ 出欠は、manabaへの毎回の課題の提出により確認を行う。ただし、授業資料の閲覧履歴が認められない場合は、欠席として取り扱う。 ・ 病気等のやむを得ない理由により欠席（授業資料の閲覧ができない、課題の提出が間に合わない）場合は、manabaの「アンケート」→「第〇回：欠席届」に、欠席理由を詳述し、個人情報を墨消した根拠資料（病院の領収書、事故証明書など）をファイルで提出すること。原則、各回の欠席届の提出期間は、課題の提出期間とする。根拠資料が用意できない場合や、やむを得ない理由で提出期間内に提出できない場合は、担当回の教員にメールで秋学期期間中に相談を行うこと。 ・ パソコンの技術的なサポートが必要な場合は、e-キャンパスセンターカウンター（14号館4階）に相談をすること。また、e-キャンパスセンターカウンター横の自習コーナーには、自習用パソコンや持ち込みパソコン用のテーブル・コンセントが設置されている。
教科書		竹村彰通，姫野哲人 ほか編，データサイエンス大系 データサイエンス入門 第3版，学術図書出版社
参考文献		吉岡剛志等著，[改訂新版] AIデータサイエンスリテラシー入門，技術評論社
成績評価方法		評価割合
A.定期試験		0%
B.レポート		0%
C.小テスト		0%
D.発表(プレゼンテーション等)		0%
E.平常点・授業への貢献度		0%
F.その他		100%

成績評価についての補足	各回の授業で演習やレポートの課題を課す。それらは「100点/15回 = 100/15点」満点で、その回の担当教員が内容に応じた採点を行う。それらの合計点が最終成績となる。課題を提出すれば100/15点が得られるわけではない。
担当教員との連絡方法	大学アカウントのEメール（@kumagakuのアドレス）
連絡方法（その他）	
添付ファイル	

※カリキュラムコードは、各学科の群（分野）、必修か選択、開設学年を示しています。詳細は履修登録ガイドを参照してください。

商学科卒業要件および開設科目一覧

令和7（'25）年度入学生（流通・情報専攻）

(注) *印の開設科目は、本年度開講しません。

商1年次（流通・情報専攻）

群 (分野)		基礎科目（１年次）		発展科目（２年次）		応用科目（３・４年次）		卒業に必要な 単 位	
		科 目（単位）		科 目（単位）		科 目（単位）			
学 部 専 修 科 目	基本科目Ⅰ	必修	基礎簿記Ⅰ(2) 情報倫理(2)					4 単位	24 単位
	情報分析基礎科目	必修	情報処理基礎(2) 情報処理(2)					2 単位	
		選択	情報処理応用(2) 統計学(2)						
	基本科目Ⅱ	選択必修	基礎演習(4) 流通論入門(2) 金融論入門(2) 会計学入門(2) 経営学入門(2) アントレプレナーシップ入門(2)					8 単位	
	専攻 必修 科目	選択必修		地域と流通(2) 地域とフードビジネス(2) ビジネスと会計(2) 産学連携実践(2) 産学連携実践演習(2) 発展演習(2)	現代ビジネスと情報(2)		6 単位	40 単位	
	演習	選択必修			３年次開設 応用演習Ⅰ(４)	４年次開設 応用演習Ⅱ(8) 総合演習(4) ※１科目選択必修			
主専攻開設科目	流通系			マーケティング論Ⅰ(2) マーケティング論Ⅱ(2) 流通システム論Ⅰ(2) 流通システム論Ⅱ(2) 商業論Ⅰ(2) 商業論Ⅱ(2) 商業史Ⅰ(2)* 商業史Ⅱ(2)* 流通論特講Ⅰ(2)*	国際マーケティング論Ⅰ(2) 国際マーケティング論Ⅱ(2) 流通政策概論(2) 流通政策特論(2) マーケティング・リサーチ概論(2) マーケティング・リサーチ特論(2) マーケティング・マネジメント概論(2)* マーケティング・マネジメント特論(2)* 消費者行動概論(2)* 消費者行動特論(2)* 交通論概説(2) 交通論特論(2) 流通論特講Ⅱ(2) ビジネス・イングリッシュⅠ(2)◇ ビジネス・イングリッシュⅡ(2)◇		84 単位		
		情報系		コンピュータ論(2) 経営統計論(2) 多変量解析(2) 経営科学(2)* プログラミング(2) 応用プログラミング(2)* アルゴリズム論(2)* 人工知能概論(2)*	情報メディア論Ⅰ(2) 情報メディア論Ⅱ(2) ネットワーク論(2) 経営データ分析(2) ソフトウェア工学論(2)				
			会計系	基礎簿記Ⅱ(2) 簿記特講(2)	工業簿記Ⅰ(2) 工業簿記Ⅱ(2) 発展簿記Ⅰ(2) 発展簿記Ⅱ(2) 財務会計論Ⅰ(2) 財務会計論Ⅱ(2)	会計制度論(2) 結合会計論(2) 税務会計論(2) 財務諸表分析(2) 会計監査論(2) 管理会計論Ⅰ(2) 管理会計論Ⅱ(2) 原価計算論(2)			
	副専攻開設科目	経営系		経営情報論Ⅰ(2)* 経営情報論Ⅱ(2)* 経営管理論Ⅰ(2) 経営管理論Ⅱ(2) 企業論Ⅰ(2) 企業論Ⅱ(2) 経営組織論Ⅰ(2) 経営組織論Ⅱ(2) 経営史Ⅰ(2) 経営史Ⅱ(2) 経営学特講Ⅰ(2)* 地域とスポーツビジネス(2) ビジネスプラン策定(2)	労務管理論(2) 財務管理論Ⅰ(2) 財務管理論Ⅱ(2) 中小企業論(2) 経営戦略論(2) 経営学特講Ⅱ(2) 継承・ベンチャー論(2)				
		金融系		金融論Ⅰ(2) 金融論Ⅱ(2) 金融論特講Ⅰ(2)* 地域と金融(2)	銀行論Ⅰ(2) 銀行論Ⅱ(2) 保険論Ⅰ(2) 保険論Ⅱ(2)* 証券論Ⅰ(2) 証券論Ⅱ(2) 金融論特講Ⅱ(2)* ベンチャー支援実務(2) 年金論(2)◇				
共通選択科目	経済系			日本経済論Ⅰ(2) 日本経済論Ⅱ(2)	財政学(2) 世界経済論(2)* 経済学特講(2)*				
	法律系		法思想と歴史(2) 租税の基本と税理士の役割(2)◇ 民法Ⅰ（総則）(2)◇	会社法総論(2) 株式会社法(2) 民法Ⅰ（総則・物権）(4)* 民法Ⅱ（債権）(4)* 民法Ⅱ（物権）(2)◇ 民法Ⅲ（債権総論）(2)◇ 民法Ⅳ（契約法・不法行為）(2)◇ 法と紛争(2) 行政学(4)*	企業取引法総論(2) 企業取引法各論(2) 労働生活と法Ⅰ(2) 労働生活と法Ⅱ(2) 労働紛争と法Ⅰ(2) 労働紛争と法Ⅱ(2) 経済法(2) 税法(2) 行政法Ⅰ(2) 行政法Ⅱ(2) 法学特講(2)*				
単位互換科目				〔放送大学〕 〔三大学単位互換科目〕					
自己能力開発科目			文章論(作文、レポート、論文、新聞)(4) 自己表現論(2) ビジネスキャリア概論(2) キャリアデザイン論Ⅰ(2)	時事問題研究(新聞の読み方)(2)* キャリアデザイン論Ⅱ(2)	インターンシップ(2) キャリアデザイン論Ⅲ(2)				

(注) 1. 上学年次に開設されている授業科目の履修はできません。
2. その他履修方法の詳細については、「授業科目履修規程」「教職課程履修に関する規程」等を熟読のうえ、間違いのないように履修してください。
3. 授業科目の後に◇印を付したものは、臨時開設科目です。

商学科卒業要件および開設科目一覧

令和7(’25)年度入学生(経営・金融専攻)

(注) *印の開設科目は、本年度開講しません。

群 (分野)			基礎科目（１年次） 科 目（単位）		発展科目（２年次） 科 目（単位）		応用科目（３・４年次） 科 目（単位）		卒業に必要な 単 位	
学部 専攻 修 科 目	基本科目Ⅰ	必修	基礎簿記Ⅰ(2) 情報倫理(2)						4 単位	24 単位
		情報分析基礎科目	必修	情報処理基礎(2) 情報処理(2)						
	選択		情報処理応用(2) 統計学(2)							
	基本科目Ⅱ	選択必修	基礎演習(4) 流通論入門(2) 金融論入門(2) 会計学入門(2) 経営学入門(2) アントレプレナーシップ入門(2)						8 単位	
		専攻選択科目	選択必修			地域と金融(2) 地域とスポーツビジネス(2) ビジネスと会計(2) ビジネスプラン策定(2)		承継ベンチャー論(2) ベンチャー支援実務(2)		
	演習	選択必修			発展演習(2)		3年次開設 応用演習Ⅰ(4) 4年次開設 応用演習Ⅱ(8) 総合演習(4) ※１科目選択必修			
	主専攻開設科目	経営系				経営情報論Ⅰ(2)* 経営史Ⅰ(2) 経営情報論Ⅱ(2)* 経営史Ⅱ(2) 経営管理論Ⅰ(2) 経営学特講Ⅰ(2) 経営管理論Ⅱ(2) 企業論Ⅰ(2) 企業論Ⅱ(2) 経営組織論Ⅰ(2) 経営組織論Ⅱ(2)		労務管理論(2) 財務管理論Ⅰ(2) 財務管理論Ⅱ(2) 中小企業論(2) 経営戦略論(2) 経営学特講Ⅱ(2)		40 単位
		金融系				金融論Ⅰ(2) 金融論Ⅱ(2) 金融論特講Ⅰ(2)*		銀行論Ⅰ(2) 銀行論Ⅱ(2) 保険論Ⅰ(2) 保険論Ⅱ(2)* 証券論Ⅰ(2) 証券論Ⅱ(2) 金融論特講Ⅱ(2)* 年金論(2)◇		
		会計系	基礎簿記Ⅱ(2) 簿記特講(2)	工業簿記Ⅰ(2) 工業簿記Ⅱ(2) 発展簿記Ⅰ(2) 発展簿記Ⅱ(2) 財務会計論Ⅰ(2) 財務会計論Ⅱ(2)		会計制度論(2) 結合会計論(2) 税務会計論(2) 財務諸表分析(2) 会計監査論(2) 管理会計論Ⅰ(2) 管理会計論Ⅱ(2) 原価計算論(2)				
	副専攻開設科目	流通系		マーケティング論Ⅰ(2) マーケティング論Ⅱ(2) 流通システム論Ⅰ(2) 流通システム論Ⅱ(2) 商業論Ⅰ(2) 商業論Ⅱ(2) 商業史Ⅰ(2)* 商業史Ⅱ(2)* 流通論特講Ⅰ(2)* 地域と流通(2) 地域とフードビジネス(2) 産学連携実践(2) 産学連携実践演習(2)		国際マーケティング論Ⅰ(2) 国際マーケティング論Ⅱ(2) 流通政策概論(2) 流通政策特論(2) マーケティング・リサーチ概論(2) マーケティング・リサーチ特論(2) マーケティング・マネジメント概論(2)* マーケティング・マネジメント特論(2)* 消費者行動概論(2)* 消費者行動特論(2)* 交通論概説(2) 交通論特論(2) 流通論特講Ⅱ(2) ビジネス・イングリッシュⅠ(2)◇ ビジネス・イングリッシュⅡ(2)◇				
		情報系		コンピュータ論(2) 経営統計論(2) 多変量解析(2) 経営科学(2)* プログラミング(2) 応用プログラミング(2)* アルゴリズム論(2)* 人工知能概論(2)*		情報メディア論Ⅰ(2) 情報メディア論Ⅱ(2) ネットワーク論(2) 経営データ分析(2) 現代ビジネスと情報(2) ソフトウェア工学論(2)				
	共通選択科目	経済系		日本経済論Ⅰ(2) 日本経済論Ⅱ(2)		財政学(2) 世界経済論(2)* 経済学特講(2)*				
		法律系	法思想と歴史(2) 租税の基本と税理士の役割(2)◇ 民法Ⅰ（総則）(2)◇	会社法総論(2) 株式会社法(2) 民法Ⅰ（総則・物権）(4)* 民法Ⅱ（債権）(4)* 民法Ⅱ（物権）(2)◇ 民法Ⅲ（債権総論）(2)◇ 民法Ⅳ（契約法・不法行為）(2)◇ 法と紛争(2) 行政学(4)*		企業取引法総論(2) 企業取引法各論(2) 労働生活と法Ⅰ(2) 労働生活と法Ⅱ(2) 労働紛争と法Ⅰ(2) 労働紛争と法Ⅱ(2) 経済法(2) 税法(2) 行政法Ⅰ(2) 行政法Ⅱ(2) 法学特講(2)*				
単位互換科目					〔放送大学〕 〔三大学単位互換科目〕				84 単位	
自己能力開発科目			文章論(作文、レポート、論文、新聞)(4) 自己表現論(2) ビジネスキャリア概論(2) キャリアデザイン論Ⅰ(2)		時事問題研究(新聞の読み方)(2)* キャリアデザイン論Ⅱ(2)		インターンシップ(2) キャリアデザイン論Ⅲ(2)			

(注) 1. 上学年次に開設されている授業科目の履修はできません。
2. その他履修方法の詳細については、「授業科目履修規程」「教職課程履修に関する規程」等を熟読のうえ、間違いのないように履修してください。
3. 授業科目の後に◇印を付したものは、臨時開設科目です。

ホスピタリティ・マネジメント学科卒業要件および開設科目一覧

令和7（'25）年度入学生

(注) *印の開設科目は、本年度開講しません。

ホスピ1年次

群 (分野)				基礎科目（１年次） 科 目（単位）		発展科目（２年次） 科 目（単位）		応用科目（３・４年次） 科 目（単位）		卒業に必要な 単 位			
学部 専修科 目	必修							※４年次開設 卒論セミナー(6)		6 単位			
	基礎 科目	選択 必修	観光と産業(2) ビジネスマナー(2) コミュニケーションとホスピタリティ(2) 地域と交通(2) フードビジネスとホスピタリティ(2) 自己表現とコミュニケーション(2)		アジア文化とホスピタリティ(2) 接客英会話(2)				12 単位				
			ホスピタリティ入門セミナー(4)		ホスピタリティ・セミナーⅠ(2)		※３年次開設 ホスピタリティ・セミナーⅡ(2) ホスピタリティ・セミナーⅢ(2)		※４年次開設 ホスピタリティ・セミナーⅣ(2)				
	専門基礎 科目	選択 必修	セ ミ ナ ー										
			ホ ス ピ タ リ テ ィ 系 科 目	ビジネス実務総論(2) ホスピタリティ・イングリッシュ(2) 国際コミュニケーション演習Ⅰ(2)		ホスピタリティ心理学(2) ビジネス実務演習Ⅰ(2) 国際コミュニケーション演習Ⅱ(2) ツーリズム論(2) 地域ビジネスとホスピタリティ(2)		ビジネス実務演習Ⅱ(2) 観光資源論(2) 福祉と会計(2)					
			マ ネ ジ メ ン ト 系 科 目	基礎簿記Ⅰ(2) 基礎簿記Ⅱ(2) 情報処理基礎(2) 流通論入門(2) 会計学入門(2) 経営学入門(2) 金融論入門(2) 情報処理応用(2)		人工知能概論(2)* 経営管理論(2) ヒューマンリソース・マネジメント(2) 金融論Ⅰ(2) 金融論Ⅱ(2) リスクマネジメントⅠ(2)		経営史(2) リスクマネジメントⅡ(2) 中小企業論(2) マーケティング・リサーチ(2) 交通論概説(2) 交通論特論(2) 銀行論Ⅰ(2) 銀行論Ⅱ(2)		44 単位			
	専門 選択 科目	選 択	ホ ス ピ タ リ テ ィ 系 科 目	サービス実務(2) ボランティア概論(2) 手話Ⅰ(2) 手話Ⅱ(2) ホスピタリティ・ワークショップ(2) TOEIC対策Ⅰ(2) TOEFL対策(2) エアライン・ホテル概論(2) 国内旅行実務Ⅰ(4) 国内旅行実務Ⅱ(2)		ビジネスイングリッシュⅠ(2) TOEIC対策Ⅱ(2) エアライン特講(2) ブライダル・マネジメント(2)		福祉経済論(2)* 生活環境論(2) ビジネスイングリッシュⅡ(2) ホテルマネジメントⅠ(2)* ホテルマネジメントⅡ(2)* 医療マネジメント(2)					
			マ ネ ジ メ ン ト 系 科 目	地域経済論入門(2)		発展簿記Ⅰ(2) 発展簿記Ⅱ(2) 財務会計論Ⅰ(2) 財務会計論Ⅱ(2) コンピュータ論基礎(2) コンピュータ論発展(2)* 人工知能特講(2)*		都市流通とまちづくり(2) 地域研究熊本(2)* 年金論(2) 情報システム論(2) ネットワーク論(2)* 情報メディア論Ⅰ(2) 情報メディア論Ⅱ(2) 原価計算論(2) 管理会計論Ⅰ(2) 管理会計論Ⅱ(2) 企業取引法総論(2) 企業取引法各論(2) 労働法Ⅰ(2) 労働法Ⅱ(2)					
	単位互換科目					〔放送大学〕 情報社会のユニバーサルデザイン(2)、情報化社会と国際ボランティア(2) 〔三大学単位互換科目〕 ◎熊本大学の科目 行政過程論Ⅰ(2)、刑法各論Ⅰ(2)、刑事訴訟法Ⅰ(2)、労使関係法(2) 行政救済法Ⅰ(2)、国際法Ⅱ(2)、国際私法(2)、法哲学(2)、行政過程論Ⅱ(2) 政治理論(2)、刑法各論Ⅱ(2)、刑法総論(4)、刑事訴訟法Ⅱ(2)、雇用関係法(2) 行政救済法Ⅱ(2)、国際法Ⅰ(2)、国際機構論(2)、国際取引法(2)、法思想史(2) 手形法・小切手法(2) ◎熊本県立大学の科目 地方自治論(2)、公共経営論Ⅰ(2)、地域づくりと協働(2)、行政組織論(2) 公共経営論Ⅱ(2)						22 単位	
	自己 能力 開 発 科 目	選 択		文章論(作文、レポート、論文、新聞)(4) キャリアデザイン論Ⅰ(2) 租税の基本と税理士の役割(2)◇		時事問題研究(新聞の読み方)(2)* キャリアデザイン論Ⅱ(2)		キャリアデザイン論Ⅲ(2)					
選 択 必 修				インターンシップ(12) ※いずれか１科目選択必修		ホスピタリティと職業(2)		12 単位 あるいは 2 単位					
学部専修等 選択必修				自己能力開発科目の選択必修科目のうち、インターンシップ（12 単位）を修得しない場合は、学部専修科目、 単位互換科目、自己能力開発科目選択科目の中から、10 単位を修得しなければならない。						0 単位 あるいは 10 単位			

(注) *印の開設科目は、本年度開講しません。

群 (分野)			基礎科目（１年次）		発展科目（２年次）		応用科目（３・４年次）		卒業に必要な 単 位	
			科 目（単位）		科 目（単位）		科 目（単位）			
教 										

(注) 1. 上学年次に開設されている授業科目の履修はできません。
2. その他履修方法の詳細については、「授業科目履修規程」等を熟読のうえ、間違いのないように履修してください。
3. 授業科目の後に◇印を付したものは、臨時開設科目です。

経済学科卒業要件および開設科目一覧

令和 7（'25）年度入学生（現代経済専攻）

(注) *印の開設科目は、本年度開講しません。

群 (分野)		選 必 別 修	基礎科目（１年次）		発展科目（２年次）		応用科目（３・４年次）		卒業に必要な 単 位				
			科 目（単位）		科 目（単位）		科 目（単位）						
専 門 科 目	基本 科目Ⅰ	必修	経済学入門(2) マクロ経済学入門Ⅰ(2) ミクロ経済学入門Ⅰ(2) 情報リテラシー(2)		マクロ経済学入門Ⅱ(2) ミクロ経済学入門Ⅱ(2)				12単位				
	基本 科目Ⅱ	選択必修	経済専攻入門(2) 基本統計Ⅰ(2) 情報処理論Ⅰ(2)		基本経済思想(2) 基本経済史(2) 経済数学(2) 経済データ分析(2) 基本統計Ⅱ(2) ゲーム理論(2) 財政学Ⅰ(2) 情報処理論Ⅱ(2)				10 単位				
	専門 選択必修科目	選択必修			演習Ⅱ(2) マクロ経済学(2) 日本経済史Ⅰ(2) ミクロ経済学(2) 日本経済史Ⅱ(2) 金融論(2) 経済学特講(2) 財政学Ⅱ(2) 経済政策Ⅰ(2) 経済政策Ⅱ(2) 社会思想Ⅰ(2) 社会思想Ⅱ(2) 日本経済論(2) 統計解析とデータマイニング(2)		※３年次開設 演習Ⅲ(4) ※４年次開設 演習Ⅳ(6) 労働経済論Ⅰ(2) 西洋経済史Ⅰ(2) 労働経済論Ⅱ(2) 西洋経済史Ⅱ(2) 経済成長論(2) 経済学史Ⅰ(2) 公共経済学Ⅰ(2) 経済学史Ⅱ(2) 公共経済学Ⅱ(2) 情報システム論(2) 環境経済学(2) 情報の数理(2) 産業組織論(2) 都市経済学(2) 国際マクロ経済学(2)* 計量経済学Ⅰ(2) 国際貿易論(2) 計量経済学Ⅱ(2) 情報社会論(2)				54単位		
	自 学 科 開 設 科 目	選択	簿記原理Ⅰ(2)◇ 簿記原理Ⅱ(2)◇		地域経済学Ⅰ(2) 地域経済学Ⅱ(2) 地理情報システム(2) 空間情報分析(2) 経済地理学Ⅰ(2) 経済地理学Ⅱ(2) 情報メディア論(2) 深層学習入門(2) 国際経済協力論(2) 国際関係論Ⅰ(2) 国際関係論Ⅱ(2)* 国際経済論Ⅰ(2) 国際経済論Ⅱ(2) International Communication StudiesⅠ(2) International Communication StudiesⅡ(2) 国際研修(2)* 憲法Ⅰ(人権)(2) 国際フィールドワーク(4) 地域経済特講(講座熊本)(2) フィールドワーク演習(2) マクロ経済学特講Ⅰ(2)◇* マクロ経済学特講Ⅱ(2)◇* ミクロ経済学特講Ⅰ(2)◇* ミクロ経済学特講Ⅱ(2)◇* 会計学Ⅰ(2) 会計学Ⅱ(2)◇ 法学問題特講(2)◇ 判例研究(2)◇ ミクロ経済学スキルアップ(2)◇ マクロ経済学スキルアップ(2)◇ リーガルスکیل(2)◇* グローバル人材育成(2)◇ 金融実務Ⅰ(2)◇ プログラミングA(2) プログラミングB(2) データベース(2)		農業政策Ⅰ(2) 農業政策Ⅱ(2) 開発経済論Ⅰ(2) 開発経済論Ⅱ(2) 国際経済法(2) 国際政治学Ⅰ(2) 国際政治学Ⅱ(2) アジア経済論(2) JAPANESE ECONOMY AND BUSINESS(2) 行政学(2) 地方財政論(2) インターン実習(2) 憲法Ⅱ(統治)(2) 国際事情特講Ⅰ(2)◇* 国際事情特講Ⅱ(2)◇* 金融実務Ⅱ(2)◇ 警察活動の理論と実務(2)◇ 保険論Ⅰ(2) 保険論Ⅱ(2)◇ コミュニティビジネス論(2)◇* AI サービス活用の理論と実践(2) 公共情報システム論Ⅰ(2) 公共情報システム論Ⅱ(2)						
		他学科開設科目	選択	民法Ⅰ（総則）(2)		民法Ⅱ（物権）(2) 民法Ⅲ（債権総論）(2) 民法Ⅳ（契約法・不法行為）(2) 刑法(2) 行政法Ⅰ(2) 行政法Ⅱ(2) 公共政策(2) 会社法Ⅰ(2) 法と経済学Ⅰ(2) 法と経済学Ⅱ(2)		行政組織論(2) 環境法(2)* 租税法(2) 地方自治法(2) 労働法(2) 消費者問題と法(2) 民事訴訟法(2) 法学特講Ⅰ(2)* 法学特講Ⅱ(2)*		商法総則・商行為法(2) 手形法(2) 経済法(2) 会社法Ⅱ(2)			
		専門選択科目	選択	教職に関わる		法律学(国際法を含む)(2) 自然地理学Ⅰ(2) 人文地理学Ⅰ(2) 自然地理学Ⅱ(2) 人文地理学Ⅱ(2) 地誌Ⅰ(2) 地誌Ⅱ(2)							
	単位互換科目	選択			〔放送大学〕 初歩からの数学(2) 問題解決の進め方(2) 〔三大学単位互換科目〕 ◎熊本大学の科目 刑法各論Ⅰ(2) 法哲学(2) 国際私法(2) 行政救済法Ⅱ(2) 労使関係法(2) 国際法Ⅱ(2) 行政救済法Ⅰ(2) 雇用関係法(2) 行政過程論Ⅰ(2) 刑法各論Ⅱ(2) 手形法・小切手法(2) 行政過程論Ⅱ(2) 法思想史(2) 国際法Ⅰ(2) 政治理論(2) 国際取引法(2) 国際機構論(2) ◎熊本県立大学の科目 経営学(2) 地方自治論(2) 基礎総合管理学Ⅰ(2) 地域づくりと協働(2) 行政組織論(2)						82単位		

(注) *印の開設科目は、本年度開講しません。

群 (分野)		選択 必修 別修	基礎科目（1年次）		発展科目（2年次）		応用科目（3・4年次）		卒業に必要な 単 位		
			科 目（単位）		科 目（単位）		科 目（単位）				
共通教育科目	導入科目	必修	導入演習(2)							2 単位	
	情報科目	必修	数理・データサイエンス・AI入門(2)							2 単位	
	基礎学術科目	人文学	選択必修	哲学Ⅰ(2) 地理学Ⅰ(2) 哲学Ⅱ(2) 地理学Ⅱ(2) 倫理学Ⅰ(2) 文化人類学Ⅰ(2) 倫理学Ⅱ(2) 文化人類学Ⅱ(2) 日本史学Ⅰ(2) 日本文学Ⅰ(2) 日本史学Ⅱ(2) 日本文学Ⅱ(2) 西洋史学Ⅰ(2) 日本語学Ⅰ(2) 西洋史学Ⅱ(2) 日本語学Ⅱ(2) 東洋史学Ⅰ(2) 東洋史学Ⅱ(2)							4 単位
		社会科学	選択必修	経済学Ⅰ(2)* 社会学Ⅰ(2) 経済学Ⅱ(2)* 社会学Ⅱ(2) 法学Ⅰ(2)* 心理学Ⅰ(2) 法学Ⅱ(2)* 心理学Ⅱ(2) 政治学Ⅰ(2) 教育学Ⅰ(2) 政治学Ⅱ(2) 教育学Ⅱ(2)							4 単位
		自然科学	選択必修	物理学Ⅰ(2) 地学Ⅰ(2) 物理学Ⅱ(2) 地学Ⅱ(2) 化学Ⅰ(2) 数学Ⅰ(2) 化学Ⅱ(2) 数学Ⅱ(2) 生物学Ⅰ(2) 生物学Ⅱ(2)							4 単位
	総合科目	選択				比較文化論Ⅰ(2) 比較文化論Ⅱ(2) 社会と人権(2) 法と社会(2) 環境論Ⅰ(2) 環境論Ⅱ(2) 日本国憲法(2)					
	外国語科目	選択必修	英語ⅠA(1) 英語ⅠB(1) 英語ⅡA(1) 英語ⅡB(1) ※4単位または2単位選択必修 ドイツ語ⅠA(1) ロシア語ⅠA(1) ドイツ語ⅠB(1) ロシア語ⅠB(1) ドイツ語ⅡA(1) ロシア語ⅡA(1) ドイツ語ⅡB(1) ロシア語ⅡB(1) フランス語ⅠA(1) スペイン語ⅠA(1) フランス語ⅠB(1) スペイン語ⅠB(1) フランス語ⅡA(1) スペイン語ⅡA(1) フランス語ⅡB(1) スペイン語ⅡB(1) 中国語ⅠA(1) 韓国語ⅠA(1) 中国語ⅠB(1) 韓国語ⅠB(1) 中国語ⅡA(1) 韓国語ⅡA(1) 中国語ⅡB(1) 韓国語ⅡB(1) ※1外国語の4単位または2単位選択必修							6 単位	
		選択				英語ⅢA(1) 英語ⅢB(1) 英語ⅣA(1) 英語ⅣB(1) ドイツ語ⅢA(1) ロシア語ⅢA(1)* ドイツ語ⅢB(1) ロシア語ⅢB(1)* ドイツ語ⅣA(1) ロシア語ⅣA(1)* ドイツ語ⅣB(1) ロシア語ⅣB(1)* フランス語ⅢA(1) スペイン語ⅢA(1) フランス語ⅢB(1) スペイン語ⅢB(1) フランス語ⅣA(1) スペイン語ⅣA(1) フランス語ⅣB(1) スペイン語ⅣB(1) 中国語ⅢA(1) 韓国語ⅢA(1) 中国語ⅢB(1) 韓国語ⅢB(1) 中国語ⅣA(1) 韓国語ⅣA(1) 中国語ⅣB(1) 韓国語ⅣB(1)					
	健康科学科目	選択必修	健康科学A(講義)(2) 健康科学BⅠ(実技)(1) 健康科学BⅡ(実技)(1)							2 単位	
	キャリア形成科目	選択	キャリアデザイン論Ⅰ(2) 租税の基本と税理士の役割(2)◇			キャリアデザイン論Ⅱ(2)		キャリアデザイン論Ⅲ(2)		30 単位	
自由選択科目		その他すべての科目の中から								12 単位	
留学生対象科目	選択	日本語ⅠA(1) 日本語ⅡA(1) 日本語ⅠB(1) 日本語ⅡB(1)			日本語ⅢA(1) 日本語ⅢB(1) 日本語ⅣA(1) 日本語ⅣB(1)						
		※1外国語科目として振り替えることができる。 日本事情ⅠA(2) ※共通教育科目の人文学の科目2単位として振り替えることができる。 日本事情ⅠB(2) ※共通教育科目の人文学の科目2単位として振り替えることができる。 日本事情ⅡA(2) ※共通教育科目の社会科学の科目2単位として振り替えることができる。 日本事情ⅡB(2) ※共通教育科目の社会科学の科目2単位として振り替えることができる。 日本事情ⅢA(2) ※共通教育科目の自然科学の科目2単位として振り替えることができる。 日本事情ⅢB(2) ※共通教育科目の自然科学の科目2単位として振り替えることができる。 日本文化演習ⅠA(1) 日本文化演習ⅠB(1) 日本文化演習ⅡA(1) 日本文化演習ⅡB(1) ※共通教育科目の総合科目として振り替えることができる。									
合 計		専門科目(82単位)＋共通教育科目(30単位)＋自由選択科目(12単位)								124 単位	

(注) 1. 上学年次に開設されている授業科目の履修はできません。
2. 専門科目の教職に関わる専門選択科目は、教職課程履修者のみを受講対象とする科目です。
3. その他履修方法の詳細については、「授業科目履修規程」「教職課程履修に関する規程」等を熟読のうえ、間違いのないように履修してください。
4. 授業科目の後に◇印を付したものは、臨時開設科目です。

經濟1年次(地域・國際經濟)

(注) *印の開設科目は、本年度開講しません。

群 (分野)		選択 必修 別修	基礎科目（１年次）		発展科目（２年次）		応用科目（３・４年次）		卒業に必要な 単 位		
			科 目（単位）		科 目（単位）		科 目（単位）				
専 門 科 目	基本 科目 Ⅰ	必修	経済学入門(2) マクロ経済学入門Ⅰ(2) ミクロ経済学入門Ⅰ(2) 情報リテラシー(2)		マクロ経済学入門Ⅱ(2) ミクロ経済学入門Ⅱ(2)				12単位		
			基本 科目 Ⅱ	選択 必修	経済専攻入門(2) 基本統計Ⅰ(2) 情報処理論Ⅰ(2)		基本経済思想(2) 基本経済史(2) 経済数学(2) 経済データ分析(2) 基本統計Ⅱ(2) ゲーム理論(2) 財政学Ⅰ(2) 情報処理論Ⅱ(2)				10 単位
					専 門 選 択 必 修 科 目	選択 必修			演習Ⅱ(2) 金融論(2) 地域経済学Ⅰ(2) 日本経済論(2) 地域経済学Ⅱ(2) 日本経済史Ⅰ(2) 財政学Ⅱ(2) 日本経済史Ⅱ(2) 経済政策Ⅰ(2) 国際関係論Ⅰ(2)* 経済政策Ⅱ(2) 国際関係論Ⅱ(2) 経済地理学Ⅰ(2) 国際経済論Ⅰ(2) 経済地理学Ⅱ(2) 国際経済論Ⅱ(2) 地域経済特講(講座熊本)(2) 国際研修修(2)* 国際フィールドワーク(4) International Communication StudiesⅠ(2) International Communication StudiesⅡ(2)		※３年次開設 演習Ⅲ(4) ※４年次開設 演習Ⅳ(6) 国際マクロ経済学(2)* 労働経済論Ⅰ(2) 国際貿易論(2) 労働経済論Ⅱ(2) 開発経済論Ⅰ(2) 計量経済学Ⅰ(2) 開発経済論Ⅱ(2) 計量経済学Ⅱ(2) 国際経済法(2) 行政学(2) 国際政治学Ⅰ(2) 地方財政論(2) 国際政治学Ⅱ(2) 公共経済学Ⅰ(2) アジア経済論(2) 公共経済学Ⅱ(2) 農業政策Ⅰ(2) 環境経済学(2) 農業政策Ⅱ(2) 都市経済学(2) JAPANESE ECONOMY AND BUSINESS(2) インターン実習(2)
	学 部 選 択 科 目	選択	簿記原理Ⅰ(2)◇ 簿記原理Ⅱ(2)◇				マクロ経済学(2) ミクロ経済学(2) 社会思想史Ⅰ(2) 社会思想史Ⅱ(2) 国際経済協力論(2) 地理情報システム(2) 空間情報分析(2) 情報メディア論(2) 深層学習入門(2) 憲法Ⅰ(人権)(2) 統計解析とデータマイニング(2) フィールドワーク演習(2) 経済学特講(2) マクロ経済学特講Ⅰ(2)◇* マクロ経済学特講Ⅱ(2)◇* ミクロ経済学特講Ⅰ(2)◇* ミクロ経済学特講Ⅱ(2)◇* 会計学Ⅰ(2) 会計学Ⅱ(2)◇ 法学問題特講(2)◇ 判例研究(2)◇ ミクロ経済学スキルアップ(2)◇ マクロ経済学スキルアップ(2)◇ リーガルススキル(2)◇* グローバル人材育成(2)◇ 金融実務Ⅰ(2)◇ プログラミング A(2) プログラミング B(2) データベース(2)		経済学史Ⅰ(2) 経済学史Ⅱ(2) 経済成長論(2) 産業組織論(2) 情報システム論(2) 情報の数理(2) 西洋経済史Ⅰ(2) 西洋経済史Ⅱ(2) 情報社会学(2) 憲法Ⅱ(統治)(2) 国際事情特講Ⅰ(2)◇* 国際事情特講Ⅱ(2)◇* 金融実務Ⅱ(2)◇ 警察活動の理論と実務(2)◇ 保険論Ⅰ(2) 保険論Ⅱ(2)◇ コミュニティビジネス論(2)◇* AI サービス活用の理論と実践(2) 公共情報システム論Ⅰ(2) 公共情報システム論Ⅱ(2)		
			他 学 科 開 設 科 目	選択	民法Ⅰ（総則）(2)		民法Ⅱ(物権)(2) 民法Ⅲ(債権総論)(2) 民法Ⅳ(契約法・不法行為)(2) 刑法(2) 行政法Ⅰ(2) 行政法Ⅱ(2) 公共政策(2) 会社法Ⅰ(2) 法と経済学Ⅰ(2) 法と経済学Ⅱ(2)		行政組織論(2) 環境法(2)* 租税法(2) 地方自治法(2) 労働法(2) 消費者問題と法(2) 民事訴訟法(2) 法学特講Ⅰ(2)* 法学特講Ⅱ(2)*		商法総則・商行為法(2) 手形法(2) 経済法(2) 会社法Ⅱ(2)
専 門 選 択 科 目	選択				法律学(国際法を含む)(2) 自然地理学Ⅰ(2) 人文地理学Ⅰ(2) 自然地理学Ⅱ(2) 人文地理学Ⅱ(2) 地誌Ⅰ(2) 地誌Ⅱ(2)						
目	単位 互 換 科 目	選択			〔放送大学〕 初歩からの数学(2) 問題解決の進め方(2) 〔三大学単位互換科目〕 ◎熊本大学の科目 刑法各論Ⅰ(2) 法哲学(2) 国際私法(2) 行政救済法Ⅱ(2) 労使関係法(2) 国際法Ⅱ(2) 行政救済法Ⅰ(2) 雇用関係法(2) 行政過程論Ⅰ(2) 刑法各論Ⅱ(2) 手形法・小切手法(2) 行政過程論Ⅱ(2) 法思想史(2) 国際法Ⅰ(2) 政治理論(2) 国際取引法(2) 国際機構論(2) ◎熊本県立大学の科目 経営学(2) 地方自治論(2) 基礎総合管理学Ⅰ(2) 地域づくりと協働(2) 行政組織論(2)						82単位

(注) *印の開設科目は、本年度開講しません。

群 (分野)		選択 必修 別修	基礎科目（1年次）		発展科目（2年次）		応用科目（3・4年次）		卒業に必要な 単 位		
			科 目（単位）		科 目（単位）		科 目（単位）				
共通教育科目	導入科目	必修	導入演習(2)							2 単位	
	情報科目	必修	数理・データサイエンス・AI入門(2)							2 単位	
	基礎学術科目	人文学	選択必修	哲学Ⅰ(2) 地理学Ⅰ(2) 哲学Ⅱ(2) 地理学Ⅱ(2) 倫理学Ⅰ(2) 文化人類学Ⅰ(2) 倫理学Ⅱ(2) 文化人類学Ⅱ(2) 日本史学Ⅰ(2) 日本文学Ⅰ(2) 日本史学Ⅱ(2) 日本文学Ⅱ(2) 西洋史学Ⅰ(2) 日本語学Ⅰ(2) 西洋史学Ⅱ(2) 日本語学Ⅱ(2) 東洋史学Ⅰ(2) 東洋史学Ⅱ(2)							4 単位
		社会科学	選択必修	経済学Ⅰ(2)* 社会学Ⅰ(2) 経済学Ⅱ(2)* 社会学Ⅱ(2) 法学Ⅰ(2)* 心理学Ⅰ(2) 法学Ⅱ(2)* 心理学Ⅱ(2) 政治学Ⅰ(2) 教育学Ⅰ(2) 政治学Ⅱ(2) 教育学Ⅱ(2)							4 単位
		自然科学	選択必修	物理学Ⅰ(2) 地学Ⅰ(2) 物理学Ⅱ(2) 地学Ⅱ(2) 化学Ⅰ(2) 数学Ⅰ(2) 化学Ⅱ(2) 数学Ⅱ(2) 生物学Ⅰ(2) 生物学Ⅱ(2)							4 単位
	総合科目	選択				比較文化論Ⅰ(2) 比較文化論Ⅱ(2) 社会と人権(2) 法と社会(2) 環境論Ⅰ(2) 環境論Ⅱ(2) 日本国憲法(2)					
	外国語科目	選択必修	英語ⅠA(1) 英語ⅠB(1) 英語ⅡA(1) 英語ⅡB(1) ※4単位または2単位選択必修 ドイツ語ⅠA(1) ロシア語ⅠA(1) ドイツ語ⅠB(1) ロシア語ⅠB(1) ドイツ語ⅡA(1) ロシア語ⅡA(1) ドイツ語ⅡB(1) ロシア語ⅡB(1) フランス語ⅠA(1) スペイン語ⅠA(1) フランス語ⅠB(1) スペイン語ⅠB(1) フランス語ⅡA(1) スペイン語ⅡA(1) フランス語ⅡB(1) スペイン語ⅡB(1) 中国語ⅠA(1) 韓国語ⅠA(1) 中国語ⅠB(1) 韓国語ⅠB(1) 中国語ⅡA(1) 韓国語ⅡA(1) 中国語ⅡB(1) 韓国語ⅡB(1) ※1外国語の4単位または2単位選択必修							6 単位	
		選択				英語ⅢA(1) 英語ⅢB(1) 英語ⅣA(1) 英語ⅣB(1) ドイツ語ⅢA(1) ロシア語ⅢA(1)* ドイツ語ⅢB(1) ロシア語ⅢB(1)* ドイツ語ⅣA(1) ロシア語ⅣA(1)* ドイツ語ⅣB(1) ロシア語ⅣB(1)* フランス語ⅢA(1) スペイン語ⅢA(1) フランス語ⅢB(1) スペイン語ⅢB(1) フランス語ⅣA(1) スペイン語ⅣA(1) フランス語ⅣB(1) スペイン語ⅣB(1) 中国語ⅢA(1) 韓国語ⅢA(1) 中国語ⅢB(1) 韓国語ⅢB(1) 中国語ⅣA(1) 韓国語ⅣA(1) 中国語ⅣB(1) 韓国語ⅣB(1)					
	健康科学科目	選択必修	健康科学A(講義)(2) 健康科学BⅠ(実技)(1) 健康科学BⅡ(実技)(1)							2 単位	
	キャリア形成科目	選択	キャリアデザイン論Ⅰ(2) 租税の基本と税理士の役割(2)◇			キャリアデザイン論Ⅱ(2)		キャリアデザイン論Ⅲ(2)		30 単位	
自由選択科目		その他すべての科目の中から								12 単位	
留学生対象科目	選択	日本語ⅠA(1) 日本語ⅡA(1) 日本語ⅠB(1) 日本語ⅡB(1)			日本語ⅢA(1) 日本語ⅢB(1) 日本語ⅣA(1) 日本語ⅣB(1)						
		※1外国語科目として振り替えることができる。 日本事情ⅠA(2) ※共通教育科目の人文学の科目2単位として振り替えることができる。 日本事情ⅠB(2) ※共通教育科目の人文学の科目2単位として振り替えることができる。 日本事情ⅡA(2) ※共通教育科目の社会科学の科目2単位として振り替えることができる。 日本事情ⅡB(2) ※共通教育科目の社会科学の科目2単位として振り替えることができる。 日本事情ⅢA(2) ※共通教育科目の自然科学の科目2単位として振り替えることができる。 日本事情ⅢB(2) ※共通教育科目の自然科学の科目2単位として振り替えることができる。 日本文化演習ⅠA(1) 日本文化演習ⅠB(1) 日本文化演習ⅡA(1) 日本文化演習ⅡB(1) ※共通教育科目の総合科目として振り替えることができる。									
合 計		専門科目(82単位)＋共通教育科目(30単位)＋自由選択科目(12単位)								124 単位	

(注) 1. 上学年次に開設されている授業科目の履修はできません。
2. 専門科目の教職に関わる専門選択科目は、教職課程履修者のみを受講対象とする科目です。
3. その他履修方法の詳細については、「授業科目履修規程」「教職課程履修に関する規程」等を熟読のうえ、間違いのないように履修してください。
4. 授業科目の後に◇印を付したものは、臨時開設科目です。

経済学科卒業要件および開設科目一覧

令和7（'25）年度入学生（経済データ分析専攻）

(注) *印の開設科目は、本年度開講しません。

群 (分野)	選択 必修	基礎科目（1年次）		発展科目（2年次）		応用科目（3・4年次）		卒業に必要な 単 位	
		科 目（単位）		科 目（単位）		科 目（単位）			
専 門 科 目	基本科目Ⅰ	必修	経済学入門(2) マクロ経済学入門Ⅰ(2) ミクロ経済学入門Ⅰ(2) 情報リテラシー(2)		マクロ経済学入門Ⅱ(2) ミクロ経済学入門Ⅱ(2)			12単位	
	基本科目Ⅱ	選択必修	経済専攻入門(2) 基本統計Ⅰ(2) 情報処理論Ⅰ(2)		基本経済思想(2) 基本経済史(2) 経済数学(2) 経済データ分析(2) 基本統計Ⅱ(2) ゲーム理論(2) 財政学Ⅰ(2) 情報処理論Ⅱ(2)			10単位	
	専門選択必修科目	選択必修			演習Ⅱ(2) マクロ経済学(2) 地理情報システム(2) ミクロ経済学(2) 空間情報分析(2) 金融論(2) 情報メディア論(2) 財政学Ⅱ(2) 深層学習入門(2) 経済政策Ⅰ(2) 地域経済学Ⅰ(2) 経済政策Ⅱ(2) 地域経済学Ⅱ(2) 日本経済論(2) データベース(2) 統計解析とデータマイニング(2)	※3年次開設 演習Ⅲ(4) ※4年次開設 演習Ⅳ(6) 情報システム論(2) 労働経済論Ⅰ(2) 情報の数理(2) 労働経済論Ⅱ(2) 都市経済学(2) 経済成長論(2) 環境経済学(2) 公共経済学Ⅰ(2) 計量経済学Ⅰ(2) 公共経済学Ⅱ(2) 計量経済学Ⅱ(2) 国際マクロ経済学(2)* 産業組織論(2) 国際貿易論(2) 情報社会論(2) 公共情報システム論Ⅰ(2) 公共情報システム論Ⅱ(2) AIサービス活用の理論と実践(2)		54単位	
	自学科開設科目	選択	簿記原理Ⅰ(2)◇ 簿記原理Ⅱ(2)◇		プログラミングA(2) プログラミングB(2) 国際経済協力論(2) 国際関係論Ⅰ(2)* 国際関係論Ⅱ(2) 国際経済論Ⅰ(2) 国際経済論Ⅱ(2) International Communication StudiesⅠ(2) International Communication StudiesⅡ(2) 経済地理学Ⅰ(2) 経済地理学Ⅱ(2) 国際研修(2)* 憲法Ⅰ(人権)(2) 国際フィールドワーク(4) 地域経済特講（講座熊本）(2) フィールドワーク演習(2) 経済学特講(2) マクロ経済学特講Ⅰ(2)◇* マクロ経済学特講Ⅱ(2)◇* ミクロ経済学特講Ⅰ(2)◇* ミクロ経済学特講Ⅱ(2)◇* 会計学Ⅰ(2) 会計学Ⅱ(2)◇ 法学問題特講(2)◇ 判例研究(2)◇ ミクロ経済学スキルアップ(2)◇ マクロ経済学スキルアップ(2)◇ リーガルスキル(2)◇* グローバル人材育成(2)◇ 金融実務Ⅰ(2)◇ 社会思想史Ⅰ(2) 社会思想史Ⅱ(2) 日本経済史Ⅰ(2) 日本経済史Ⅱ(2)	農業政策Ⅰ(2) 農業政策Ⅱ(2) 開発経済論Ⅰ(2) 開発経済論Ⅱ(2) 国際経済法(2) 国際政治学Ⅰ(2) 国際政治学Ⅱ(2) アジア経済論(2) JAPANESE ECONOMY AND BUSINESS(2) 行政学(2) 地方財政論(2) インターン実習(2) 憲法Ⅱ(統治)(2) 国際事情特講Ⅰ(2)◇* 国際事情特講Ⅱ(2)◇* 金融実務Ⅱ(2)◇ 警察活動の理論と実務(2)◇ 保険論Ⅰ(2) 保険論Ⅱ(2)◇ コミュニティビジネス論(2)◇* 経済学史Ⅰ(2) 経済学史Ⅱ(2) 西洋経済史Ⅰ(2) 西洋経済史Ⅱ(2)			
	他学科開設科目	選択	民法Ⅰ（総則）(2)		民法Ⅱ（物権）(2) 民法Ⅲ（債権総論）(2) 民法Ⅳ（契約法・不法行為）(2) 刑法(2) 行政法Ⅰ(2) 行政法Ⅱ(2) 公共政策(2) 会社法Ⅰ(2) 法と経済学Ⅰ(2) 法と経済学Ⅱ(2)	行政組織論(2) 商法総則・商行為法(2) 環境法(2)* 手形法(2) 租税法(2) 経済法(2) 地方自治法(2) 会社法Ⅱ(2) 労働法(2) 消費者問題と法(2) 民事訴訟法(2) 法学特講Ⅰ(2)* 法学特講Ⅱ(2)*			
	専門選択科目	選択			法律学(国際法を含む)(2) 自然地理学Ⅰ(2) 人文地理学Ⅰ(2) 自然地理学Ⅱ(2) 人文地理学Ⅱ(2) 地誌Ⅰ(2) 地誌Ⅱ(2)				
	単位互換科目	選択			〔放送大学〕 初歩からの数学(2) 問題解決の進め方(2) 〔三大学単位互換科目〕 ◎熊本大学の科目 刑法各論Ⅰ(2) 法哲学(2) 国際私法(2) 行政救済法Ⅱ(2) 労使関係法(2) 国際法Ⅱ(2) 行政救済法Ⅰ(2) 雇用関係法(2) 行政過程論Ⅰ(2) 刑法各論Ⅱ(2) 手形法・小切手法(2) 行政過程論Ⅱ(2) 法思想史(2) 国際法Ⅰ(2) 政治理論(2) 国際取引法(2) 国際機構論(2) ◎熊本県立大学の科目 経営学(2) 地方自治論(2) 基礎総合管理学Ⅰ(2) 地域づくりと協働(2) 行政組織論(2)			82単位	

(注) *印の開設科目は、本年度開講しません。

群 (分野)		選 必 別 修	基礎科目（１年次）		発展科目（２年次）		応用科目（３・４年次）		卒業に必要な 単 位	
			科 目（単位）		科 目（単位）		科 目（単位）			
共 通 教 育 科 目	導入科目	必修	導入演習(2)						2	
	情報科目	必修	数理・データサイエンス・AI入門(2)						2	
	基礎学術科目	人文学	選択必修	哲学Ⅰ(2)	地理学Ⅰ(2)				4	
				哲学Ⅱ(2)	地理学Ⅱ(2)					
				倫理学Ⅰ(2)	文化人類学Ⅰ(2)					
		倫理学Ⅱ(2)	文化人類学Ⅱ(2)				4			
		日本史学Ⅰ(2)	日本文学Ⅰ(2)							
		日本史学Ⅱ(2)	日本文学Ⅱ(2)							
	社会科学	選択必修	西洋史学Ⅰ(2)	日本語学Ⅰ(2)				4		
			西洋史学Ⅱ(2)	日本語学Ⅱ(2)						
東洋史学Ⅰ(2)										
東洋史学Ⅱ(2)					4					
自然科学	選択必修	経済学Ⅰ(2)*	社会学Ⅰ(2)							
		経済学Ⅱ(2)*	社会学Ⅱ(2)							
		法学Ⅰ(2)*	心理学Ⅰ(2)							
法学Ⅱ(2)*	心理学Ⅱ(2)				4					
政治学Ⅰ(2)	教育学Ⅰ(2)									
政治学Ⅱ(2)	教育学Ⅱ(2)									
教 育 科 目	総合科目	選択	物理学Ⅰ(2)	地学Ⅰ(2)				4		
			物理学Ⅱ(2)	地学Ⅱ(2)						
			化学Ⅰ(2)	数学Ⅰ(2)						
	化学Ⅱ(2)	数学Ⅱ(2)				4				
	生物学Ⅰ(2)									
	生物学Ⅱ(2)									
外国語科目	選択必修		比較文化論Ⅰ(2) 比較文化論Ⅱ(2) 社会と人権(2) 法と社会(2) 環境論Ⅰ(2) 環境論Ⅱ(2) 日本国憲法(2)							
		英語ⅠA(1) 英語ⅠB(1) 英語ⅡA(1) 英語ⅡB(1) ※4単位または2単位選択必修					6			
		ドイツ語ⅠA(1) ロシア語ⅠA(1) ドイツ語ⅠB(1) ロシア語ⅠB(1) ドイツ語ⅡA(1) ロシア語ⅡA(1) ドイツ語ⅡB(1) ロシア語ⅡB(1) フランス語ⅠA(1) スペイン語ⅠA(1) フランス語ⅠB(1) スペイン語ⅠB(1) フランス語ⅡA(1) スペイン語ⅡA(1) フランス語ⅡB(1) スペイン語ⅡB(1) 中国語ⅠA(1) 韓国語ⅠA(1) 中国語ⅠB(1) 韓国語ⅠB(1) 中国語ⅡA(1) 韓国語ⅡA(1) 中国語ⅡB(1) 韓国語ⅡB(1) ※1外国語の4単位または2単位選択必修								
		英語ⅢA(1) 英語ⅢB(1) 英語ⅣA(1) 英語ⅣB(1) ドイツ語ⅢA(1) ロシア語ⅢA(1)* ドイツ語ⅢB(1) ロシア語ⅢB(1)* ドイツ語ⅣA(1) ロシア語ⅣA(1)* ドイツ語ⅣB(1) ロシア語ⅣB(1)* フランス語ⅢA(1) スペイン語ⅢA(1) フランス語ⅢB(1) スペイン語ⅢB(1) フランス語ⅣA(1) スペイン語ⅣA(1) フランス語ⅣB(1) スペイン語ⅣB(1) 中国語ⅢA(1) 韓国語ⅢA(1) 中国語ⅢB(1) 韓国語ⅢB(1) 中国語ⅣA(1) 韓国語ⅣA(1) 中国語ⅣB(1) 韓国語ⅣB(1)								
健康科学科目	選択必修	健康科学A(講義)(2) 健康科学BⅠ(実技)(1) 健康科学BⅡ(実技)(1)						2		
キャリア形成科目	選択	キャリアデザイン論Ⅰ(2) 租税の基本と税理士の役割(2)◇			キャリアデザイン論Ⅱ(2)	キャリアデザイン論Ⅲ(2)		30		
自由選択科目		その他すべての科目の中から							12	
留学生 対象科目	選択	日本語ⅠA(1)	日本語ⅡA(1)	日本語ⅢA(1)						
		日本語ⅠB(1)	日本語ⅡB(1)	日本語ⅢB(1)						
				日本語ⅣA(1)						
				日本語ⅣB(1)						
		※1外国語科目として振り替えることができる。								
		日本事情ⅠA(2) ※共通教育科目の人文学の科目2単位として振り替えることができる。 日本事情ⅠB(2) ※共通教育科目の人文学の科目2単位として振り替えることができる。 日本事情ⅡA(2) ※共通教育科目の社会科学の科目2単位として振り替えることができる。 日本事情ⅡB(2) ※共通教育科目の社会科学の科目2単位として振り替えることができる。 日本事情ⅢA(2) ※共通教育科目の自然科学の科目2単位として振り替えることができる。 日本事情ⅢB(2) ※共通教育科目の自然科学の科目2単位として振り替えることができる。								
日本文化演習ⅠA(1) 日本文化演習ⅠB(1) 日本文化演習ⅡA(1) 日本文化演習ⅡB(1)		※共通教育科目の総合科目として振り替えることができる。								
合 計		専門科目(82単位)＋共通教育科目(30単位)＋自由選択科目(12単位)							124	

(注) 1. 上学年次に開設されている授業科目の履修はできません。
2. 専門科目の教職に関わる専門選択科目は、教職課程履修者のみを受講対象とする科目です。
3. その他履修方法の詳細については、「授業科目履修規程」「教職課程履修に関する規程」等を熟読のうえ、間違いのないように履修してください。
4. 授業科目の後に◇印を付したものは、臨時開設科目です。

リーガルエコノミクス学科卒業要件および開設科目一覧

令和7（'25）年度入学生

(注) *印の開設科目は、本年度開講しません。

リーガル1年次

群 (分野)		選択 必修	基礎科目（１年次）		発展科目（２年次）		応用科目（３・４年次）		卒業に必要な 単 位	
			科 目（単位）		科 目（単位）		科 目（単位）			
専 門 科 目	基本 科目Ⅰ	必修	経済学入門(2) 法学入門(2) マクロ経済学入門Ⅰ(2) ミクロ経済学入門Ⅰ(2) 情報リテラシー(2)		マクロ経済学入門Ⅱ(2) ミクロ経済学入門Ⅱ(2)				14単位	
	基本 科目Ⅱ	選択 必修	基本民法(2) 基本憲法(2) 基本刑法(2) 基本統計Ⅰ(2) 民法Ⅰ（総則）(2) 学科入門(2)◇		民法Ⅱ(物権)(2) 民法Ⅲ（債権総論）(2) 行政法Ⅰ(2) 法と経済学Ⅰ(2) ゲーム理論(2) 経済数学(2)				12単位	
	専門 選択 必修 科目	選択 必修	情報処理論Ⅰ(2)		演習Ⅱ(2) 情報処理論Ⅱ(2)		※３年次開設 演習Ⅲ(4)※４年次開設 演習Ⅳ(6) インターン実習(2)			
					◆公共法政分野 憲法Ⅰ（人権）(2) 刑法(2) 行政法Ⅱ(2) 財政学Ⅰ(2) 財政学Ⅱ(2) 公共政策(2)		憲法Ⅱ（統治）(2)法学特講Ⅰ(2)* 行政組織論(2)刑事訴訟法(2) 地方財政論(2)行政学(2) 公共情報システム論Ⅰ(2) 公共情報システム論Ⅱ(2) 環境法(2)* 環境経済学(2) 租税法(2) 公共経済学(2) 地方自治法(2) 農業政策Ⅰ(2) 農業政策Ⅱ(2)			
						◆市民・企業法分野 民法Ⅳ（契約法・不法行為）(2) 法と経済学Ⅱ(2) 会社法Ⅰ(2) 経済政策(2) 金融論(2) 日本経済論(2)		会社法Ⅱ(2)商法総則・商行為法(2) 産業組織論(2)手形法(2) 労働法(2)国際経済法(2) 労働経済論Ⅰ(2)経済法(2) 労働経済論Ⅱ(2) 消費者問題と法(2) 民事訴訟法(2) 法学特講Ⅱ(2)*		56単位
学 部 目	自学科開設 科目 学部選択 科目	選択	簿記原理Ⅰ(2)◇ 簿記原理Ⅱ(2)◇		マクロ経済学(2) ミクロ経済学(2) 国際経済論Ⅰ(2) 国際経済論Ⅱ(2) マクロ経済学特講Ⅰ(2)◇* マクロ経済学特講Ⅱ(2)◇* ミクロ経済学特講Ⅰ(2)◇* ミクロ経済学特講Ⅱ(2)◇* フィールドワーク演習(2) 経済学特講(2) 会計学Ⅰ(2) 会計学Ⅱ(2)◇ 法学問題特講(2)◇ 判例研究(2)◇ 法学特講（知的財産法）(2)◇* ミクロ経済学スキルアップ(2)◇ マクロ経済学スキルアップ(2)◇ リーガルスキル(2)◇* グローバル人材育成(2)◇ 金融実務Ⅰ(2)◇		経済地理学Ⅰ(2) 経済地理学Ⅱ(2) 国際政治学Ⅰ(2) 国際政治学Ⅱ(2) アジア経済論(2) JAPANESE ECONOMY AND BUSINESS(2) 法社会学(4)◇* 金融実務Ⅱ(2)◇ 国際事情特講Ⅰ(2)◇* 国際事情特講Ⅱ(2)◇* 警察活動の理論と実務(2)◇ 保険論Ⅰ(2) 保険論Ⅱ(2)◇ コミュニティビジネス論(2)◇*			
		選択			基本統計Ⅱ(2) 基本経済思想(2) 基本経済史(2) 経済政策Ⅱ(2) 社会思想Ⅰ(2) 社会思想Ⅱ(2) 国際経済協力論(2) 国際関係論Ⅰ(2) 国際関係論Ⅱ(2) 日本経済史Ⅰ(2) 日本経済史Ⅱ(2) 地域経済学Ⅰ(2) 地域経済学Ⅱ(2)		地理情報システム(2) 空間情報分析(2) 情報メディア論(2) 深層学習入門(2) 統計解析とデータマイニング(2) International Communication StudiesⅠ(2) International Communication StudiesⅡ(2) 国際研修(2)* 国際フィールドワーク(4) 地域経済特講(講座熊本)(2) 経済データ分析(2)		経済成長論(2)情報社会論(2) 公共経済学Ⅱ(2)開発経済論Ⅰ(2) 国際マクロ経済学(2)*開発経済論Ⅱ(2) 国際貿易論(2) 情報システム論(2) 情報の数理(2) 都市経済学(2) 西洋経済史Ⅰ(2) 西洋経済史Ⅱ(2) 計量経済学Ⅰ(2) 計量経済学Ⅱ(2) 経済学史Ⅰ(2) 経済学史Ⅱ(2)	
	専門 選択 科目	教職に 関わる	選択			法律学(国際法を含む)(2)自然地理学Ⅰ(2) 人文地理学Ⅰ(2)自然地理学Ⅱ(2) 人文地理学Ⅱ(2)地誌Ⅰ(2) 地誌Ⅱ(2)				
	単位 互換 科目	選択			〔放送大学〕 初歩からの数学(2)問題解決の進め方(2) 〔三大学単位互換科目〕 ◎熊本大学の科目 刑法各論Ⅰ(2)法哲学(2)国際私法(2)行政救済法Ⅱ(2) 労使関係法(2)国際法Ⅱ(2)行政救済法Ⅰ(2)雇用関係法(2) 行政過程論Ⅰ(2)刑法各論Ⅱ(2)手形法・小切手法(2)行政過程論Ⅱ(2) 法思想史(2)国際法Ⅰ(2)政治理論(2)国際取引法(2)国際機構論(2) ◎熊本県立大学の科目 経営学(2)地方自治論(2) 基礎総合管理学Ⅰ(2)地域づくりと協働(2)行政組織論(2)				82単位	

(注) *印の開設科目は、本年度開講しません。

群 (分野)		選 必 別 修	基礎科目（１年次）		発展科目（２年次）		応用科目（３・４年次）		卒業に必要な 単 位			
			科 目（単位）		科 目（単位）		科 目（単位）					
共 通 教 育 科 目	導入科目	必修	導入演習(2)						2	単位		
	情報科目	必修	数理・データサイエンス・AI入門(2)						2			
	基礎学術科目	人文学	選択必修	哲学Ⅰ(2) 地理学Ⅰ(2) 哲学Ⅱ(2) 地理学Ⅱ(2) 倫理学Ⅰ(2) 文化人類学Ⅰ(2) 倫理学Ⅱ(2) 文化人類学Ⅱ(2) 日本史学Ⅰ(2) 日本文学Ⅰ(2) 日本史学Ⅱ(2) 日本文学Ⅱ(2) 西洋史学Ⅰ(2) 日本語学Ⅰ(2) 西洋史学Ⅱ(2) 日本語学Ⅱ(2) 東洋史学Ⅰ(2) 東洋史学Ⅱ(2)							4	
			社会科学	選択必修	経済学Ⅰ(2)* 社会学Ⅰ(2) 経済学Ⅱ(2)* 社会学Ⅱ(2) 法学Ⅰ(2)* 心理学Ⅰ(2) 法学Ⅱ(2)* 心理学Ⅱ(2) 政治学Ⅰ(2) 教育学Ⅰ(2) 政治学Ⅱ(2) 教育学Ⅱ(2)						4	
			自然科学	選択必修	物理学Ⅰ(2) 地学Ⅰ(2) 物理学Ⅱ(2) 地学Ⅱ(2) 化学Ⅰ(2) 数学Ⅰ(2) 化学Ⅱ(2) 数学Ⅱ(2) 生物学Ⅰ(2) 生物学Ⅱ(2)						4	
	総合科目	選択			比較文化論Ⅰ(2) 比較文化論Ⅱ(2) 社会と人権(2) 法と社会(2) 環境論Ⅰ(2) 環境論Ⅱ(2) 日本国憲法(2)							
	外国語科目	選択必修	英語ⅠA(1) 英語ⅠB(1) 英語ⅡA(1) 英語ⅡB(1) ※4単位または2単位選択必修								6	
			ドイツ語ⅠA(1) ロシア語ⅠA(1) ドイツ語ⅠB(1) ロシア語ⅠB(1) ドイツ語ⅡA(1) ロシア語ⅡA(1) ドイツ語ⅡB(1) ロシア語ⅡB(1) フランス語ⅠA(1) スペイン語ⅠA(1) フランス語ⅠB(1) スペイン語ⅠB(1) フランス語ⅡA(1) スペイン語ⅡA(1) フランス語ⅡB(1) スペイン語ⅡB(1) 中国語ⅠA(1) 韓国語ⅠA(1) 中国語ⅠB(1) 韓国語ⅠB(1) 中国語ⅡA(1) 韓国語ⅡA(1) 中国語ⅡB(1) 韓国語ⅡB(1) ※1外国語の4単位または2単位選択必修						単位			
	健康科学科目	選択必修	健康科学A(講義)(2) 健康科学BⅠ(実技)(1) 健康科学BⅡ(実技)(1)								2	
	キャリア形成科目	選択	キャリアデザイン論Ⅰ(2) 租税の基本と税理士の役割(2)◇		キャリアデザイン論Ⅱ(2)		キャリアデザイン論Ⅲ(2)				30	
自由選択科目		その他すべての科目の中から							12単位			
留学生 対象科目	選択	日本語ⅠA(1) 日本語ⅡA(1) 日本語ⅠB(1) 日本語ⅡB(1)		日本語ⅢA(1) 日本語ⅢB(1) 日本語ⅣA(1) 日本語ⅣB(1)								
		※1外国語科目として振り替えることができる。										
		日本事情ⅠA(2) ※共通教育科目の人文学の科目2単位として振り替えることができる。 日本事情ⅠB(2) ※共通教育科目の人文学の科目2単位として振り替えることができる。 日本事情ⅡA(2) ※共通教育科目の社会科学の科目2単位として振り替えることができる。 日本事情ⅡB(2) ※共通教育科目の社会科学の科目2単位として振り替えることができる。 日本事情ⅢA(2) ※共通教育科目の自然科学の科目2単位として振り替えることができる。 日本事情ⅢB(2) ※共通教育科目の自然科学の科目2単位として振り替えることができる。										
		日本文化演習ⅠA(1) 日本文化演習ⅠB(1) 日本文化演習ⅡA(1) 日本文化演習ⅡB(1)		※共通教育科目の総合科目として振り替えることができる。								
合 計		専門科目(82単位)＋共通教育科目(30単位)＋自由選択科目(12単位)							124単位			

- (注) 1. 上学年次に開設されている授業科目の履修はできません。
2. 専門科目の教職に関わる専門選択科目は、教職課程履修者のみを受講対象とする科目です。
3. その他履修方法の詳細については、「授業科目履修規程」「教職課程履修に関する規程」等を熟読のうえ、間違いのないように履修してください。
4. 授業科目の後に◇印を付したものは、臨時開設科目です。

英米学科卒業要件および開設科目一覧

令和 7 ('25) 年度入学生

(注) *印の開設科目は、本年度開講しません。

群 (分野)		選 必 択 別 修	基礎科目 (1 年次)	発展科目 (2 年次)	応用科目 (3 ・ 4 年次)	卒業に必要な 単 位		
			科 目 (単位)	科 目 (単位)	科 目 (単位)			
専 門 科 目	導 入	必 修	基礎ゼミナール(2)			2 単位	2 単位	
	言 語	必 修	リスニングⅠ(1) リスニングⅡ(1) リーディングⅠ(1) リーディングⅡ(1) スピーキングⅠ(1) スピーキングⅡ(1) ライティングⅠ(1) ライティングⅡ(1) コミュニケーション英文法Ⅰ(2) コミュニケーション英文法Ⅱ(2) イギリス研究入門(2) アメリカ研究入門(2)	Integrated EnglishⅠ(2) Integrated EnglishⅡ(2) Communicative EnglishⅠ(2) Communicative EnglishⅡ(2)	専門演習(4)	28 単位		
		選 択 必 修 ①	TOEIC 対策Ⅰ(2) 英語発音トレーニング(2) 映画英語(2) 音楽英語(2)	TOEIC 対策Ⅱ(2) 英語資格対策上級Ⅰ(2) パブリックスピーキングⅠ(2) パブリックスピーキングⅡ(2) Advanced WritingⅠ(2) Advanced WritingⅡ(2) Advanced ReadingⅠ(2) Advanced ReadingⅡ(2) 英語ディスカッションⅠ(2)		14 単位		
		選 択 必 修 ②			英語資格対策上級Ⅱ(2) Media EnglishⅠ(2) Media EnglishⅡ(2) アカデミックライティング(2) 英語ディスカッションⅡ(2) Integrated EnglishⅢ(2) Integrated EnglishⅣ(2) Communicative EnglishⅢ(2) Communicative EnglishⅣ(2)	4 単位		
		選 択 必 修 ③		英語学概論Ⅰ(2) 英語学概論Ⅱ(2) 言語学概論Ⅰ(2) 言語学概論Ⅱ(2) 英語音声学(2) 英文学史Ⅰ(2) 英文学史Ⅱ(2) 米文学史Ⅰ(2) 米文学史Ⅱ(2) 英語文学Ⅰ(2) 英語文学Ⅱ(2) 子ども英語教育入門(2)	英語史Ⅰ(2) 英語史Ⅱ(2) 英語文法論Ⅰ(2) 英語文法論Ⅱ(2) 英語文学講読Ⅰ(2) 英語文学講読Ⅱ(2) 子ども英語教育演習(2)	12 単位	58 単位	
		選 択			※ 4 年次開設 卒論演習(6)			
	目	国 際 理 解	選 択 必 修	西洋哲学史Ⅰ(2) 西洋哲学史Ⅱ(2) 西洋芸術史Ⅰ(2) 西洋芸術史Ⅱ(2) 異文化理解論Ⅰ(2) 異文化理解論Ⅱ(2) 長期海外研修(事前指導)(2) 短期集中英語研修(2) キリスト教概論Ⅰ(2) キリスト教概論Ⅱ(2)	異文化コミュニケーション論Ⅰ(2) 異文化コミュニケーション論Ⅱ(2) 英米海外研修(4) 長期海外研修(2) 海外インターンシップ(5) グローバルスタディーズ概論Ⅰ(2) グローバルスタディーズ概論Ⅱ(2) 国際法入門Ⅰ(2) 国際法入門Ⅱ(2) 国際機構論Ⅰ(2) 国際機構論Ⅱ(2) 日本経済論Ⅰ(2) 日本経済論Ⅱ(2) 国際経済協力論(2)	翻訳法(2) 通訳法(2) 国際経済論Ⅰ(2) 国際経済論Ⅱ(2) 開発経済論Ⅰ(2) 開発経済論Ⅱ(2)	10 単位	10 単位
			選 択	Kumamoto Studies(2) エアライン・ビジネス演習Ⅰ(2) グローバルツーリズム論(2)	エアライン・ビジネス演習Ⅱ(2) 企業論Ⅰ(2)▲ 企業論Ⅱ(2)▲ 民法Ⅰ(総則・物権)(4)▲＊ 民法Ⅱ(債権)(4)▲＊ 民法Ⅰ(総則)(2)▲◇	ビジネス英語Ⅰ(2) ビジネス英語Ⅱ(2) マーケティング論Ⅰ(2)▲ マーケティング論Ⅱ(2)▲ 金融論Ⅰ(2)▲ 金融論Ⅱ(2)▲ 民法Ⅱ(物権)(2)▲◇ 民法Ⅲ(債権総論)(2)▲◇ 民法Ⅳ(契約法・不法行為)(2)▲◇		
		日 本 研 究	選 択 必 修	日本文化概論Ⅰ(2) 日本文化概論Ⅱ(2) 日本語文章表現(2) 日本語教育Ⅰ(2) 日本語教育Ⅱ(2)	日本語学概論Ⅰ(2) 日本語学概論Ⅱ(2) 日本近代史Ⅰ(2)＊ 日本近代史Ⅱ(2)＊ 日本文学講読Ⅰ(2) 日本文学講読Ⅱ(2) 日本文学講読Ⅲ(2) 日本文学講読Ⅳ(2)	日本語と社会Ⅰ(2) 日本語と社会Ⅱ(2) 日本近代文学Ⅰ(2) 日本近代文学Ⅱ(2) 日本古典文学Ⅰ(2) 日本古典文学Ⅱ(2)	10 単位	10 単位
	選 択			日本語音声学(2)○ 日本語文法論(2)○	日本語教授法Ⅰ(2)○ 日本語教授法Ⅱ(2)○ 日本語教育演習(実習含む)(2)○			

群 (分野)			選必修 別修	基礎科目 (1年次)	発展科目 (2年次)	応用科目 (3・4年次)	卒業に必要な 単 位				
				科 目 (単位)	科 目 (単位)	科 目 (単位)					
教 養 科 目	情報 科目			必修	数理・データサイエンス・AI入門(2)			2単位	28単位		
				選択	情報処理入門(2)						
	基礎 学 術 科 目	人 文 学	選 択 必 修	哲学Ⅰ(2) 東洋史学Ⅰ(2) 哲学Ⅱ(2) 東洋史学Ⅱ(2) 倫理学Ⅰ(2) 地理学Ⅰ(2) 倫理学Ⅱ(2) 地理学Ⅱ(2) 日本史学Ⅰ(2) 文化人類学Ⅰ(2) 日本史学Ⅱ(2) 文化人類学Ⅱ(2) 西洋史学Ⅰ(2) 西洋史学Ⅱ(2) 東洋史学Ⅰ(2) 東洋史学Ⅱ(2)			8単位				
				社 会 科 学	選択 必 修	経済学Ⅰ(2) 社会学Ⅰ(2) 経済学Ⅱ(2) 社会学Ⅱ(2) 法学Ⅰ(2) 心理学Ⅰ(2) 法学Ⅱ(2)* 心理学Ⅱ(2) 政治学Ⅰ(2) 教育学Ⅰ(2) 政治学Ⅱ(2) 教育学Ⅱ(2)				8単位	
					自 然 科 学	選 択 必 修	物理学Ⅰ(2) 地学Ⅰ(2) 物理学Ⅱ(2) 地学Ⅱ(2) 化学Ⅰ(2) 数学Ⅰ(2) 化学Ⅱ(2) 数学Ⅱ(2) 生物学Ⅰ(2) 生物学Ⅱ(2)				4単位
						総 合 科 目	選 択			人権論Ⅰ(2) 人権論Ⅱ(2) 環境論Ⅰ(2) 環境論Ⅱ(2) 日本国憲法(2)	
	外 国 語 科 目		選 択 必 修	ドイツ語ⅠA(1) ロシア語ⅠA(1) ドイツ語ⅠB(1) ロシア語ⅠB(1) ドイツ語ⅡA(1) ロシア語ⅡA(1) ドイツ語ⅡB(1) ロシア語ⅡB(1) フランス語ⅠA(1) 中国語ⅠA(1) フランス語ⅠB(1) 中国語ⅠB(1) フランス語ⅡA(1) 中国語ⅡA(1) フランス語ⅡB(1) 中国語ⅡB(1) スペイン語ⅠA(1) 韓国語ⅠA(1) スペイン語ⅠB(1) 韓国語ⅠB(1) スペイン語ⅡA(1) 韓国語ⅡA(1) スペイン語ⅡB(1) 韓国語ⅡB(1) ※いずれか1外国語4単位			4単位				
				選 択		ドイツ語ⅢA(1) ロシア語ⅢA(1) ドイツ語ⅢB(1) ロシア語ⅢB(1) ドイツ語ⅣA(1) ロシア語ⅣA(1) ドイツ語ⅣB(1) ロシア語ⅣB(1) フランス語ⅢA(1) 中国語ⅢA(1) フランス語ⅢB(1) 中国語ⅢB(1) フランス語ⅣA(1) 中国語ⅣA(1) フランス語ⅣB(1) 中国語ⅣB(1) スペイン語ⅢA(1) 韓国語ⅢA(1) スペイン語ⅢB(1) 韓国語ⅢB(1) スペイン語ⅣA(1) 韓国語ⅣA(1) スペイン語ⅣB(1) 韓国語ⅣB(1)					
	健康科学 科 目			選 択 必 修	健康科学A(講義)(2) 健康科学BⅠ(実技)(1) 健康科学BⅡ(実技)(1)			2単位			
	キャリア 形成科目			選 択	キャリアデザイン論Ⅰ(2)	キャリアデザイン論Ⅱ(2)	キャリアデザイン論Ⅲ(2)				
留 学 生 対 象 科 目		選 択	日本語ⅠA(1) 日本語ⅠB(1) 日本語ⅡA(1) 日本語ⅡB(1) ※外国語科目として振り替えることができる。	日本語ⅢA(1) 日本語ⅢB(1) 日本語ⅣA(1) 日本語ⅣB(1)							
			日本事情ⅠA(2) 日本事情ⅠB(2) 日本事情ⅡA(2) 日本事情ⅡB(2) 日本事情ⅢA(2) 日本事情ⅢB(2) 日本文化演習ⅠA(1) 日本文化演習ⅠB(1) 日本文化演習ⅡA(1) 日本文化演習ⅡB(1)	※教養科目の人文学の科目2単位として振り替えることができる。 ※教養科目の人文学の科目2単位として振り替えることができる。 ※教養科目の社会科学の科目2単位として振り替えることができる。 ※教養科目の社会科学の科目2単位として振り替えることができる。 ※教養科目の自然科学の科目2単位として振り替えることができる。 ※教養科目の自然科学の科目2単位として振り替えることができる。							
			※自由選択科目								
自由選択科目			その他すべての科目の中から					16単位			
合 計			学部専門科目(80単位)＋教養科目(28単位)＋自由選択科目(16単位)					124単位			

- (注) 1. 上学年次開設されている授業科目の履修はできません。
2. ○印の授業科目は、日本語教員養成課程の履修許可者のみを受講対象とする科目です。
3. ▲印を付した科目は、ビジネスプログラム履修者のみを受講対象とする科目です。
4. その他履修方法の詳細については、「授業科目履修規程」「教職課程履修に関する規程」等を熟読のうえ、間違いのないように履修して下さい。
5. 授業科目の後に◇印を付したものは、臨時開設科目です。

東アジア学科卒業要件および開設科目一覧
令和7（'25）年度入学生（中国コース）

東ア中国1年次

(注) *印の開設科目は、本年度開講しません。

群 (分野)		選必修 別修	基礎科目（１年次）		発展科目（２年次）		応用科目（３・４年次）		卒業に必要な 単 位		
			科 目（単位）		科 目（単位）		科 目（単位）				
専 											

群 (分野)			選 必 別 修	基礎科目 (1 年次)	発展科目 (2 年次)	応用科目 (3・4 年次)		卒業に必要な 単 位					
				科 目 (単位)	科 目 (単位)	科 目 (単位)							
教 養 科 目	情報 科目		必修	数理・データサイエンス・AI 入門(2)				2 単位	24 単位				
			選択	情報処理入門(2)									
	基礎学 術科目	人文学	選 択 必 修	哲学Ⅰ(2) 地理学Ⅰ(2) 哲学Ⅱ(2) 地理学Ⅱ(2) 倫理学Ⅰ(2) 文化人類学Ⅰ(2) 倫理学Ⅱ(2) 文化人類学Ⅱ(2) 日本史学Ⅰ(2) 日本史学Ⅱ(2) 西洋史学Ⅰ(2) 西洋史学Ⅱ(2) 東洋史学Ⅰ(2) 東洋史学Ⅱ(2)				8 単位					
				社会 科学	選 択 必 修	経済学Ⅰ(2) 教育学Ⅰ(2) 経済学Ⅱ(2) 教育学Ⅱ(2) 法学Ⅰ(2) 法学Ⅱ(2)* 政治学Ⅰ(2) 政治学Ⅱ(2) 社会学Ⅰ(2) 社会学Ⅱ(2) 心理学Ⅰ(2) 心理学Ⅱ(2)					8 単位		
						自然 科学	選 択 必 修	物理学Ⅰ(2) 数学Ⅰ(2) 物理学Ⅱ(2) 数学Ⅱ(2) 化学Ⅰ(2) 化学Ⅱ(2) 生物学Ⅰ(2) 生物学Ⅱ(2) 地学Ⅰ(2) 地学Ⅱ(2)					4 単位
								総合 科目		選 択		人権論Ⅰ(2) 人権論Ⅱ(2) 環境論Ⅰ(2) 環境論Ⅱ(2) 日本国憲法(2)	
	外国語 科目	選 択			ドイツ語ⅠA(1) ロシア語ⅠA(1) ドイツ語ⅠB(1) ロシア語ⅠB(1) ドイツ語ⅡA(1) ロシア語ⅡA(1) ドイツ語ⅡB(1) ロシア語ⅡB(1) フランス語ⅠA(1) フランス語ⅠB(1) フランス語ⅡA(1) フランス語ⅡB(1) スペイン語ⅠA(1) スペイン語ⅠB(1) スペイン語ⅡA(1) スペイン語ⅡB(1)								
			健康科学 科目	選 択 必 修	健康科学A(講義)(2) 健康科学BⅠ(実技)(1) 健康科学BⅡ(実技)(1)					2 単位			
			キャリア 形成科目	選 択	キャリアデザイン論Ⅰ(2)	キャリアデザイン論Ⅱ(2)	キャリアデザイン論Ⅲ(2)						
	留 学 生 対 象 科 目		選 択	日本語ⅠA(1) 日本語ⅠB(1) 日本語ⅡA(1) 日本語ⅡB(1) ※外国語科目として振り替えることができる。	日本語ⅢA(1) 日本語ⅢB(1) 日本語ⅣA(1) 日本語ⅣB(1)			※教養科目の人文学の科目 2 単位として振り替えることができる。 ※教養科目の人文学の科目 2 単位として振り替えることができる。 ※教養科目の社会科学の科目 2 単位として振り替えることができる。 ※教養科目の社会科学の科目 2 単位として振り替えることができる。 ※教養科目の自然科学の科目 2 単位として振り替えることができる。 ※教養科目の自然科学の科目 2 単位として振り替えることができる。					
日本事情ⅠA(2) 日本事情ⅠB(2) 日本事情ⅡA(2) 日本事情ⅡB(2) 日本事情ⅡA(2) 日本事情ⅡB(2) 日本事情ⅡB(2)													
日本文化演習ⅠA(1) 日本文化演習ⅠB(1) 日本文化演習ⅡA(1) 日本文化演習ⅡB(1)				※自由選択科目									
自由選択科目			その他すべての科目の中から				22 単位						
合 計			学部専門科目(78 単位)＋教養科目(24 単位)＋自由選択科目(22 単位)				124 単位						

- (注) 1. 上学年次に開設されている授業科目の履修はできません。
2. ○印の授業科目は、日本語教員養成課程の履修許可者のみを受講対象とする科目です。
3. ◎印を付した科目は、中国語翻訳・通訳プログラム対象科目です。
4. その他履修方法の詳細については、「授業科目履修規程」「教職課程履修に関する規程」等を熟読のうえ、間違いのないように履修してください。
5. 授業科目の後に◇印を付したものは、臨時開設科目です。

東ア韓国1年次

(注) *印の開設科目は、本年度開講しません。

群 (分野)	選 必 択 別 修	基礎科目（１年次）		発展科目（２年次）		応用科目（３・４年次）		卒業に必要な 単 位	
		科 目（単位）		科 目（単位）		科 目（単位）			
専 									

群 (分野)			選 必 択 別 修	基礎科目（１年次）	発展科目（２年次）	応用科目（３・４年次）	卒業に必要な 単 位	
				科 目（単位）	科 目（単位）	科 目（単位）		
教 <								

- (注) 1. 上学年次に開設されている授業科目の履修はできません。
2. ○印の授業科目は、日本語教員養成課程の履修許可者のみを受講対象とする科目です。
3. その他履修方法の詳細については、「授業科目履修規程」「教職課程履修に関する規程」等を熟読のうえ、間違いのないように履修してください。
4. 授業科目の後に◇印を付したものは、臨時開設科目です。

第一部社会福祉学科卒業要件および開設科目一覧

令和7（'25）年度入学生

(注) *印の開設科目は、本年度開講しません。

群 (分野)	選必修別修		基礎科目（1年次）	発展科目（2年次）	応用科目（3・4年次）		卒業に必要な単位
			科目（単位）	科目（単位）	科目（単位）		
学部専修科目	基本科目Ⅰ	必修	入門演習(1) 社会福祉入門(2) 3単位	ウェルビーイング学(2) 憲法Ⅱ(人権論)(2) 4単位			7単位
	基本科目Ⅱ	選択必修		＜社会福祉系＞ 現代社会と福祉(2) ＜社会共生系＞ 社会共生演習Ⅰ(災害と社会フィールドワーク)(1) 社会共生演習Ⅱ(水俣学フィールドワーク)(1) 2単位	卒業演習Ⅰ(2) 卒業論文演習Ⅰ(4) 卒業論文演習Ⅱ(2) 2単位	※4年次開設 卒業演習Ⅱ(2) 卒業演習Ⅲ(2) 卒業論文(4) ※(卒業演習Ⅱと卒業演習Ⅲ) あるいは卒業論文のいずれか4単位	8単位
	第一群	社会福祉系専門科目 選択必修	社会福祉原論Ⅰ(2) 社会福祉原論Ⅱ(2) ソーシャルワーク論(2) ソーシャルワークの基盤と専門職(2) 医学一般(2) 社会学概論Ⅰ(2) 心理学Ⅰ(2) 精神医学Ⅰ(2) 精神保健福祉の原理Ⅰ(2)	公的扶助論(2) 保健医療と福祉(2) 高齢者福祉論(2) 障害児・者福祉論(2) ソーシャルワーク方法論Ⅰ(2) ソーシャルワーク方法論Ⅱ(2) ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ(2) 地域福祉論Ⅰ(2) 地域福祉論Ⅱ(2) 子ども家庭福祉論Ⅰ(2) 社会福祉調査(2) 精神医学Ⅱ(2) 精神保健福祉の原理Ⅱ(2) 精神保健福祉制度論(2) スクールソーシャルワーク論(2)	社会保障論Ⅰ(2) 社会保障論Ⅱ(2) ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ(2) 福祉管理運営論(2) 権利擁護と成年後見制度(2) 刑事司法と福祉(2) 精神保健学Ⅰ(2) 精神保健学Ⅱ(2) 精神科ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ(2) 精神科ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ(2) 精神障害リハビリテーション論(2)		22単位
	第二群	社会福祉系関連科目 選択必修	ボランティア論(2) 社会的養護Ⅰ(2) 社会学概論Ⅱ(2) 心理学Ⅱ(2) 手話Ⅰ(2) 手話Ⅱ(2) 点字Ⅰ(2) 点字Ⅱ(2) 発達心理学(2) 日本国憲法(2) 統計学(2) 情報処理入門(2)	海外フィールドワーク(1) 社会福祉発達史Ⅰ(2) 社会福祉発達史Ⅱ(2) 子ども家庭福祉論Ⅱ(2) 障害者の生活と法制度(2) 地域づくりとバリアフリー(2) ソーシャルワークと法(2) 社会心理学Ⅰ(2) 社会心理学Ⅱ(2) 憲法Ⅰ(統治論)(2) 民法Ⅰ(2) 民法Ⅱ(2) 家族社会学Ⅰ(2) 家族社会学Ⅱ(2) ケアワーク論(2) 介護基礎(1) 生活行動論(2)	子ども家庭支援論(2) 国際福祉論(2) 障害学(2) 災害ソーシャルワーク(2) 社会福祉法制Ⅰ(2) 社会福祉法制Ⅱ(2) 外書講読Ⅰ(2) 外書講読Ⅱ(2) 芸術療法入門(2) 臨床心理学(1) 社会政策Ⅰ(2)* 社会政策Ⅱ(2)* 現代行政論(2)*	医療と健康(2) 生活と法(2) 家族と法(2) ジェンダーと法(2) 地域社会学Ⅰ(2) 地域社会学Ⅱ(2) 加齢と障害の理解(2)	8単位
	第三群	資格関連科目 選択		ソーシャルワーク演習Ⅰ△ ソーシャルワーク演習(専門)Ⅰ(1)△ ソーシャルワーク演習(専門)Ⅱ(1)△ ソーシャルワーク実習指導Ⅰ(1) ソーシャルワーク実習Ⅰ(1)	ソーシャルワーク演習(専門)Ⅲ(1)△ ソーシャルワーク演習(専門)Ⅳ(1)△ ソーシャルワーク実習指導Ⅱ(1) ソーシャルワーク実習指導Ⅲ(1)△ ソーシャルワーク実習Ⅱ(2) ソーシャルワーク実習Ⅲ(2)△ 精神保健福祉演習Ⅰ(1)▲ 精神保健福祉演習Ⅱ(1)▲ 精神保健福祉演習Ⅲ(1)▲ 精神保健福祉実習指導Ⅰ(1)▲ 精神保健福祉実習指導Ⅱ(1)▲ 精神保健福祉実習指導Ⅲ(1)▲ 精神保健福祉実習(4)▲ スクールソーシャルワーク演習(1)◎ スクールソーシャルワーク実習指導(1)◎ スクールソーシャルワーク実習(2)◎		17単位
学部専修科目の中から							17単位

群 (分野)	選 必 別 修		基礎科目（１年次）		発展科目（２年次）		応用科目（３・４年次）		卒業に必要な 単 位		
			科　目（単位）		科　目（単位）		科　目（単位）				
共 通 教 育 科 目	基礎学術科目	情報科目	必修	数理・データサイエンス・AI入門(2)						2 単位	
		人文学	選択必修	哲学Ⅰ(2) 地理学Ⅰ(2) 哲学Ⅱ(2) 地理学Ⅱ(2) 倫理学Ⅰ(2) 文化人類学Ⅰ(2) 倫理学Ⅱ(2) 文化人類学Ⅱ(2) 日本史学Ⅰ(2) 日本文学Ⅰ(2) 日本史学Ⅱ(2) 日本文学Ⅱ(2) 西洋史学Ⅰ(2) 日本語Ⅰ(2) 西洋史学Ⅱ(2) 日本語Ⅱ(2) 東洋史学Ⅰ(2) 東洋史学Ⅱ(2)						4 単位	
			社会科学	選択必修	経済学Ⅰ(2) 教育学Ⅰ(2) 経済学Ⅱ(2)* 教育学Ⅱ(2) 法学Ⅰ(2) 部落解放論Ⅰ(2) 法学Ⅱ(2) 部落解放論Ⅱ(2) 政治学Ⅰ(2) 政治学Ⅱ(2)						4 単位
			自然科学	選択必修	物理学Ⅰ(2) 地学Ⅰ(2) 物理学Ⅱ(2) 地学Ⅱ(2) 化学Ⅰ(2) 数学Ⅰ(2) 化学Ⅱ(2) 数学Ⅱ(2) 生物学Ⅰ(2) 生物学Ⅱ(2)						4 単位
	総合科目		選択			比較文化論Ⅰ(2) 行政法Ⅰ(2)* 比較文化論Ⅱ(2) 行政法Ⅱ(2)* 環境論Ⅰ(2) 刑法(2)* 環境論Ⅱ(2) 労働法(2) 財政学Ⅰ(2)* 財政学Ⅱ(2)*					
	外国語科目	選択必修	英語ⅠA(1) ロシア語ⅠA(1) 英語ⅠB(1) ロシア語ⅠB(1) 英語ⅡA(1) ロシア語ⅡA(1) 英語ⅡB(1) ロシア語ⅡB(1) ドイツ語ⅠA(1) スペイン語ⅠA(1) ドイツ語ⅠB(1) スペイン語ⅠB(1) ドイツ語ⅡA(1) スペイン語ⅡA(1) ドイツ語ⅡB(1) スペイン語ⅡB(1) フランス語ⅠA(1) 韓国語ⅠA(1) フランス語ⅠB(1) 韓国語ⅠB(1) フランス語ⅡA(1) 韓国語ⅡA(1) フランス語ⅡB(1) 韓国語ⅡB(1) 中国語ⅠA(1) 中国語ⅠB(1) 中国語ⅡA(1) 中国語ⅡB(1) ※いずれか1外国語 4単位								4 単位
		選択	英語ⅢA(1) ロシア語ⅢA(1)* 英語ⅢB(1) ロシア語ⅢB(1)* 英語ⅣA(1) ロシア語ⅣA(1)* 英語ⅣB(1) ロシア語ⅣB(1)* ドイツ語ⅢA(1) スペイン語ⅢA(1) ドイツ語ⅢB(1) スペイン語ⅢB(1) ドイツ語ⅣA(1) スペイン語ⅣA(1) ドイツ語ⅣB(1) スペイン語ⅣB(1) フランス語ⅢA(1) 韓国語ⅢA(1) フランス語ⅢB(1) 韓国語ⅢB(1) フランス語ⅣA(1) 韓国語ⅣA(1) フランス語ⅣB(1) 韓国語ⅣB(1) 中国語ⅢA(1) 中国語ⅢB(1) 中国語ⅣA(1) 中国語ⅣB(1)								
	保健体育	選択必修	健康科学A(講義)(2) 健康科学BⅠ(実技)(1) 健康科学BⅡ(実技)(1)								2 単位
	形成キャリア	選択	キャリアデザイン論Ⅰ(2)		キャリアデザイン論Ⅱ(2)		キャリアデザイン論Ⅲ(2) 福祉キャリア特講Ⅰ(1) 福祉キャリア特講Ⅱ(1) 国家試験対策講座Ⅰ(1)◇ 国家試験対策講座Ⅱ(1)◇				
	選　　択		共通教育科目の中から							8 単位	
留学生対象科目		選択	日本語ⅠA(1) 日本語ⅠB(1) 日本語ⅡA(1) 日本語ⅡB(1) ※外国語科目として振り替えることができる。		日本語ⅢA(1) 日本語ⅢB(1) 日本語ⅣA(1) 日本語ⅣB(1)						
			日本事情ⅠA(2) 日本事情ⅠB(2) 日本事情ⅡA(2) 日本事情ⅡB(2) 日本事情ⅢA(2) 日本事情ⅢB(2) 日本文化演習ⅠA(1) 日本文化演習ⅠB(1) 日本文化演習ⅡA(1) 日本文化演習ⅡB(1) ※共通教育科目の人文系の科目 2 単位として振り替えることができる。 ※共通教育科目の人文系の科目 2 単位として振り替えることができる。 ※共通教育科目の社会科学の科目 2 単位として振り替えることができる。 ※共通教育科目の社会科学の科目 2 単位として振り替えることができる。 ※共通教育科目の自然科学の科目 2 単位として振り替えることができる。 ※共通教育科目の自然科学の科目 2 単位として振り替えることができる。								
自由選択科目		その他すべての科目の中から							34 単位		
合　　計		学部専修科目(62単位)＋共通教育科目(28単位)＋自由選択科目(34単位)							124 単位		

(注) * 印の開設科目は、本年度開講しません。

- (注) 1. 1 学年次開設されている授業科目の履修はできません。
2. △印の授業科目は、社会福祉士養成課程の履修許可者のみ、▲印の授業科目は、精神保健福祉士養成課程の履修許可者のみ、◎印の授業科目は、スクールソーシャルワーカー養成課程の履修許可者のみを対象とした科目です。
3. その他、履修方法の詳細については、「授業科目履修規程」「教職課程履修に関する規程」「社会福祉士養成課程履修に関する規程」「精神保健福祉士養成課程履修に関する規程」「スクールソーシャルワーカー養成課程履修に関する規程」等を熟読のうえ、間違いのないように履修してください。
4. 授業科目の後に◇印を付したものは、臨時開設科目です。

第二部社会福祉学科卒業要件および開設科目一覧

令和 7 ('25) 年度入学生

(注) *印の開設科目は、本年度開講しません。

群 (分野)	選 必 別 修		基礎科目 (1 年次)	発展科目 (2 年次)	応用科目 (3 ・ 4 年次)	卒業に必要な 単 位
			科 目 (単位)	科 目 (単位)	科 目 (単位)	
学部 専 修 科 目	基本 科目 Ⅰ	必修	入門演習 (1) 1 単位			1 単位
	基本 科目 Ⅱ	選択必修			※ 4 年次開設 卒業演習 (4) 卒業論文 (4)	4 単位
	第一 群	社会福祉系専門科目 選択必修	社会福祉原論Ⅰ (2) 社会福祉原論Ⅱ (2) ソーシャルワーク論 (2) ソーシャルワークの基盤と専門職 (2) 医学一般 (2) 社会学概論Ⅰ (2) 心理学 (2)	公的扶助論 (2) 保健医療と福祉 (2) 高齢者福祉論 (2) 障害児・者福祉論 (2) ソーシャルワーク方法論Ⅰ (2) ソーシャルワーク方法論Ⅱ (2) ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ (2) 地域福祉論Ⅰ (2) 地域福祉論Ⅱ (2) 子ども家庭福祉論Ⅰ (2) 社会福祉調査 (2)	社会保障論Ⅰ (2) 社会保障論Ⅱ (2) ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ (2) 福祉管理運営論 (2) 権利擁護と成年後見制度 (2) 刑事司法と福祉 (2)	28 単位
	第二 群	社会福祉系教養科目 選択必修	社会福祉入門 (2) 社会学概論Ⅱ (2) 発達心理学 (2) 手話Ⅰ (2) 手話Ⅱ (2) 点字Ⅰ (2) 点字Ⅱ (2) 日本国憲法 (2) 差別と人権 (2) 情報処理入門 (2)	スクールソーシャルワーク論 (2) 社会福祉発達史 (2) 生活行動論 (2) 民法Ⅰ (2) 民法Ⅱ (2) ハンセン病講義 (2) ☆* 災害と社会 (2) ☆ 海外フィールドワーク (1) ☆ 〔放送大学〕	社会福祉法制 (2) 地域社会学 (2) 家族社会学 (2) 精神保健学Ⅰ (2) 教育学概論 (2) ◎ 学校教育心理学 (2) ◎ 災害ソーシャルワーク (2) ☆ 水俣学 (2) ☆	16 単位
	第三 群	実技系科目 選択		ソーシャルワーク演習Ⅰ△ ソーシャルワーク演習(専門)Ⅰ (1) △ ソーシャルワーク演習(専門)Ⅱ (1) △ ソーシャルワーク実習指導Ⅰ (1) ソーシャルワーク実習Ⅰ (1) △	ソーシャルワーク演習(専門)Ⅲ (1) △ ソーシャルワーク演習(専門)Ⅳ (1) △ ソーシャルワーク実習指導Ⅱ (1) △ ソーシャルワーク実習指導Ⅲ (1) △ ソーシャルワーク実習Ⅱ (2) △ ソーシャルワーク実習Ⅲ (2) △ スクールソーシャルワーク演習 (1) ◎ スクールソーシャルワーク実習指導 (1) ◎ スクールソーシャルワーク実習 (2) ◎	
選 択			学部専修科目の中から			17 単位

群 (分野)	選 必修 別 修		基礎科目（１年次）	発展科目（２年次）	応用科目（３・４年次）	卒業に必要な 単 位
			科 目（単位）	科 目（単位）	科 目（単位）	
共 通 教 育 科 目	情報 科目	必修	数理・データサイエンス・AI入門(2)			2 単位
	基礎学術科目	人文学	哲学Ⅰ(2) 哲学Ⅱ(2) 日本史学Ⅰ(2) 日本史学Ⅱ(2) 西洋史学Ⅰ(2) 西洋史学Ⅱ(2) 地理学Ⅰ(2) 地理学Ⅱ(2) 日本語学Ⅰ(2) 日本語学Ⅱ(2)			4 単位
		社会科学	経済学Ⅰ(2) 経済学Ⅱ(2)* 法学Ⅰ(2) 法学Ⅱ(2)* 政治学Ⅰ(2) 政治学Ⅱ(2) 部落解放論Ⅰ(2) 部落解放論Ⅱ(2)			4 単位
		自然科学	物理学Ⅰ(2) 物理学Ⅱ(2) 化学Ⅰ(2) 化学Ⅱ(2) 生物学Ⅰ(2) 生物学Ⅱ(2)			4 単位
	総合科目	選択		環境論Ⅰ(2) 環境論Ⅱ(2)		
	外国語科目	選択必修	英語ⅠA(1) ロシア語ⅠA(1)☆ 英語ⅠB(1) ロシア語ⅠB(1)☆ 英語ⅡA(1) ロシア語ⅡA(1)☆ 英語ⅡB(1) ロシア語ⅡB(1)☆ ドイツ語ⅠA(1)☆ スペイン語ⅠA(1)☆ ドイツ語ⅠB(1)☆ スペイン語ⅠB(1)☆ ドイツ語ⅡA(1)☆ スペイン語ⅡA(1)☆ ドイツ語ⅡB(1)☆ スペイン語ⅡB(1)☆ フランス語ⅠA(1)☆ 韓国語ⅠA(1) フランス語ⅠB(1)☆ 韓国語ⅠB(1) フランス語ⅡA(1)☆ 韓国語ⅡA(1) フランス語ⅡB(1)☆ 韓国語ⅡB(1) 中国語ⅠA(1)☆ 中国語ⅠB(1)☆ 中国語ⅡA(1)☆ 中国語ⅡB(1)☆ ※いずれか1外国語 4 単位			4 単位
		選択		英語ⅢA(1)* ロシア語ⅢA(1)* 英語ⅢB(1)* ロシア語ⅢB(1)* 英語ⅣA(1)* ロシア語ⅣA(1)* 英語ⅣB(1)* ロシア語ⅣB(1)* ドイツ語ⅢA(1)* スペイン語ⅢA(1)* ドイツ語ⅢB(1)* スペイン語ⅢB(1)* ドイツ語ⅣA(1)* スペイン語ⅣA(1)* ドイツ語ⅣB(1)* スペイン語ⅣB(1)* フランス語ⅢA(1)* 韓国語ⅢA(1)* フランス語ⅢB(1)* 韓国語ⅢB(1)* フランス語ⅣA(1)* 韓国語ⅣA(1)* フランス語ⅣB(1)* 韓国語ⅣB(1)* 中国語ⅢA(1)* 中国語ⅢB(1)* 中国語ⅣA(1)* 中国語ⅣB(1)*		
	保健体育	選択必修	健康科学A(講義)(2) 健康科学BⅠ(実技)(1) 健康科学BⅡ(実技)(1)☆			2 単位
	形成 キャリア 科目 目ア	選択			福祉キャリア特講Ⅰ(1)☆ 福祉キャリア特講Ⅱ(1)☆ 国家試験対策講座Ⅰ(1)☆◇ 国家試験対策講座Ⅱ(1)☆◇	
	選 択		共通教育科目の中から			8 単位
自由選択科目		その他すべての科目の中から			30 単位	
合 計		学部専修科目(66単位)＋共通教育科目(28単位)＋自由選択科目(30単位)			124 単位	

(注) *印の開設科目は、本年度開講しません。

- (注) 1. 上学年次に開設されている授業科目の履修はできません。
2. △印の授業科目は、社会福祉士養成課程の履修許可者のみ、◎印の授業科目は、スクールソーシャルワーカー養成課程の履修許可者のみを対象とした科目です。
3. その他、履修方法の詳細については、「授業科目履修規程」「教職課程履修に関する規程」「社会福祉士養成課程履修に関する規程」「スクールソーシャルワーカー養成課程履修に関する規程」等を熟読のうえ、間違いのないように履修してください。
4. 授業科目の後に◇印を付したものは、臨時開設科目です。
5. ☆は二部では開講せず、一部で開講予定の科目です。

子ども家庭福祉学科卒業要件および開設科目一覧

令和7（'25）年度入学生

(注) *印の開設科目は、本年度開講しません。

群 (分野)	選必修別修		基礎科目（１年次）	発展科目（２年次）	応用科目（３・４年次）		卒業に必要な 単 位	
			科 目（単位）	科 目（単位）	科 目（単位）			
学部	基本科目Ⅰ	必修	子ども家庭福祉入門Ⅰ（１） 子ども家庭福祉入門Ⅱ（２） 3 単位	子ども家庭福祉特論（２） 2 単位	専門ゼミナールⅠ（２） 2 単位		7 単位	
	基本科目Ⅱ	選択必修			※４年次開設 専門ゼミナールⅡ（２） 専門ゼミナールⅢ（２） 卒業論文（４） ※（専門ゼミナールⅡと専門ゼミナールⅢ）あるいは 卒業論文のいずれか４単位		4 単位	
	第一群	保育系科目	選択必修	社会福祉原論Ⅰ（２） 社会福祉原論Ⅱ（２） 教育学概論Ⅰ（２） 教育学概論Ⅱ（２） 子どもの理解と援助（１） 保育概論Ⅰ（２） 保育概論Ⅱ（２） 教育課程論（２） 社会的養護Ⅰ（２） 子ども保健Ⅰ（２） 子ども保健Ⅱ（２） 発達心理学（２）☆ 子ども家庭支援の心理学（２）	子ども家庭福祉論Ⅰ（２） 子ども家庭福祉論Ⅱ（２） 子育て支援（１） 現代教師論（２） 教育心理学（２） 保育内容総論（１） 保育内容指導法Ａ（健康）（１） 保育内容指導法Ｂ（人間関係）（１） 保育内容指導法Ｃ（環境）（１） 保育内容指導法Ｄ（言葉）（１） 保育内容指導法Ｅ（音楽表現）（１） 保育内容指導法Ｆ（造形表現）（１） 音楽Ⅰ（１） 音楽Ⅱ（１） 造形Ⅰ（１） 造形Ⅱ（１） 体育Ⅰ（１） 体育Ⅱ（１） 幼児理解（２） 乳児保育Ⅰ（２） 乳児保育Ⅱ（１） 子どもの食と栄養（２） 子どもの健康と安全（１） 子ども家庭福祉演習Ⅰ（１） 保育実習指導ⅠＡ（１）▽ 保育実習ⅠＡ（２）▽ 子ども家庭福祉実践基礎（２）＊	保育マネジメント論（２） 教育相談の理論と方法（１） 臨床心理学（１） 保育方法論（１） 特別支援教育論（１） 障害児保育論Ⅰ（１） 障害児保育論Ⅱ（１） 社会的養護Ⅱ（１） 子ども家庭支援論（２） 年齢別保育Ａ（１） 年齢別保育Ｂ（１） 年齢別保育Ｃ（１） 音楽Ⅲ（１） 造形Ⅲ（１） 体育Ⅲ（１） 子ども家庭福祉演習Ⅱ（１） 保育実習ⅠＢ（２）▽ 保育実習指導ⅠＢ（１）▽ 保育実習指導Ⅱ（１）▽ 保育実習指導Ⅲ（１）▽ 保育実習Ⅱ（２）▽ 保育実習Ⅲ（２）▽	※４年次開設 子ども家庭福祉実践応用演習（１）	52 単位
				52 単位				
	第二群	幼児教育系科目	選択必修	日本国憲法（２） 情報処理入門（２） 幼児と健康（１） 幼児と人間関係（１） 幼児と環境（１） 幼児と言葉（１） 幼児と表現（音楽）（１） 幼児と表現（造形）（１）	幼児教育実習指導Ⅰ（１）□ 教育実習Ⅰ（２）□	保育表現実践（２）	※４年次開設 幼児教育実習指導Ⅱ（１）□ 教育実習Ⅱ（２）□ 保育・教職実践演習（２）	4 単位
専修科	福祉系科目	選択必修	心理学Ⅰ（２） 心理学Ⅱ（２） 社会学概論Ⅰ（２） 社会学概論Ⅱ（２） 医学一般（２） ソーシャルワーク論（２） ソーシャルワークの基盤と専門職（２）	公的扶助論（２） 保健医療と福祉（２） 高齢者福祉論（２） 障害児・者福祉論（２） ソーシャルワーク方法論Ⅰ（２） ソーシャルワーク方法論Ⅱ（２） ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ（２） 地域福祉論Ⅰ（２） 地域福祉論Ⅱ（２） 社会福祉調査（２） ソーシャルワーク演習（１）△ ソーシャルワーク演習（専門）Ⅰ（１）△ ソーシャルワーク演習（専門）Ⅱ（１）△ ソーシャルワーク実習指導Ⅰ（１） ソーシャルワーク実習Ⅰ（１）△	社会保障論Ⅰ（２） 社会保障論Ⅱ（２） ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ（２） 福祉管理運営論（２） 権利擁護と成年後見制度（２） 刑事司法と福祉（２） ソーシャルワーク演習（専門）Ⅲ（１）△ ソーシャルワーク演習（専門）Ⅳ（１）△ ソーシャルワーク実習指導Ⅱ（１）△ ソーシャルワーク実習指導Ⅲ（１）△ ソーシャルワーク実習Ⅱ（２）△ ソーシャルワーク実習Ⅲ（２）△		4 単位	
			4 単位					
	第三群	選択必修	ボランティア論（２）＊ 手話Ⅰ（２） 手話Ⅱ（２） 子どもの歴史（２）☆＊	児童ソーシャルワーク特論（２）＊ 民法Ⅰ（２） 民法Ⅱ（２） 外書講読Ⅰ（２） 外書講読Ⅱ（２） 海外フィールドワーク（１） スクールソーシャルワーク論（２） 社会心理学Ⅰ（２） 社会心理学Ⅱ（２） 家族社会学Ⅰ（２） 家族社会学Ⅱ（２）	子どもの権利（２）＊ 家族と法（２） 障害学（２） 精神保健学Ⅰ（２）◎ スクールソーシャルワーク演習Ⅰ（１）◎ スクールソーシャルワーク実習指導Ⅰ（１）◎ スクールソーシャルワーク実習Ⅱ（２）◎ 水俣学（２） 地域社会学Ⅰ（２） 地域社会学Ⅱ（２） 社会政策Ⅰ（２）＊ 社会政策Ⅱ（２）＊ ジェンダーと法（２）	※４年次開設 子ども家庭福祉実習（２）	4 単位	
		選 択	学部専修科目の中から				15 単位	

群 (分野)	選 必 別 修		基礎科目（１年次）		発展科目（２年次）		応用科目（３・４年次）		卒業に必要な 単 位		
			科　目（単位）		科　目（単位）		科　目（単位）				
共 通 教 育 科 目	基礎学習科目	情報科目	必修	数理・データサイエンス・AI入門(2)						2 単位	
		人文学	選択必修	哲学Ⅰ(2) 地理学Ⅰ(2) 哲学Ⅱ(2) 地理学Ⅱ(2) 倫理学Ⅰ(2) 文化人類学Ⅰ(2) 倫理学Ⅱ(2) 文化人類学Ⅱ(2) 日本史学Ⅰ(2) 日本文学Ⅰ(2) 日本史学Ⅱ(2) 日本文学Ⅱ(2) 西洋史学Ⅰ(2) 日本語学Ⅰ(2) 西洋史学Ⅱ(2) 日本語学Ⅱ(2) 東洋史学Ⅰ(2) 東洋史学Ⅱ(2)						4 単位	
			社会科学	選択必修	経済学Ⅰ(2) 教育学Ⅰ(2) 経済学Ⅱ(2)* 教育学Ⅱ(2) 法学Ⅰ(2) 部落解放論Ⅰ(2) 法学Ⅱ(2) 部落解放論Ⅱ(2) 政治学Ⅰ(2) 政治学Ⅱ(2)				4 単位		
			自然科学	選択必修	物理学Ⅰ(2) 地学Ⅰ(2) 物理学Ⅱ(2) 地学Ⅱ(2) 化学Ⅰ(2) 数学Ⅰ(2) 化学Ⅱ(2) 数学Ⅱ(2) 生物学Ⅰ(2) 生物学Ⅱ(2)				4 単位		
	総合科目	選択			比較文化論Ⅰ(2) 行政法Ⅰ(2)* 比較文化論Ⅱ(2) 行政法Ⅱ(2)* 環境論Ⅰ(2) 刑法(2)* 環境論Ⅱ(2) 労働法(2) 財政学Ⅰ(2)* 財政学Ⅱ(2)*						
	外国語科目	選択必修	英語ⅠA(1) スペイン語ⅠA(1) 英語ⅠB(1) スペイン語ⅠB(1) 英語ⅡA(1) スペイン語ⅡA(1) 英語ⅡB(1) スペイン語ⅡB(1) ドイツ語ⅠA(1) 韓国語ⅠA(1) ドイツ語ⅠB(1) 韓国語ⅠB(1) ドイツ語ⅡA(1) 韓国語ⅡA(1) ドイツ語ⅡB(1) 韓国語ⅡB(1) フランス語ⅠA(1) フランス語ⅠB(1) フランス語ⅡA(1) フランス語ⅡB(1) 中国語ⅠA(1) 中国語ⅠB(1) 中国語ⅡA(1) 中国語ⅡB(1) ロシア語ⅠA(1) ロシア語ⅠB(1) ロシア語ⅡA(1) ロシア語ⅡB(1)								
			※いずれか１外国語 4 単位								4 単位
		選択			英語ⅢA(1) スペイン語ⅢA(1) 英語ⅢB(1) スペイン語ⅢB(1) 英語ⅣA(1) スペイン語ⅣA(1) 英語ⅣB(1) スペイン語ⅣB(1) ドイツ語ⅢA(1) 韓国語ⅢA(1) ドイツ語ⅢB(1) 韓国語ⅢB(1) ドイツ語ⅣA(1) 韓国語ⅣA(1) ドイツ語ⅣB(1) 韓国語ⅣB(1) フランス語ⅢA(1) フランス語ⅢB(1) フランス語ⅣA(1) フランス語ⅣB(1) 中国語ⅢA(1) 中国語ⅢB(1) 中国語ⅣA(1) 中国語ⅣB(1) ロシア語ⅢA(1)* ロシア語ⅢB(1)* ロシア語ⅣA(1)* ロシア語ⅣB(1)*						
	保健体育	選択必修	健康科学A(講義)(2) 健康科学BⅠ(実技)(1) 健康科学BⅡ(実技)(1)								2 単位
	キャリア形成科目	選択	キャリアデザイン論Ⅰ(2)		キャリアデザイン論Ⅱ(2)		キャリアデザイン論Ⅲ(2) 福祉キャリア特講Ⅰ(1) 福祉キャリア特講Ⅱ(1) 国際試験対策講座Ⅰ(1)◇ 国際試験対策講座Ⅱ(1)◇				
	選択		共通教育科目の中から						2 単位		
留 学 生 対 象 科 目	選択	日本語ⅠA(1) 日本語ⅠB(1) 日本語ⅡA(1) 日本語ⅡB(1) ※外国語科目として振り替えることができる。		日本語ⅢA(1) 日本語ⅢB(1) 日本語ⅣA(1) 日本語ⅣB(1)							
		日本事情ⅠA(2) 日本事情ⅠB(2) 日本事情ⅡA(2) 日本事情ⅡB(2) 日本事情ⅢA(2) 日本事情ⅢB(2)		※共通教育科目の人文系の科目 2 単位として振り替えることができる。 ※共通教育科目の人文系の科目 2 単位として振り替えることができる。 ※共通教育科目の社会科学の科目 2 単位として振り替えることができる。 ※共通教育科目の社会科学の科目 2 単位として振り替えることができる。 ※共通教育科目の自然科学の科目 2 単位として振り替えることができる。 ※共通教育科目の自然科学の科目 2 単位として振り替えることができる。							
		日本文化演習ⅠA(1) 日本文化演習ⅠB(1) 日本文化演習ⅡA(1) 日本文化演習ⅡB(1)		※共通教育科目の総合科目として振り替えることができる。							
自由選択科目		その他すべての科目の中から								12 単位	
合　計		学部専修群科目(90 単位)＋共通教育科目(22 単位)＋自由選択科目(12 単位)								124 単位	

(注) *印の開設科目は、本年度開講しません。

- (注) 1. 上学年次に開設されている授業科目の履修はできません。
2. △印の授業科目は、社会福祉士養成課程の履修許可者のみ、◎印の授業科目は、スクールソーシャルワーカー養成課程の履修許可者のみ、▽印の授業科目は保育士養成課程履修の履修許可者のみ、□印の授業科目は幼稚園教員養成課程の履修許可者のみを対象とした科目です。
3. その他、「授業科目履修規程」「保育士養成課程履修に関する規程」「幼稚園教員養成課程履修に関する規程」「社会福祉士養成課程履修に関する規程」「スクールソーシャルワーカー養成課程履修に関する規程」等を熟読のうえ、間違のないように履修してください。
4. 授業科目の後に◇印を付したものは、臨時開設科目です。

ライフ・ウェルネス学科卒業要件および開設科目一覧

令和 7 (’25) 年度入学生

(注) *印の開設科目は、本年度開講しません。

ライフ 1 年次

群 (分野)	選 必 択 別 修		基礎科目 (1 年次)	発展科目 (2 年次)	応用科目 (3・4 年次)		卒業に必要な 単 位	
			科 目 (単位)	科 目 (単位)	科 目 (単位)			
学 部 専 修 科 目	基本科目Ⅰ	必修	基礎演習(2) ライフ・ウェルネス入門(2)	発展演習(2) スポーツ・ウェルネス論(2)	ライフ・ウェルネス演習Ⅰ(2) ウェルネス・プロモーション論Ⅰ(2) ウェルネス・プロモーション論Ⅱ(2)		14 単位	
			4 単位	4 単位	6 単位			
	基本科目Ⅱ	選択必修			※4 年次開設 卒業論文(4) ライフ・ウェルネス演習Ⅱ(2) ライフ・ウェルネス演習Ⅲ(2)		4 単位	
			※(ライフ・ウェルネス演習Ⅱとライフ・ウェルネス演習Ⅲ) あるいは卒業論文のいずれか4 単位					
	第一群	ライフ・ウェルネス専門科目	選択必修	アダプティッド・スポーツ論(2) 倫理とライフ・ウェルネス(2) コーチング論(2) 生理学(運動生理学を含む)(2) 衛生学(公衆衛生学を含む)(2) 解剖学(2) 健康支援概論(2) スポーツと地域政策(2) 社会福祉原論Ⅰ(2) 社会福祉原論Ⅱ(2) ソーシャルワーク論(2) ソーシャルワークの基盤と専門職(2) 医学一般(2) 社会学概論Ⅰ(2) 心理学Ⅰ(2)	スポーツ統計学(2)＊ ヘルスアンドウェルネス(2) 地域スポーツとビジネス(2) 健康体力づくり論(2) 運動学(運動方法学を含む)(2) スポーツ心理学(2) 運動処方(2) 測定評価(2) 公的扶助論(2) 保健医療と福祉(2) 高齢者福祉論(2) 障害児・者福祉論(2) ソーシャルワーク方法論Ⅰ(2) ソーシャルワーク方法論Ⅱ(2) ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ(2) 地域福祉論Ⅰ(2) 地域福祉論Ⅱ(2) 子ども家庭福祉論Ⅰ(2) 社会福祉調査(2) スクールソーシャルワーク論(2)	救急処置と運動負荷試験(2) 栄養学(2) 学校保健(2) スポーツマネジメント(2) 社会保障論Ⅰ(2) 社会保障論Ⅱ(2) ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ(2) 福祉管理運営論(2) 権利擁護と成年後見制度(2) 刑事司法と福祉(2) 精神保健学Ⅰ(2) 精神保健学Ⅱ(2)		24 単位
				24 単位				
第二群	ソーシャル・ウェルフェア系科目	選択必修	レクリエーション概論(2) ボランティア論(2) 社会学概論Ⅱ(2) 心理学Ⅱ(2) 手話Ⅰ(2) 手話Ⅱ(2) 点字Ⅰ(2) 点字Ⅱ(2) 発達心理学(2) 日本国憲法(2) 統計学(2) 情報処理入門(2) 生活環境論(2) 文章論(作文・レポート・論文・新聞)(4)	経済原論Ⅰ(2)＊ 経済原論Ⅱ(2)＊ 海外フィールドワーク(1) 社会福祉発達史Ⅰ(2) 社会福祉発達史Ⅱ(2) 子ども家庭福祉論Ⅱ(2) 障害者の生活と法制度(2) 社会心理学Ⅰ(2) 社会心理学Ⅱ(2) 憲法Ⅰ(統治論)(2) 憲法Ⅱ(人権論)(2) 民法Ⅰ(2) 民法Ⅱ(2) 芸術療法入門(2) ハンセン病講義(2)＊ 〔放送大学〕	子ども家庭支援論(2) 国際福祉論(2) 社会福祉法制Ⅰ(2) 社会福祉法制Ⅱ(2) 外書講読Ⅰ(2) 外書講読Ⅱ(2) 社会政策Ⅰ(2)＊ 社会政策Ⅱ(2)＊ 現代行政論(2)＊ 家族と法(2) ジェンダーと法(2) 家族社会学Ⅰ(2) 家族社会学Ⅱ(2) 地域づくりとバリアフリー(2) 水俣学(2) 現代の福祉国家(2)＊ 地域社会学Ⅰ(2) 地域社会学Ⅱ(2) リハビリテーション論(2)＊	情報メディア論Ⅰ(2) 情報メディア論Ⅱ(2)	14 単位	
			14 単位					
	ウェルネス・プラクティス系科目	選択必修	スポーツ指導法実習(水泳)Ⅰ) 武道指導法実習(柔道)Ⅰ(1) 武道指導法実習(柔道)Ⅱ(1) スポーツ指導法実習(ダンス)Ⅰ(1) スポーツ指導法実習(ダンス)Ⅱ(1) スポーツ指導法実習(器械運動)(1) スポーツ指導法実習(陸上競技)Ⅰ(1) スポーツ指導法実習(陸上競技)Ⅱ(1) アダプティッド・スポーツ実技(1)	スポーツ指導法実習(ネット型)(1) スポーツ指導法実習(ゴール型)(1) スポーツ指導法実習(ベースボール型)(1) スポーツ指導法実習(スキー)(1)＊ レクリエーション指導法実習A(1) レクリエーション指導法実習B(1)	野外活動指導法実習(キャンプ)(1)＊ 地域スポーツ指導法実習Ⅰ(1) 地域スポーツ指導法実習Ⅱ(1) レジスタンストレーニング(1) 健康体力づくり実習(1) 健康産業施設等現場実習(1)	7 単位		
7 単位								
第三群	資格関連科目	選択	ソーシャルワーク演習Ⅰ)△ ソーシャルワーク演習(専門)Ⅰ(1)△ ソーシャルワーク演習(専門)Ⅱ(1)△ ソーシャルワーク実習指導Ⅰ(1)△ ソーシャルワーク実習Ⅰ(1)△	ソーシャルワーク演習(専門)Ⅲ(1)△ ソーシャルワーク演習(専門)Ⅳ(1)△ ソーシャルワーク実習指導Ⅱ(1)△ ソーシャルワーク実習指導Ⅲ(1)△ ソーシャルワーク実習Ⅱ(2)△ ソーシャルワーク実習Ⅲ(2)△ スクールソーシャルワーク演習(1)◎ スクールソーシャルワーク実習指導(1)◎ スクールソーシャルワーク実習(2)◎				

群 (分野)	選 必 別 修		基礎科目（１年次）		発展科目（２年次）		応用科目（３・４年次）		卒業に必要な 単 位		
			科　目（単位）		科　目（単位）		科　目（単位）				
共通教育科目	基礎学術科目	情報科目	必修	数理・データサイエンス・AI入門(2)					2 単位		
		人文学	選択必修	哲学Ⅰ(2) 地理学Ⅰ(2) 哲学Ⅱ(2) 地理学Ⅱ(2) 倫理学Ⅰ(2) 文化人類学Ⅰ(2) 倫理学Ⅱ(2) 文化人類学Ⅱ(2) 日本史学Ⅰ(2) 日本文学Ⅰ(2) 日本史学Ⅱ(2) 日本文学Ⅱ(2) 西洋史学Ⅰ(2) 日本語Ⅰ(2) 西洋史学Ⅱ(2) 日本語Ⅱ(2) 東洋史学Ⅰ(2) 東洋史学Ⅱ(2)					4 単位		
				社会科学	選択必修	経済学Ⅰ(2) 教育学Ⅰ(2) 経済学Ⅱ(2)* 教育学Ⅱ(2) 法学Ⅰ(2) 部落解放論Ⅰ(2) 法学Ⅱ(2) 部落解放論Ⅱ(2) 政治学Ⅰ(2) 政治学Ⅱ(2)					4 単位
						自然科学	選択必修	物理学Ⅰ(2) 地学Ⅰ(2) 物理学Ⅱ(2) 地学Ⅱ(2) 化学Ⅰ(2) 数学Ⅰ(2) 化学Ⅱ(2) 数学Ⅱ(2) 生物学Ⅰ(2) 生物学Ⅱ(2)			
	総合科目	選択			比較文化論Ⅰ(2) 行政法Ⅰ(2)* 比較文化論Ⅱ(2) 行政法Ⅱ(2)* 環境論Ⅰ(2) 刑法(2)* 環境論Ⅱ(2) 労働法(2) 財政学Ⅰ(2)* 財政学Ⅱ(2)*						
	外国語科目	選択必修	英語ⅠA(1) ロシア語ⅠA(1) 英語ⅠB(1) ロシア語ⅠB(1) 英語ⅡA(1) ロシア語ⅡA(1) 英語ⅡB(1) ロシア語ⅡB(1) ドイツ語ⅠA(1) スペイン語ⅠA(1) ドイツ語ⅠB(1) スペイン語ⅠB(1) ドイツ語ⅡA(1) スペイン語ⅡA(1) ドイツ語ⅡB(1) スペイン語ⅡB(1) フランス語ⅠA(1) 韓国語ⅠA(1) フランス語ⅠB(1) 韓国語ⅠB(1) フランス語ⅡA(1) 韓国語ⅡA(1) フランス語ⅡB(1) 韓国語ⅡB(1) 中国語ⅠA(1) 中国語ⅠB(1) 中国語ⅡA(1) 中国語ⅡB(1) ※いずれか1外国語 4 単位					4 単位			
			選択	英語ⅢA(1) ロシア語ⅢA(1)* 英語ⅢB(1) ロシア語ⅢB(1)* 英語ⅣA(1) ロシア語ⅣA(1)* 英語ⅣB(1) ロシア語ⅣB(1)* ドイツ語ⅢA(1) スペイン語ⅢA(1) ドイツ語ⅢB(1) スペイン語ⅢB(1) ドイツ語ⅣA(1) スペイン語ⅣA(1) ドイツ語ⅣB(1) スペイン語ⅣB(1) フランス語ⅢA(1) 韓国語ⅢA(1) フランス語ⅢB(1) 韓国語ⅢB(1) フランス語ⅣA(1) 韓国語ⅣA(1) フランス語ⅣB(1) 韓国語ⅣB(1) 中国語ⅢA(1) 中国語ⅢB(1) 中国語ⅣA(1) 中国語ⅣB(1)							
		保健体育		選択必修	健康科学A(講義)(2) 健康科学BⅠ(実技)(1) 健康科学BⅡ(実技)(1)					2 単位	
	形成キャリア科目	選択	キャリアデザイン論Ⅰ(2)		キャリアデザイン論Ⅱ(2)	キャリアデザイン論Ⅲ(2) 福祉キャリア特講Ⅰ(1) 福祉キャリア特講Ⅱ(1) 国家試験対策講座Ⅰ(1)◇ 国家試験対策講座Ⅱ(1)◇					
	選 択		共通教育科目の中から					8 単位			
留学生対象科目		選択	日本語ⅠA(1) 日本語ⅢA(1) 日本語ⅠB(1) 日本語ⅢB(1) 日本語ⅡA(1) 日本語ⅣA(1) 日本語ⅡB(1) 日本語ⅣB(1) ※外国語科目として振り替えることができる。 日本事情ⅠA(2) } ※共通教育科目の人文系の科目 2 単位として振り替えることができる。 日本事情ⅠB(2) } ※共通教育科目の人文系の科目 2 単位として振り替えることができる。 日本事情ⅡA(2) } ※共通教育科目の社会科学の科目 2 単位として振り替えることができる。 日本事情ⅡB(2) } ※共通教育科目の社会科学の科目 2 単位として振り替えることができる。 日本事情ⅢA(2) } ※共通教育科目の自然科学の科目 2 単位として振り替えることができる。 日本事情ⅢB(2) } ※共通教育科目の自然科学の科目 2 単位として振り替えることができる。 日本文化演習ⅠA(1) 日本文化演習ⅠB(1) } ※共通教育科目の総合科目として振り替えることができる。 日本文化演習ⅡA(1) 日本文化演習ⅡB(1)								
自由選択科目		その他すべての科目の中から					33 単位				
合 計		学部専修科目(63単位)＋共通教育科目(28単位)＋自由選択科目(33単位)					124 単位				

(注) 1. 1学年次開設されている授業科目の履修はできません。
 2. △印の授業科目は、社会福祉士養成課程の履修許可者のみ、◎印の授業科目は、スクールソーシャルワーカー養成課程の履修許可者のみを対象とした科目です。
 3. その他、履修方法の詳細については、「授業科目履修規程」「教職課程履修に関する規程」「社会福祉士養成課程履修に関する規程」「スクールソーシャルワーカー養成課程履修に関する規程」等を熟読のうえ、間違いのないように履修してください。
 4. 授業科目の後に◇印を付したものは、臨時開設科目です。

(注) *印の開設科目は、本年度開講しません。

熊本学園大学数理・データサイエンス・AI 教育推進委員会規程

(設置)

第1条 本学における数理・データサイエンス・AI 教育を全学的に推進するため、数理・データサイエンス・AI 教育推進委員会（以下、「委員会」という。）を置く。

(目的)

第2条 委員会は、文部科学省が推進する「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度」の趣旨を踏まえ、数理・データサイエンス・AI の基礎的なリテラシー及び応用能力を体系的に修得させる教育の改善や推進を目的とする。

2 数理・データサイエンス・AI 教育の推進に関する重要事項及び対外的な公表事項は、委員会及び教授会の議を経て、学長が決定する。

(所掌事項)

第3条 委員会は、前条の目的を達成するため、次の事項を所掌する。

- (1) 数理・データサイエンス・AI 教育の全学的な基本方針及び実施計画に関すること。
- (2) 数理・データサイエンス・AI 教育の教育プログラム及びカリキュラムの企画、検討及び実施に関すること。
- (3) 学内関係部署、学部等との連絡調整に関すること。
- (4) 数理・データサイエンス・AI 教育の普及啓発及び広報に関すること。
- (5) その他、数理・データサイエンス・AI 教育の推進に関し必要な事項。

(組織)

第4条 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 教務部長
- (2) 全学共通教育科目「数理・データサイエンス・AI 入門」の担当者
- (3) その他、委員長が必要と認めた者

2 委員長は、前項第2号の委員の互選をもって、これに充てる。

(任期)

第5条 委員長及び委員の任期は、当該年度の4月1日から当該年度の3月31日までとする。

(委員長)

第6条 委員長は、本委員会を統括し、委員会を代表する。

2 委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、あらかじめ委員長が指名した委員がその職務を代行する。

(議事)

第7条 委員会の議事は、委員長が招集する会議により行う。委員長は、その会議の議長となる。

2 第1項の会議は、委員の過半数の出席をもって成立する。

3 会議の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

4 委員長は、必要に応じ、委員以外の者を会議に出席させ、その意見を聴くことができる。

(事務)

第8条 委員会に関する事務は、教務課が行う。

(改廃)

第9条 この規程の改廃は、委員会及び教授会の議を経て、学長が行う。

附則

1 本規程は、令和8年2月4日から施行する。

2 令和7年度に限り、第4条第1項第2号に定める委員及び第4条第2項に定める委員長の任期は、第5条の規定にかかわらず、令和8年2月4日から令和8年3月31日までとする。

熊本学園大学数理・データサイエンス・AI 教育推進委員会規程

(設置)

第1条 本学における数理・データサイエンス・AI 教育を全学的に推進するため、数理・データサイエンス・AI 教育推進委員会（以下、「委員会」という。）を置く。

(目的)

第2条 委員会は、文部科学省が推進する「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度」の趣旨を踏まえ、数理・データサイエンス・AI の基礎的なリテラシー及び応用能力を体系的に修得させる教育の改善や推進を目的とする。

2 数理・データサイエンス・AI 教育の推進に関する重要事項及び対外的な公表事項は、委員会及び教授会の議を経て、学長が決定する。

(所掌事項)

第3条 委員会は、前条の目的を達成するため、次の事項を所掌する。

- (1) 数理・データサイエンス・AI 教育の全学的な基本方針及び実施計画に関すること。
- (2) 数理・データサイエンス・AI 教育の教育プログラム及びカリキュラムの企画、検討及び実施に関すること。
- (3) 学内関係部署、学部等との連絡調整に関すること。
- (4) 数理・データサイエンス・AI 教育の普及啓発及び広報に関すること。
- (5) その他、数理・データサイエンス・AI 教育の推進に関し必要な事項。

(組織)

第4条 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 教務部長
- (2) 全学共通教育科目「数理・データサイエンス・AI 入門」の担当者
- (3) その他、委員長が必要と認めた者

2 委員長は、前項第2号の委員の互選をもって、これに充てる。

(任期)

第5条 委員長及び委員の任期は、当該年度の4月1日から当該年度の3月31日までとする。

(委員長)

第6条 委員長は、本委員会を統括し、委員会を代表する。

2 委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、あらかじめ委員長が指名した委員がその職務を代行する。

(議事)

第7条 委員会の議事は、委員長が招集する会議により行う。委員長は、その会議の議長となる。

2 第1項の会議は、委員の過半数の出席をもって成立する。

3 会議の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

4 委員長は、必要に応じ、委員以外の者を会議に出席させ、その意見を聴くことができる。

(事務)

第8条 委員会に関する事務は、教務課が行う。

(改廃)

第9条 この規程の改廃は、委員会及び教授会の議を経て、学長がこれを行う。

附則

1 本規程は、令和8年2月4日から施行する。

2 令和7年度に限り、第4条第1項第2号に定める委員及び第4条第2項に定める委員長の任期は、第5条の規定にかかわらず、令和8年2月4日から令和8年3月31日までとする。

大学等名	熊本学園大学	申請レベル	リテラシーレベル
教育プログラム名	熊本学園大学数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）	申請年度	令和8年度

取組概要

①プログラムの目的

Society 5.0における経済発展と社会課題解決の両立を目指し、数理・データサイエンス、AIの基礎知識と技術を修得する入門科目である。実社会の活用事例を通じてデータ駆動型社会の重要性を体感する。講義での学びを起点に専門性を深め、将来にわたり主体的に学び続ける実践力を養うことを目的とする。

②身に付けられる能力

社会での活用：Society 5.0におけるデータサイエンス・AIの役割と実例を理解し、その重要性を説明できる。

倫理と留意点：情報セキュリティや倫理（ELSI）、生成AIのリスクや偏りを理解し説明できる。

データ活用：統計や機械学習の基礎を基に、表計算ソフト等を用いてデータを適切に分析・解釈できる。

学びの姿勢：修得した知識を自身の専門分野と結びつけ、主体的に学び続ける意欲を身に付けている。

③開講されている科目の構成

必修科目「数理・データサイエンス・AI入門」
2単位
秋学期
オンデマンド形式

④修了要件

「数理・データサイエンス・AI入門」の修得

令和7年度より全学部対象
1年次必修

運営体制

【数理・データサイエンス・AI教育推進委員会】

委員長：得重 仁（商学部教授）
組織：教務部長、「数理・データサイエンス・AI入門」担当教員

目的

文部科学省が推進する「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」の趣旨を踏まえ、基礎的なリテラシー及び応用能力を体系的に修得させる教育の改善や推進

所掌事項

- (1) 全学的な基本方針及び実施計画
- (2) 教育プログラム及びカリキュラムの企画・検討・実施
- (3) 学内関係部署との連絡調整
- (4) 普及啓発及び広報
- (5) その他推進に関する事項

【全学教育科目運営委員会情報系列DSグループ】

組織：「数理・データサイエンス・AI入門」担当可能教員
役割：「数理・データサイエンス・AI入門」の実施
(1)科目の運営・管理
(2)授業内容の企画・調整
(3)学修支援の実施
(4)学生の進捗管理
(5)教育品質の維持・向上

